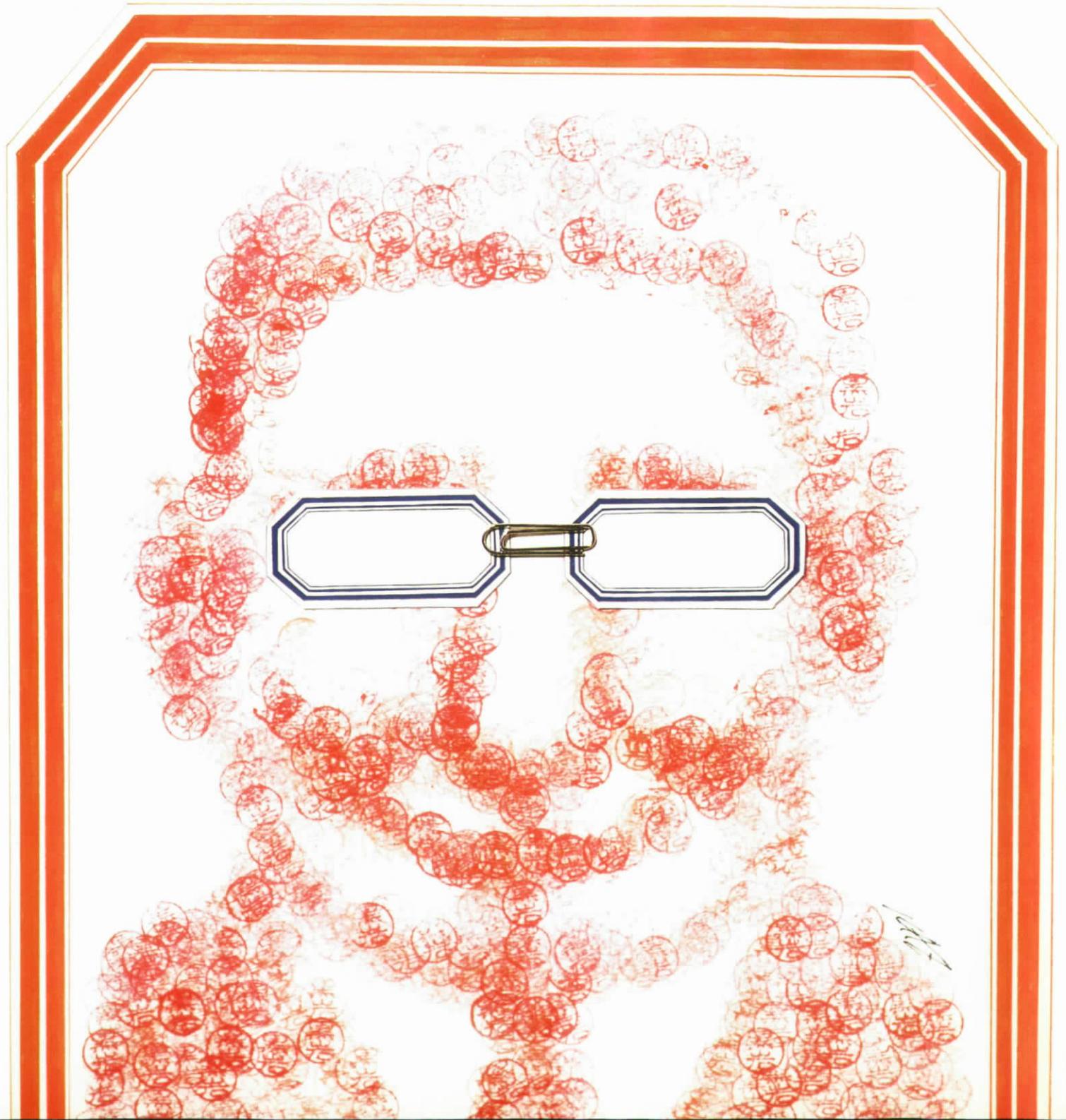


21世紀フォーラム

第 13 号





◆冬から◆

興味を持つことを忘れてしまった／橋口收	2
弱者の場所／坪内ミキ子	3
イスラエルは今…／木元教子	4
最近思うこと／三村忠良	5
私の近況／三枝佐枝子・中村元・深海博明	6
2001年文庫『イスラムの核爆弾』	8
長期エネルギー需給見通しについて／高橋宏	10
忘れてないか—石油は日本の命綱／富舘孝夫	14
クオ ヴァディス オッペク／奥山晃希	18
用語でみるうごき	20
部会メンバー・アンケート回答『道楽』	24
人を楽しませる道楽／佐々木信也	28
道楽は人生のカンフル／天地総子	29
対談道楽あれこれ／向坊隆／中根千枝	30
体験的道楽論／村上兵衛	34
「オイチョカブ」と「メダカ」／尾関通允	37
対談聖域としての道楽／加藤秀俊／小松左京	38
日米関係とサミット／本間長世	42
行政改革雑談／河合三良	44
政策科学研究所／オホーツク・アカデミア構想	46
小松左京部会報告／大正文化研究	48
部会報告	52
2001年文庫『ノーメンクラトゥーラ』	54
新メンバー紹介／黒川和哉さん・松平定知さん・神崎宣武さん	54
21世紀フォーラム部会メンバー	56

興味を持つことを忘れてしまった

橋口 收 公正取引委員会委員長／茅 誠司部会

「最近興味をもったこと」についてなにか書けという要請をうけて、しばらく考えていて、愕然とした。

それは、最近とくに興味をもったことがあまりないらしく、いくら想い出そうと思っても想い出せないことである。これは、たいへんなことである。

私じしんが、なにもしないでブラブラしていたり、病気で寝ているのならまだいいが、とにかくまいにち社会的に活動していて、それでも興味をもつ対象や出来ごとがほとんどないとなると、これは容易ならぬ事態である。仕事の領域でもいいし、趣味の分野でも、人間や動物、山川草木、なんでもいいから、なにか興味をもつことがあるだろう、よく考えてみると自分にいきかせるのだが、かなしいことになかなかでてこない。

むかしのこと、「あの人は、すべてに興味を失ったような人だなア」などという、適切な表現をきいて、なるほどと思いつながら、他人ごとのように思っていたが、どうだろう、こんどは自分じしんが、そんな状態になつてい

るのである。いつてみれば、精神的な腑抜けみたいになっているのである。

しかし、ここですこしおことわりをしておかなければならない。というのは、それではすべてのことにまったく興味を失ったのかというところではなく、けっこうテレビは見るし、朝早くおきて庭の草木のめんどろはみるし、酒を飲めばけっこうオダはあげるし、展覧会や音楽会についてひととおり感激はするし、ゴルフもやれば、本も読むし、それ相應に仕事もやっていると。こうしてみれば、社会人として平均水準のところへはいつているのである。

問題は、それからさきである。それもこれもが、ひととおりの満足感であり、充実感なのである。胸にグツとくるものがない。また、ナニオと思うこともない。イギリスとアルゼンチンのフォークランド紛争を聞いてもそうだし、ポーランドの悲境を思ってもそうだし、展覧会を見てもおなじだし、ゴルフをやってもさしたる感慨がない。

むかし年寄りじみたことを口にする友だち

が、「オレはまだ若いな。こんなことで感激したり、映画を見て泣いたりするから」などといっていたが、私みたいに、六十の坂をこえたと、ほんとうに、感激の対象や出来ごとはなくなるのだろうか。

このことをある人にはなしたら、「中だるみですな」といわれたが、そういうこともあるかもしれない。ひとことといえ、なんとなく気の乗らない、スランプの状態ということかもしれない。やがて、精神の高揚期がきて、あたらしいことに猛烈に興味をもつたり、あたらしい発見をして、大いに興奮することもおこるかもしれない。

しかし、私じしん、そうなるかどうかには不安があるだけでなく、世の中ぜんたいが、ことに若い人が、ものごとにあまり興味をもたなくなっているのではないかと少々心配である。つまり、軽い態度の好奇心はあるにしても、持続して、執拗に、あることに興味をもちつづける習慣が一般になくなってきているのではないかと、気になって仕方がない。

一例を挙げよう。いまは、不況だといひ、

低成長だという。商品が売れないし、大型連休でも、あまり遠いところにはいかないで、小さく固まる傾向があるという。それはそうだろう。衣類に飽き、食物に堪能し、旅行もしつづけては、それこそ湧きあがるような興味や好奇心のとりこになることはないだろう。先進国ぜんたいが、なにか興味を失って、静かに老成しつつあることが、こんにちの経済的困惑の根源だろう。

そうだとすれば、私ごときの精神的倦怠感のごときは、大したことはない。民族や国民の興味をかきたてるようなできごとがなければ、興味喪失症候群は、なかなかなくなるないだろうし、したがって経済の停滞も解消されないだろう。

しかし、だからといって、それが国際緊張の継続や戦争であつては、たまらない。精神世界でも、物質面でもなんでもいいが、われわれが一身を賭けても悔いしないようなロマンはないものだろうか。

弱者の場所

坪内ミキ子 俳優／加藤芳郎部会

ゴールデンウィーク明けの六日、九十四才になる父を連れて東大病院へ行った。あきらかに混むであろう連休あけに行かなくてもよさそうなのだが、デパートに買い物に行くのとは訳が違い、好んで出かけて行ったわけではない。父の場合は泌尿器科でカテーテルを二週間毎に交換しなくてはならないし薬もされている。どうしても行かなくてはならなかったのだ。

他の患者さんにもみんな似たような理由があるのだろう。覚悟はしていたがまず玄関、いつもは十台位ある車椅子が見事に一つもない。仕方なくそりそりと三階へ。再診の手続きをする事務センターは、四つの窓口とも長蛇の列。ようやくカルテをもらって、診察してもらうまでが又行列。終って一階の会計センターへ。名前を呼ばれる迄、空席どころか立って待つ所もない。

そしてやっと手にした薬の引き換え券を持って今度は地下の薬剤部へ。五月からシステムが変わりまして、ややこしい手続きがあった、薬を受け取るまでが又大変。それでも父

には、幸いに車があるし、運転出来る娘が付添って来れるし、しかも家から十五分位で来ることが出来るからいいようなものの、付添ってくれる人もなく、一時間もかかって来て、具合の悪い身体で、三階だ一階だとかけまわり、腰かけることも出来なかつたらどんなに辛いだろう。

となりに並んでいた初老の紳士がつぶやいていた。こんな、あち行ったりこち行ったり、上ったり下ったり、目がまわるよ、病人の来る所じやないよ全く。血圧が高いから、ホント目がまわるよ。

どこか悪いから病院に来る人ばかり。中には歩行困難の方、目の不自由な方、耳の遠い方——とても一人では手続きは無理だと思われる方も多く見受けける。友人だろうか付添っている方も同じような老人で、わけが判らなただ二人でウロウロしている組もあれば、夫に付添う妻も腰が曲って、二人で支え合っかかるように歩いている組もある。私に力と時間と勇気があれば、そんな方達の分も全部引き受けてあげたいとさえ思う。でも実のこ

ろ私だつてたくただし、仕事の時間は迫るし、人をおしのけても早く坐りたい、早くすませたいと思っているのである。せいぜい、落ちたステッキを拾ってあげたり、白い杖の方の腕をとってあげるくらいの事しか出来はしない。

連休明けは確かに普段の何割増かは混むしタイミングも悪いが、平常時だって、病院という所は、いつもこんでいて、手続きがめんどうなものや相場が決まっている。東大病院に限らず、私の経験した限りでは、VIP待遇の方はいざ知らず、大病院は大体似たようなシステムであり、状態である。

弱者の最も多く集る病院ですらこうである。何らかのハンディキャップを持つ身になったと仮定して、今の社会をながめてみると、あなた達の出で来る所じやない。家に引っこないないさいよ”という街のコーラスが聞えて来そうである。超高層ビル、延々と広がる地下街、高速道路：みんなこの国の繁栄を象徴するものだけれど、この合理化された近代文明社会は健康な若い人のためのもので、身障

者や、病人、老人には無縁なのではないだろうか。

細い道でもおかまいなしにクラクションだけ鳴らしてスピードを出して走る車、車。乳母車や車椅子ではとうてい渡れない歩道橋、物云わぬ自動販売機だけが並ぶ駅、自動エレベーターの操作が判らなければホテルにも行かない。やっぱり、せまい家の中に閉じこもっているより仕方ない。私は今幸いに健康だが、やがて聴力も視力も衰え年老いたとき、世の中から隔離されて毎日を送る事に耐えていけるだろうか。

医学の進歩で確かに寿命だけはのびたが、ただ生かしておけばいいというわけのものもないと思う。これからは増々高令者が多くなっていくとか。のびる寿命に合せて、それを受け入れる「社会」という器をも何とか形を変えていくべきなのではないか……と最近、思っているのです。

イスラエルは今……

木元教子 放送キャスター／茅 誠司部会

四月二十五日、イスラエルは十五年間占拠しつづけたシナイ半島をエジプトに全面返還した。ダビデの星のイスラエル国旗は、砂の曠野から吹く風に立ち向かいながら女兵士の溢れる涙の中、地上に降りその動きをとめた。

返還の一ヶ月ほど前、私はイスラエルに入った。目的は今のイスラエルを見ることもあ

るが、ドキュメント番組を作るためであった。話は、第二次世界大戦勃発の時にさかのぼる。当時リトアニアの日本領事であった杉原氏が、外務省の訓令に背いてポーランド系ユダヤ人に、日本を通過して外国へ行くビザを発給した。日本は、ユダヤ人を迫害しているドイツと枢軸国であった頃のことだ。命を救われたユダヤ人は約四千九百人。その中にはイスラエル建国を果し、現在要人となっている人もいる。番組はその確認の旅でもあった。イスラエルで、杉原氏は建国における外人功

労者の一人とされていたが、当然のことながらその行為が人道主義にもとづくものであったとは言え、日本では全く評価されていない。さて、シナイ半島返還前の三月十六日、私はエルサレム旧市内の「嘆きの壁」の広場にいた。かつてのユダヤ王国、ソロモン時代の聖なる所であり、その後のヘロデ神殿の西側の壁で、ユダヤ人（ユダヤ教）の祈りの場所である。ここで、シナイ半島返還反対の大集

ムの台頭でパレスチナに帰ることを目的とする。これが建国することであり、シナイ返還反対につながるのだ。

一方、パレスチナは七世紀にイスラムの拡張によりアラブ化していた。その後、セルジュクトルコ、十字軍の征服を受け、十六世紀からオスマントルコの支配となり、キリスト教徒、ユダヤ教の共存となったが、十九世紀、このパレスチナやアラブの地にアラブ民主主義独立運動がおこった。

一九四八年、シオニズムに支えられユダヤ人にするイスラエル建国はなされた。必然的に、パレスチナのアラブ国家を目指すアラブ民族主義者達はこれに反感を持ち、のちのパレスチナ解放の戦いへと大きく発展していく。建国当時、聖地エルサレムはアラブ側、ユダヤ側にわかれ行き来は出来なかったが、一九六七年の六日戦争でイスラエルが全市を占領。現在は、アラブ人（イスラム教徒）、ユダヤ人（ユダヤ教）、キリスト教徒（ギリシヤ正教とアルメニア区）が、居住区をわけて住んでいる。

しかし、ベギンのこの様な状況をふまえてのパレスチナ自治政策（東エルサレム、ヨルダン川西岸、地中海に面しているガザ地帯でアラブ人イスラム教徒による自治）も、

地区の首脳をイスラエルの傀儡へと強引にすげかえたりしたため、私の滞在中も、西岸地区では銃撃戦が行なわれ、エルサレム旧市内

の商店はすべて、イスラエルのパレスチナ自治のやり方に抗議するなめ一週間もストライキに入り、新市内にも爆弾がしかけられ、ついにイスラム教区（アラブ）の黄金のドーム前でも銃撃があり、一般市民を含む死傷者が出た。私も街中で、兵隊に所持品検査をされたり、ボディチェックを受けたりした。

三月三日、テレビはシナイ半島返還問題、パレスチナ自治などの問題で大揺れに揺れる国会の様子を生中継していた。いきなり、ベギン不信任案が出され、選挙による採決。結果は58：58（定員120）。苦悩の中で激しく居直ったベギンの顔が、いつまでもクロージングされていた。PLOのアラファトは今、エジプトをアラブ陣営に引き入れようとし、「パレスチナ建国」へと熱っぽい動きを見せている。これに対しイスラエルは、シナイ後の今、レバノン、シリア（ゴラン高地）で示威的な襲撃を試みている。

「嘆きの壁」のユダヤ人の涙の中でシナイは返還された。しかしイスラエル国内に住み続けるアラブ人の心を大きくとり込んでの、パレスチナの真の自治を求める声は消えない。私がイスラエルを去る日も、ヨルダン放送（テルアビブのテレビ受像機に簡単に入る）は、パレスチナ解放のための戦いを称え、イスラエルのやり方を攻撃し続けていた。電波は国境を越えて入ってくるが、死海をはさむヨルダン国境には地雷が敷設されている。

まさにアラファトの言うように、「これからの中東では、何が起ってもおかしくない」のかもしれない。

最近思ひごと

三村忠良 国鉄資材局計画課長／国際交流研究部会

最近心配しているのは、新聞や政・財界の重要人物主張が或程度のスピードをもって右旋回してきているのではないかとということである。

別に小生は左向きを渴望しているというこゝとでなく心配するのは、日本人の歴史で何回も繰返えされながら未だ十分に解決ささえみつかっていない。自らの力や文化を過信し、強烈な自信過剰の自己主張の時代がしのび足て近寄って来ているのではないかと思うからである。

振り返って日本の歴史を考えると他国の文化や伝統を模範として考えそれを「謙虚に学ぼう」という時代例えば律令時代、オランダ文明を吸収した徳川時代或いは明治時代と、自国の文化や力を自信過剰に主張した時代、例えば秀吉の朝鮮征伐、日清、日露或いは、大東亜共栄圏を主張した第二次世界大戦などの繰返してあった。

このことは日本のみに特有にみられる特異な現象であるとは専門家でない私には断言しえないが、日本人はとも極端から極端

へ全体が走り易い體質を持っているし、それが歴史からみても証明されている以上この傾向は認めざるを得ない。

確かに日本が謙虚な心をもって外国文化を吸収し、持ち前の勤勉さで築いてきた文化や経済力については現在他国からも一定の評価はされている。しかし他方において、過去にもそして現在も自己の力を強力に主張し貫いた結果は敗戦とかその時代の終えんとか必ず悲劇的な結果をもたらしている。

これは見方をかえると明治以来の対外的劣等感とその裏返しともいえる独善的な優越感の繰返しがこの歴史的事実を下支えているように思われる。日本人程他国の人がどう考えているかどう見ているかを気にする国民はないと云われる。これこそ対外劣等感を示すものでありこの典型的話題として貿易摩擦や防衛の問題に対するスタンスが生まれてくるのだと思う。

その際、外国は自国の経済情勢や世界の中における力の均衡等を冷徹な計算をしたうえで主体性をもって主張をし、日本に対する批

判を非常に気にしつつも、内に向つては自信に満ちた右寄りの論理で説得をしその雰囲気づくりをしているのではないかとこの心配である。

これはかねてから日本の外交は、フランスや中国等歴史上からみても外交巧者の国に較べ外交術は劣るだけに防衛、貿易等の問題解決の難しさに更に拍車をかけている。日本の貿易とか防衛問題を外国に理解と認識を求めするためには、単に現在日本の置かれている立場等を詳しく説明するだけでは十分でなく、もつと力の均衡とか経済情勢の主体的判断とか計算に裏打ちされた主張と日本人が過去において何回も犯して来た強力な自己主張の結果起きた悲劇の反省のうえに立った外交が必要であろうと考える。

もつとも現在先進国が軒なみ陥っているオイルショック以降の経済的低迷状態を最も巧みに切りぬけ、経済的安定状態にある日本であるので窮境を脱する活力はもっているものと信じてはいるが、人間の気質とか国民性というものは、或る意味で身体にしみついたも

のであるが故になかなか矯正が難しいのも事実である。

従つて、自由が十分保証されているこの日本のことであるから、フランスのとれた歴史に裏づけされた世論が常に存在し続けることが過去の誤ちを犯させないために重要なことだと思ふ今日此頃である。

私の近況

原子力発電と合意形成

三枝佐枝子

評論家・商品科学研究所所長／茅誠司部会



過日私は、思いがけないことから原子力産業会議のシンポジウムに参加した。テーマは「原子力発電と合意形成」という大変むずかしい問題である。しかも私は議長役というこ

とで、大任の重みに耐えかねる気持ちで参加したものであった。考えてみれば私自身は、かつて関西電力関係の原子力発電所やその設定予定地を見学して、現地の方々のお話を伺ったこともあるし、また茅誠司先生の部会での原発の見学会にも

参加させていただいてきた。そして、その場合いつも心にかかったのは、この建設側と一般市民との合意形成の問題であった。

原発については、まだまだ人々の心にはたくさんの疑惑が残されているし、たとえ小さな事故でも起ると、地元の人たちばかりでなく、一般の市民の心も動揺する。また、日本のエネルギー問題の将来を思えば原発は必要であると理解している人であっても、なぜ消費地に供給するために自分の住む土地がその立地の場

場に選ばなければならないのかという疑問は、ぬぐい去ることはできないようだ。今度のシンポジウムは、さまざまな立場の方が、きわめて率直に意見を述べ合ったという点では、私の司会の不手際にもかかわらず、ある成果を納めたといつてよいかもしれない。しかし、合意形成の問題は、理論だけが先行

する。その成果として一貫した「人類科学・文化史」が刊行された。(A Scientific and Cultural History of Mankind. Cultural and Scientific Development. 英訳。全14巻。London. George Allen and Unwin. 1963-1966)。

ただ、この巨大な歴史書がはたしてどれだけ読まれたかは疑問である。欧米では相当によく読まれたらしいが、アジア・アフリカ・南米諸国では購入する経済的余裕がないために、読まれもしなかったらしい。日本では、残念ながら影響力皆無に近かったように思われる。

してもだめで、時間をかけて、本当に深い理解が成りたなければならぬことだろうと思う。また、推進者側は、慎重にも慎重な態度で、その実現と、運営を行わなければならないことは言うまでもない。

折しも核兵器反対に対する運動は、世界的に大きく展開されている。この会議の冒頭に有沢廣己会長が、まず、核兵器反対を強く訴えられたことは、この会合を貫く精神として、重要な意味を持つものであると私は思った。

シンポジウムの壇上から客席を見ると、茅先生が熱心に耳を傾けておられるお姿がよく見えた。見学旅行でいつも親切にご指導いただいたことなどを思い起しながら、私は、先生の部会員の一人であることを恥ずかしめないようにと、一層の緊張をせずにはいらなかった。

内容も改めなばならぬし、普及版もつくりたいとの議がユネスコの内部で起こり、昨年九月にパリの本部で編集委員だけの会議が開かれた。

あまり雑用は引き受けたくないが、日本人の委員はわたくし一人ということになると、断れば日本が無視されるのを恐れて、一昨年九月、ともかくパリの会議に出かけてみた。

委員二十七人のうち、黒人とイスラムの学者が相対に多いのは、国連ないしユネスコの性格上当然であろう。実行委員会を編成するに当たり、アジア人は一人にする、という。

私は詰問した。「地球の上の人間の半分がアジアに住んでいるのに、一人で全部扱えます

ユネスコの人類文化史

中村 元

東方学院院长・東京大学名誉教授／松本重治部会

人類の文化を、諸国の区別によらないで一体のものとして扱うということは、現在における至上の課題であろう。

従来の諸国家、諸民族の制約を離れて、一つのまとまった世界史を書くという動きがユネスコの内部に起こった。ユネスコという機関が存在する以上、それは当然のことであ



か？」と。会長は苦笑して、二名に増やしてくれた。

前回の世界史に、黒人たちは一斉に不満をもっている。白人の学者ばかりが執筆して、ヨーロッパ中心であるのは、偏っている、というのである。ある黒人の委員が一時間にわたって滔々と演説した。その趣旨は「人類の起源はアフリカである」ということにつきていた。

イスラムの扱いが難しい。西洋人の目から見ると、十字軍は神聖な宗教戦争であるが、イスラム諸民族から見ると、野蛮人がやってきて高尚な宗教文化を破壊した略奪行為にすぎない。

一九八二年三月二十三日から二十六日まで東京で仏教および東洋思想の部門についての会議を開いたが、左の諸学者が参集された。

Heinz Becher博士(ドイツ、ゲッチンク大学教授)

Walpola Rahula博士(スリランカ、ケラニヤ大学学者)

R. C. Pandeya博士(インド、デリー大学教授)

Alex Warman博士(米国、コロンビア大学教授)

金知見博士(韓国、大韓国伝統仏教研究院院長)

山口瑞鳳博士(日本、東京大学教授)

前田専學博士(日本、東京大学助教授)

いずれも世界的に最高級の碩学であるとともに、人類の文明史において仏教・東洋思想を位置づけ評価することのできる碩学である。今後とも日本や東洋思想について公平で正当な位置づけのなされることを願っている。

ソーラーハウスの生活

深海博明

慶応義塾大学経済学部教授／茅誠司部会

熱効率がよく高温の湯が得られる真空型のコレクターを12個並べ、それにより給湯と暖房(温水床暖房)を行なうもので、1tの貯湯槽をもち、補助熱源としては、ヒートポンプを使用している。

しかしソーラーシステム自体とともに、建物自体をできるだけ断熱していわゆる負荷率を下げるのが重要であろう。窓を二重にし、その大きさも最小限にとどめ、一〇〇ミリの断熱材を張りめぐらす等の工夫をこらしている。さらに半地下にして、そこに書庫や書齋と共に備蓄庫(ただし入っているのは現在主として酒類のみ)を作って、個人レベルでの経済安全保障の確保も志向している。

実際ソーラーハウスに1年以上生活してみて、当初厳寒期凍結防止装置がうまく働かなかつたり、ヒートポンプの騒音問題等のトラ

ブルが続出したが、現在は、経済性の問題を除けば、全く順調・快適であり、4、10月の間はソーラーのみで、あり余るお湯の恵みを満喫している。

もう一つは、本年一月に横浜国立大学の太田時男教授のお伴をして、マイクロネシアのパラオへポルシェ計画(水素エネルギーのための海洋筏計画)の予備調査に出掛けたことだ。自然環境条件は、こうした計画の実現に絶好であるが、その実現のための経済的社会的等の条件の整備が鍵であることを痛感し、1万5千人足らずの島嶼国のあり方についても、深く考えさせられた。



FORUMS

FORUM

特にエネルギー問題に関連しては、2つを報告しておきたい。そのどちらも、とかく日本では学者は象牙の塔にとじこもり、高尚な抽象的理論や立派な建前論ばかりを説き、実践や実行可能性や具体性に裏付けられていないと言いつたに立っていることに対する私なりの挑戦といえよう。

1つは、昨年初めから、ソーラーハウスを新築して生活をしていることだ。といっても冷房までは無理なので、南側の屋根全面に集

『イスラムの核爆弾』

S・ワイスマン 共著
H・クロスニー

大原 進 訳

日本経済新聞社

いま国連の軍縮特別総会議へ向けて、反核の声が世界の各地で潮の寄せるがごとく高まっている。それは同時に米・ソ二超大国の核軍縮交渉への国際的圧力でもあろう。そうしたときに刊行された本書は、まさに現代の衝撃の書といえる。

四六判四八〇ページにもおよぶ部厚い本書を読み通せば、中東における核の拡散は、もはや防ぎようもないほど切端詰った状況にあることを、思い知らされるであろう。

昨年六月八日、世界の人々に大きなショックを与えたイスラエル空軍のイラク原子炉爆撃事件が発生した直後、その事実と背景を十分に織り込んで発表された本書は、二人の米国ジャーナリストの十八ヵ月以上にわたる綿密な調査と数多くの関係者とのインタビューから生み出されたものである。著者らはいずれも国際的なテレビ・プロデューサーであり、これまでもパキスタンの原爆製造計画やパレスチナ解放戦線の問題など、イスラーム圏における軍事政治情勢について、数々の報道実績をもつ人達だが、本書の特色も著者らのテレビ的感覚によるディスプレーによって、



読者に一種の臨場感を与えるところにあるといえるだろう。

パビロン襲撃を報ずる第一部「発端」に始まり、第二部「大きな顔をした国」、第三部「拡散の時代」とその全般的背景を探りつつ、次いで、第四部と第五部で問題の焦点である「パキスタン」と「イラク」の核開発計画の動きをイラストレートし、最後の第六部「夕闇」で核ホロコーストの危険を強く訴えている。

著者らがインタビュした各国の原子力政策担当者の中には、わたしのよく知っている人達も含まれており、それだけに一層興味深いものがある。また以前から取沙汰されているイスラエル自身の核開発或いはリビアの独裁者カダフィの核入手計画なども、果して真か否かその事情が詳しく調べられ、一昨年刊行されたベストセラー「第五の騎手」(ラピエール&コリンズ著、三輪秀彦訳・早川書房)の迫真性をますます高めた感がある。われわれ日本人の多くは、イラクの研究用

2001年文庫

原子炉オシラクについて、イスラエルの攻撃が加えられるまではほとんど知らなかったと思う。もとより国際原子力機関(IAEA)の情報資料などを通じ、フランスが同研究炉を建設し、必要な核燃料を供給することになっているのは知らされていた。が、しかしイラクは核不拡散条約の調印国であり、IAEAのフルスコープ・セーフガードとよばれる保障措置を全面的に受入れていることを承知していれば、イスラエルが国際的非難を敢えて犯してまで原子炉の襲撃破壊を断行した理由には、首をかしげるといえるのが実情であろう。事実、折からウイーンで開催中のIAEA理事会は、直ちにイスラエルを非難する決議を採択している(因みにイスラエルはイラクと異なり核不拡散条約に加盟していない)。

実際にイラクの原子炉を査察した人物が米国会の委員会で重大な証言を行なうに至って、本書の各所で指摘されている問題がクローズアップされてきた。それはIAEAの実施する保障措置が一般に考えられているほど核拡散防止上実効度の高いものではない、という指摘である。

フランスが供給する研究用原子炉で核兵器用高濃縮ウランまたはプルトニウムを得ようとするには、未使用の燃料要素からウラン二三五を分離するか、或いは原子炉の試験孔に天然ウランを装荷して、それからやがて生成されるプルトニウムを分離するであろう。イスラエル空軍の襲撃時には、まだフランスから燃料要素は持込まれていなかったし、プルトニウムを分離するのに必要な施設(ホットケープ)がどの程度機能するようになっていたか明らかでない。

もつともこの証言を直ちに顔面通り受取るには疑問を感じる。いかなる国際的取決めに於いても、大事なものはその制度を生かさうとする精神であり当事国の努力だと思うからである。一九七八年から二年半に及んだ国際核燃料サイクル評価作業の結果も、核拡散を防止するのは技術ではなく政治であること。また核不拡散と原子力平和利用とは両立し得るものであることを明らかにした。その場合の鍵となるのは、IAEAの保障措置の充実であり、国際プルトニウム貯蔵(IPSS)などの確立である。

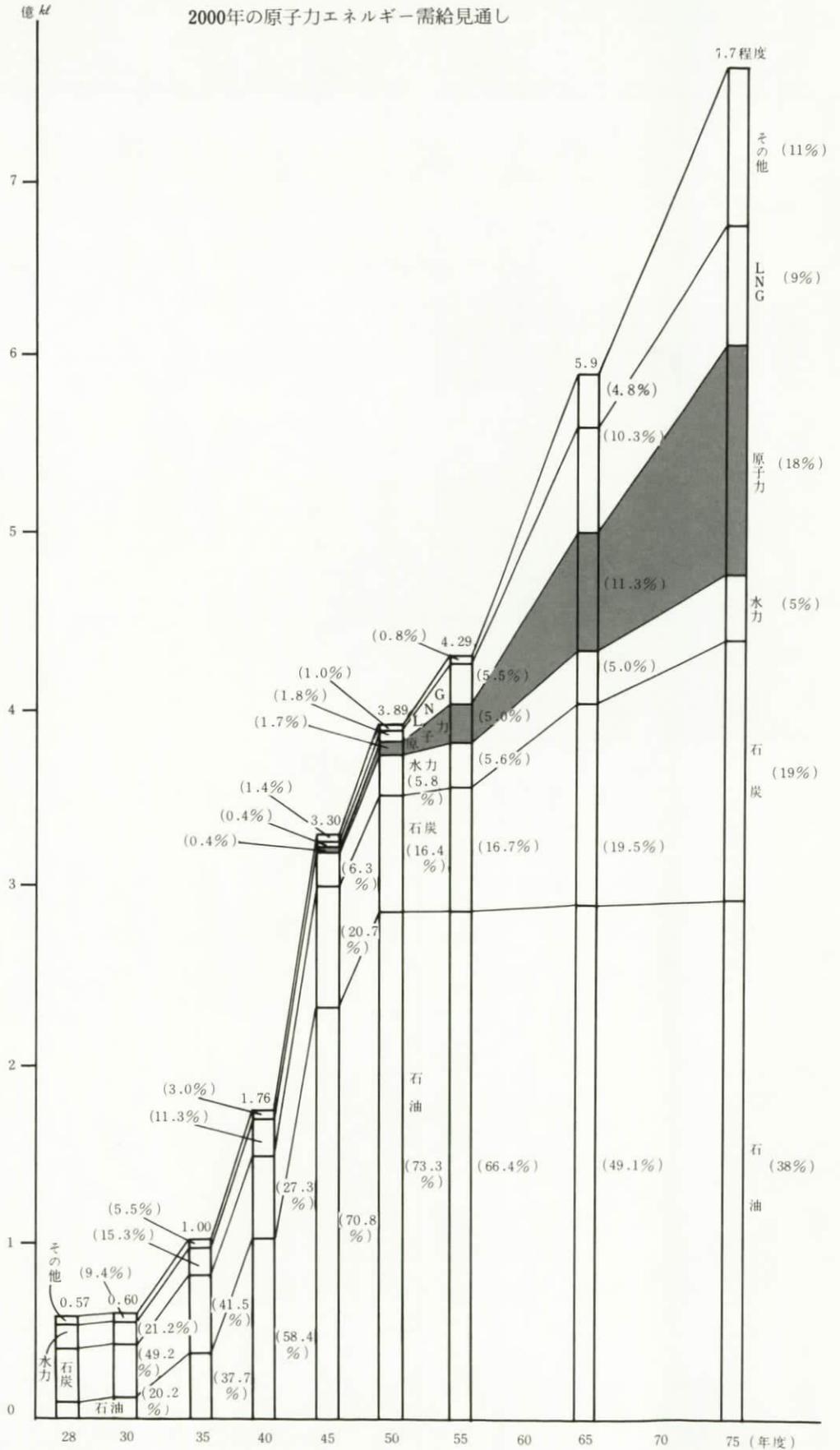
フランスが供給する研究用原子炉で核兵器用高濃縮ウランまたはプルトニウムを得ようとするには、未使用の燃料要素からウラン二三五を分離するか、或いは原子炉の試験孔に天然ウランを装荷して、それからやがて生成されるプルトニウムを分離するであろう。イスラエル空軍の襲撃時には、まだフランスから燃料要素は持込まれていなかったし、プルトニウムを分離するのに必要な施設(ホットケープ)がどの程度機能するようになっていたか明らかでない。

わが国は、自からの核不拡散政策を堅持するのとはもとよりだが、今後あり得べき開発途上国への核拡散防止上にも十分配慮した国際的に有効な核不拡散システムの強化について、より積極的に協力する必要がある。さらにはその背景をなす南北問題への適切な寄与にもっと力を尽すことが、本書に繰返し指摘される大破局を避けるために、わが国識者がこの際しつかり考えなければならぬことのように思われる。

村田浩 日本原子力研究所顧問/茅誠司部会

特集明日のエネルギーを考える

2000年の原子力エネルギー需給見通し



通産省「長期エネルギー需給見通し関係資料集」より

特集 ■ 明日のエネルギーを考える

「長期エネルギー需給見通し」 について



通産省資源エネルギー庁長官官房審議官 高橋 宏

総合エネルギー調査会需給部会（円城寺部会長）は、通産大臣の諮問に応じ、昨年六月以来、我が国の長期エネルギー需給の見通しについてさまざまな角度から検討を進めてきましたが、去る四月二十一日、その報告をとりまとめ発表いたしました。この見通しは、日本経済が一九八〇年代において年率五％程度の経

エネルギー情勢の基本認識

今後のエネルギー情勢を考えるに当たって、引き続きエネルギー供給の大宗を占めると考えられる石油については、その国際的な需給は、当面緩和基調で推移するとの見方もなされています。

これは、先進消費国が国際協調のもとに、省エネルギーの推進、石油代替エネルギーの開発・導入の促進等の施策を進め、エネルギー生産性の向上や石油消費の節減に努力を傾けてきたこと、および

経済成長を遂げることを前提として官民を挙げて最大限の努力を行った場合のエネルギー需給の見通しを示したものであります。また、同二十三日には、この見通しをもととして、我が国の「石油代替エネルギーの供給目標」が閣議決定されました。ここに、その概要をご紹介します。

このような諸施策の浸透に加えて、石油価格の上昇に伴うデフレ的影響を反映した世界的経済の停滞等が、石油消費国における石油需要の大幅な減退をもたらした。従来の石油需給に係る消費国と産油国の基本的関係に変化の兆しが現われつつあることの反映とも考えられます。しかしながら、中長期的にみれば、世界景気の回復等に伴い世界の石油需要は増加するものと予想されるが、それに見

エネルギー政策の基本的な考え方

我が国は、エネルギー供給の石油依存度が高いことに加え、国内資源が乏しいことなどから、多くの先進国に比してエネルギー供給構造の脆弱性が際立っています。このため、今後の国民生活、経済活動の安定的発展を図る上で、エネルギー供給の不安定性および国際的なエネルギー需給の変動によるエネルギー価格の大幅な上昇が制約要因となる可能性は依

合って世界の石油供給が今後とも増大することは困難とみられることから、国際的な石油需給は、一時的に緩和することであっても、基本的には、循環的かつ構造的に、逼迫するものと考えられます。また、石油の主要な供給源である中東地域の政情は依然として不安定であり、この地域からの一時的あるいは長期的な供給制約が強まる可能性も否定しえません。

他方、原子力、石炭、天然ガス等の石油代替エネルギーについては、今後とも、基本的には、経済性、安定性等の面において石油に対する優位性を維持していくものと考えられます。

このような状況をふまえ、またエネルギーの持つ国民生活、経済活動全般にわたる影響力の大きさを勘案するならば、長期的かつ多面的な視点に立ったエネルギー問題への対応が強く要請されることとあります。

然として高いものと考えられます。特に、近年、エネルギー価格の上昇がエネルギー多消費型産業を中心として産業活動の面において大きな影響を与えており、このような状況にかんがみてもエネルギー問題の解決は今後とも我が国にとって大きな課題の一つといえます。こうした問題に対処するために、需要面において、引き続き各分野での省エネ

第1表 長期エネルギー需給見通し

項目	年度	昭和55年度(実績)		昭和65年度		昭和75年度(試算)	
エネルギー需要率		4.29億kℓ		5.9億kℓ 15.5%		7.7億kℓ程度 25%程度	
エネルギー別	区分	実数	構成比(%)	実数	構成比(%)	実数	構成比(%)
石	炭	9,240万t	16.7	15,300万t	19.5	20,000万t程度	19
	〔うち国内炭〕	[1,810万t]		[1,800~2,000万t]			
	〔うち一般炭〕	[2,130万t]		[6,600万t]			
原子力	力	1,570万kW	5.0	4,600万kW	11.3	9,000万kW程度	18
天然ガス	ガ	2,590万kℓ	6.0	6,800万kℓ	11.5	8,200万kℓ程度	11
	〔うち国内天然ガス〕	[22億m ³]		[73億m ³]			
	〔うちLNG〕	[1,680万t]		[4,300万t]			
水力	揚	1,900万kW	5.6	2,350万kW	5.0	3,000万kW程度	5
	一般水力	1,080万kW		2,200万kW		3,300万kW程度	
地熱		30万kℓ	0.1	600万kℓ	1.0	1,500万kℓ程度	2
新燃料油、新エネルギー、その他		70万kℓ	0.2	1,500万kℓ	2.5	6,500万kℓ程度	8
石油	油	2.85億kℓ	66.4	2.9億kℓ	49.1	2.9億kℓ程度	38
	〔うち国内石油〕	[50万kℓ]		[190万kℓ]			
	〔うちLPG〕	[1,400万t]		[2,400万t]			
供給合計		4.29億kℓ	100.0	5.9億kℓ	100.0	7.7億kℓ程度	100

需給見通しの概念

〈需要〉

昭和六十五年度におけるエネルギー総需要については、第1表に示すとおりで、経済成長率は昭和五十五年度以降年平均五%程度、産業構造は産業構造審議会報告「八〇年代の産業構造の展望と課題」を基本に、その後における産業構造審議会各部会における検討結果等、最近の経済環境の変化を折り込んで展望を行い、これらを前提とすれば、省エネルギー推進の効果と相まって、全体として五億九〇〇〇万キロワット程度(原油換算)になるものと見込んでいます。この場合、エネルギー需要の国民総生産原単位は、昭和五十五年度の二二六キロワット/億円から昭和六十五年度には一九一キロワット/億円となり、一五・五%低減するものと見込まれますが、更に一層の

力の向上を図ることも不可欠です。

我が国は、従来から、石油の安定供給の確保、石油代替エネルギーの開発・導入の促進および省エネルギーの推進を基本的な方向とする総合エネルギー政策を推進しているところでありますが、以上に述べたエネルギー政策の基本的な考え方に基づき、新たな決意のもとに、昭和六十五年度の石油依存度を五割以下とすべく、今後とも総合エネルギー政策を強力かつ効率的に推進すべきものと考えます。

省エネルギーに努めることが肝要であり、二次エネルギー需要については、電力のシェア(総エネルギー需要に占める電力需要の割合)は、昭和五十五年度の三三%から昭和六十五年度の三七%に増加するものと見込んでいます。

また、産業、民生、運輸の各分野におけるエネルギー需要の動向は、第2表に示すとおりで、まず、産業については、エネルギー多消費型産業を中心とした省エネルギー努力の一層の進展や基礎素材産業の伸び悩み、加工組立産業の著しい進展等の産業構造の変化の結果、生産額当たりの原単位は大幅に低下し、エネルギー需要全体に占めるシェアが低下しましょう。また、民生については、家庭部門において省エネルギー意識の定着は図

られるものの、生活水準の向上により電力を中心としたエネルギー需要が増加し、一方、業務部門においてもサービス産業の伸展等に伴いエネルギー需要は増加するなど、エネルギー需要全体の伸びをかなり上廻って需要が拡大するでしょう。更に、運輸については、乗用車、トラック、航空機を中心に輸送量の伸びは続くが、燃費改善、乗車効率の向上などによりエネルギー需要に占めるシェアは若干低下するとみられています。

〈供給〉

昭和六十五年度におけるエネルギー供給については、第1表に示すとおりであり、各エネルギー源の量的側面に加え、経済性・安定性等の質的側面に配慮した適切な供給構造の実現を見込み、全体として石油依存度の低減を図ることが肝要であるとしています。

各エネルギー源について、供給量、構成、現状との比較などは第3表のとおりであります。それぞれについての考え方は次のとおりであります。

①石炭……石炭は世界的にみて最も豊富な化石燃料資源であり、また世界各地に分散賦存していることから我が国においても当面石油代替エネルギーの中でも量的に期待できるものとして、環境保全に留意しつつ、導入を積極的に推進すべきものとしています。このため、貴重な国内石炭資源については、昭和五十六年八月の石炭鉱業審議会の答申をふまえ、

第2表 エネルギー需要見通し

需要項目	昭和55年度		昭和65年度	
		構成比(%)		構成比(%)
業	253百万kℓ	61.7	329百万kℓ	58.5
うちエネルギー多消費型産業	114百万kℓ	27.9	133百万kℓ	23.7
運輸	65百万kℓ	15.8	86百万kℓ	15.2
民生	92百万kℓ	22.5	148百万kℓ	26.3
合計	4.10億kℓ	100.0	5.63億kℓ	100.0

現在程度の生産の維持を基調としつつ、今後の石炭企業の体質改善や石炭需給環境の好転を待って、将来における年産二〇〇〇万トン程度の生産水準の達成を目指すことを基本的な考え方とし、保安の確保を第一として、現存炭鉱における合理化等所要の施策を講ずべきであるとしています。また、海外炭については、今後の需要動向をふまえて供給源の多角化や石炭利用技術の開発による利用炭種の拡大に加え、炭鉱開発から積出し、受入れ施設に至るコールチェーン総合的システム化等を推進し、長期安定的な供給確保を図っていくことが重要であります。

②原子力……原子力は、自主的な核燃料サイクルの確立と相まって供給安定性のある準国産エネルギーとして位置付けられるとともに、経済性・大量供給性等多くの特長を有しており、今後とも石油依存度低減の中核的役割を担うものとして、その開発を最大限に推進すべきものであるとしています。そのため、安全性の確保、核燃料サイクルの確立等に努めることに加え、地元をはじめ国民の理解と協力を得るべく、パブリック・アクセプタンスの向上を図るなど立地の円滑化のための施策を強力に進める必要があります。

また、長期的な観点から、新型炉の開発・導入、新立地方式の導入、多目的利用のための技術開発を推進することが重要であります。

③天然ガス……LNGは、クリーンなエネルギーであり、その供給にも比較的安定性が期待しうることから、今後とも都市やその周辺を中心として導入拡大を推進するとしています。

④水力……水力は、今後は中小規模の多点開発が主となるが、貴重な国内資源で、かつクリーンな循環エネルギーであることから、積極的に開発する必要があるとしています。

⑤地熱……地熱は、火山国である我が国に豊富に賦存する貴重なエネルギーであることから、環境保全に留意しつつ、積極的に開発促進するとしています。

⑥新燃料油、新エネルギー、その他……新燃料油等の新たなエネルギー源については、その性状はさまざまでありますが、石油の直接的な代替となつて将来の石油価格上昇の抑止力となりうるもの、未利用資源の活用が可能となりエネルギー供給量を増大させるもの、再生可能なもの等が多く含まれるため、将来の期待が大きいわけです。これらについては、一部実用化されているものもありますが、長期の技術開発期間を要するものも多いことから、短期的な市場の動向に左右されることなく、計画的な開発・導入を進める必要があります。

⑦石油……石油については、今後需要の伸びを見込むことは困難であるが、昭和六十五年度においてなおエネルギー供給の大宗を占めることが予想されるので、産油国との協調、自主開発の推進、さらには石油産業の基盤強化等により、その

安定的供給に努める必要があります。一方、石油需要が民生用石油製品を中心とする中軽質留分にシフトするものと見込まれることから、重質油対策の実施が必要となります。LPGについては、供給源の多角化対策などが重要です。

また、緊急時に備えた石油備蓄については、石油供給の不安定性にかんがみ、引き続き計画的に備蓄量確保に努める必要があるとしています。

〈昭和七十五年(西暦二〇〇〇年)のエネルギー需給〉
石油代替エネルギーの開発、新しいエネルギー利用技術の研究あるいはエネルギー供給システムの確立には、多くの時間を必要とし、また省エネルギーの一層の実現には、産業社会の変化を伴う長期間の努力を払う必要があります。このようなエネルギー政策の長期的性格にかんがみ、エネルギー需給の将来の方向を示すべく、今回新たに、昭和七十五年(西暦二〇〇〇年)のエネルギー需給を展望しています。

しかしながら、こうした長期の展望については、不確定要因も多く、ここでは経済成長率が昭和六十五年以降年率四〇%程度で推移するなどの仮定に基づき需給の推計等を行っています。その考え方は、以下のとおりです。

(一)国際的な石油需給については、産油国の資源温存政策、発展途上国の工業化等により、漸次逼迫化の傾向をたどり、

安定的供給に努める必要があります。一方、石油需要が民生用石油製品を中心とする中軽質留分にシフトするものと見込まれることから、重質油対策の実施が必要となります。LPGについては、供給源の多角化対策などが重要です。

第3表 エネルギー供給見通し

供給項目	昭和55年度		昭和65年度	
		構成比(%)		構成比(%)
石炭 〔うち 国内石炭〕 〔うち 一般炭〕	9,240万t 〔1,810万t〕 〔2,130万t〕	16.7	15,300万t 〔1,800-2,000万t〕 〔6,600万t〕	19.5
原子力	1,570万kW	5.0	4,600万kW	11.3
天然ガス 〔うち 国内天然ガス〕 〔うち L N G〕	2,590万kℓ 〔22億m ³ 〕 〔1,680万t〕	6.0	6,800万kℓ 〔73億m ³ 〕 〔4,300万t〕	11.5
水力 〔一般水力〕 〔揚水〕	1,900万kW 1,080万kW	5.6	2,350万kW 2,200万kW	5.0
地熱	30万kℓ	0.1	600万kℓ	1.0
新燃料油、新エネルギー、その他	70万kℓ	0.2	1,500万kℓ	2.5
石油 〔うち 国内石油〕 〔うち L P G〕	2.85億kℓ 〔50万kℓ〕 〔1,400万t〕	66.4	29億kℓ 〔190万kℓ〕 〔2,400万t〕	49.1
合計	4.29億kℓ	100.0	5.9億kℓ	100.0

結 語

我が国は、他の先進国に比して高い経済成長を達成しつつ、昭和五十五年度には、一二年ぶりに石油依存度が七割を下廻るなど、二度にわたる石油危機への対応は、適切なものであったといえます。このことは、エネルギー問題への我が国の対応が妥当なものであったことを示すとともに、この問題が官民一体となった努力により克服しうるものであることを意味しています。

我が国が将来においてもエネルギー問題で大きな困難を招来することのないよう、今後とも常に長期的な視点に立った取り組みが必要であります。このため、安定的なエネルギー供給の基盤整備に加え、今後とも上昇が予想されるエネルギー

それに伴って国際石油価格も実質ベースで上昇を示すとともに、石油供給の不安定性も増大する。

(二)我が国のエネルギー需要については、相当程度の省エネルギーが進展しつつ、産業、運輸、民生の各分野とも経済の発展に伴いかなり増大する。産業においては、多角的な知識集約化が一層進展し、エネルギー需要の伸びは相対的に小さくなる。また、民生では、生活水準の上昇や生活形態の変化等に伴い電力を中心として、運輸では、モータリゼーションの進展等に伴いそれぞれ需要は増加する。

以上のような内外の動向をふまえて、

エネルギー供給は、次のような方向で推移するとみています。

①石油需給の逼迫化傾向のもと、石油代替エネルギーへの移行が着実に進展する。

②原子力利用がより一層増大し、電力供給構成において原子力の割合が四割を越え、化石燃料全体のそれを上回る。

③技術開発の成果が逐次実用化されることに伴い石炭液化等新しいエネルギーの利用が本格化する。

④石油については、民生用、運輸用を主体とした中軽質留分への需要が引き続き増大する。

我が国は、他の先進国に比して高い経済成長を達成しつつ、昭和五十五年度には、一二年ぶりに石油依存度が七割を下廻るなど、二度にわたる石油危機への対応は、適切なものであったといえます。このことは、エネルギー問題への我が国の対応が妥当なものであったことを示すとともに、この問題が官民一体となった努力により克服しうるものであることを意味しています。

我が国が将来においてもエネルギー問題で大きな困難を招来することのないよう、今後とも常に長期的な視点に立った取り組みが必要であります。このため、安定的なエネルギー供給の基盤整備に加え、今後とも上昇が予想されるエネルギー

価格を国民経済全体が吸収し、安定しうるエネルギー需給構造の実現や各種技術開発等による将来におけるエネルギー供給力の向上を目指すことが肝要であると考えます。

このような基本的な考え方のもとに策定された長期エネルギー需給見通しは、今後のエネルギー政策の指針となるべきものであり、また国民がエネルギー問題克服のために目標とすべきビジョンでもあります。この長期エネルギー需給見通しをふまえて、閣議決定されました。「石油代替エネルギーの供給目標」は第4表のとおりであります。その達成に官民あげて努力することが期待されます。

第4表 石油代替エネルギーの供給目標(昭和65年度)

石油代替エネルギーの種類	石油代替エネルギーの供給数量の目標 (単位 万キロリットル)	
石炭	11,500	38.6%
天然ガス	6,800	22.8%
原子力	6,700	22.5%
水力	3,000	10.1%
地熱	600	2.0%
その他の石油代替エネルギー	1,200	4.0%
(参考) 合計	石油換算 3.0億kℓ	100.0%

忘れていないか 石油は日本の命綱

石油ダブツキはもうすぐ終わる

「原油価格は二十三ヵ月内に二十五ドルへ下る」「いや十五ドルになる」などの「暴落説」が横行したのは今年の二月―三月ごろであった。同時に、石油のダブツキは長期間続き、OPECは力を失い、解体するだろうという楽観論も一つのピークに達した。(こうした楽観論は今まで何回か現われたし、これからも繰り返されるだろう)。

しかし、暴落は起こらなかった。逆に、四月に入ると市況は堅調に転じた。二月末には二十八ドルを切っていた標準原油のスポット価格は五月になると政府公式販売価格(GSP)の三十四ドルまで上昇した。その背後には、アメリカやヨーロッパ市場における石油製品価格の反騰という状況がみられた。

石油市場の様子が変わってきた理由は、消費量が増加し始めたためではない。OPECが三月の臨時総会で、底なしの値崩れに歯止めをかけるために「大幅な協

調減産と現行価格体系の堅持」を決めたからであった。OPECの生産は一月の日産二〇〇万バレルから四月には一六〇〇万バレルに低下し、第二次石油危機前のピークの半分近くになった。

一方、昨年後半から始まった消費国での在庫取崩しは、今年に入って急激に進み、一日四〇〇万バレルもの記録的な水準に達した。これが春先きの価格軟化↓暴落説の出現をもたらした直接の原因だったが、OPECの大幅な協調減産の結果、消費国(石油会社)は高水準の在庫取崩しの継続を強いられる恰好になった。このため、在庫水準は急速に低下し、七―九月期には在庫取崩しは底をつき、逆に積み増しへ向うことになる。

石油危機発生条件

さて、いたずらに危機感におびえるのは害あって益なしだが、楽観論に安心し

そして、秋以降、①需要が季節的増大期に入る、②在庫積み増しが重なる、③世界経済が不況から抜け出し回復に向う――などの理由から、石油需要も回復し始め、来年の第一・四半期には対前年同期比でプラスになるだろう。その結果、OPEC生産は年末までに二二〇〇万バレル、来年は二三〇〇万バレルまで回復する。

要するに、石油情勢は現在すでに局面転換を迎えているのであり、この秋にはダブツキが消え、バランスに向うのである。そして遅くとも来年中ごろには原油価格は再び上昇期に入るだろう。サウジアラビアのヤマニ石油相は八三年末まで標準原油の価格を凍結すると表明しているが、状況が転換すれば「三四ドルの実質価格の低下を取り戻すためのインフレ調整」を行うと態度を変えよう。

てしまうのもっと危険である。ちょうど、石油情勢が転換を迎えつつあるので、

富舘孝夫

日本エネルギー経済研究所研究部長／茅 誠司部会



あえて「石油危機はもう過去のものになった」という楽観論を批判する意味で、危機発生条件と今後の発生可能性を検討してみよう。

石油危機は次のような条件が重なったときに発生する。まず第一に世界経済が景気上昇期にあつて石油需要が増大しているとき、第二に在庫調整期（またはその直後）で備蓄水準が低くなっているとき、第三に代替エネルギーへの転換と省エネルギーのスピードが弱まっているとき、第四に原油価格の低迷（実質価格が低下）がある期間続いているとき、そして第五に戦争や革命等で石油供給の途絶が発生したときである。

また、石油危機が実際にどのような形で進行するかをみると、①戦争・政変などで禁輸や供給途絶が発生する、②先行き不安、価格上昇思惑から大量の仮需要が生まれる、③価格の急上昇が続き、ガソリン・パニックや狂乱物価などの危機状況に陥る、④経済が打撃を受け不況へ突入する、⑤経済活動の低滞と価格上昇効果によって石油需要が減少する、⑥在庫水準が急激に高まる——というプロセス

次の石油危機はいつ来るか

ところで、今後、第三次、第四次の石油危機が発生するならば、いつごろ、どのような状況のもとで到来するだろうか、その可能性を考えてみよう。換言すれば、前述五つの条件が重なる可能性のありそ

すをたどり、最終的には一方で経済成長の低速化をもたらし、他方では省エネと代替エネルギーへの転換をうながす。

いま事例として第二次石油危機をとってみれば、世界経済は中だるみから本格的な上昇期へ移行しており、石油需要は回復し第一次危機前のピークを越え、在庫水準はかなり低く（第一次石油危機で増大した在庫量は七八年に大量に取崩された）、代替エネ導入と省エネのスピードが落ちて石油のシェアの回復が見られ、原油価格は七五年以降実質価格の低下が続いていたときに、イラン革命が発生して、イラン原油の輸出ストップ（七八年末）と大量の仮需要が生まれたのであった。

そして、原油価格は「玉突き値上げ」により段階的に三倍近くも上昇した。ところが、一九八〇年九月に起きたイラン・イラク戦争の衝撃は小さかった。というのも、不況の進行、在庫増大、代替エネへの転換と省エネの進展、原油価格高騰の最終段階——というように、前述五つの条件のうち四つまでが逆になっていたからである。

うな（あっても不思議でない）のはいつごろかという問題である。

まず、今年の秋に危機が到来するかもしれない可能性はゼロでない。その理由は、在庫取崩しが大幅に行なわれた結果、

在庫水準が低くなっていること、それにアラブ・イスラエル紛争とイラン・イラク戦争、とくに前者の情勢が現在かなり険悪化しているからである。もし今年秋に中東で新たな火の手があげれば、危機状況が生じるだろう。しかし、景気回復はまだ弱いし、石油需要の本格的増大に至っていない。OPECとしても、石油ダブツキと値下げのいがい体験がまだ生しいから、よほど大規模な供給中断にならないかぎり、比較的節度のある価格政策をとるだろう。

次に、一九八三年秋—八五年秋の時期である。世界経済の現状から判断すると、景気回復は来年から始まり、八四年には本格的な上昇期に入るとみる意見が強い。もっとも、世界経済の再活性化には時間がかかるので、本格的な上昇期（三—五％）は八五年にずれられるかもしれない。今年秋に危機が発生する確率は低いから、原油価格は八一年初頭くらい八三年一杯まで、実質価格で低下するだろう。

一方、代替エネルギーへの転換はすでに一段落しているし、開発プロジェクトの中止や延期が続出している。節約マイナンドも弱まりつつある。また、中東情勢は、アラブ・イスラエル紛争、ホメイニ後のイランのいずれもこの時期に火を吹く可能性は継続している。在庫水準は、石油需要の増加（現在に比べ）に対して相対的に低い状態にあるだろう。あるいは、中期的な積み増しのサイクルへ入っていることも考えられる。こういうとき

に供給中断が起これば、かなり深刻な石油危機へ発展する恐れがある。

また、供給中断がなくても、需給タイプ化から、価格の小ジャンプが起こる可能性は大である。そして、八五―八八年ごろは再び景気低迷、石油需要低下、価格軟化の時期を迎えるだろう。しかし、八〇年代末―九〇年代初めになると、代

石油ショックの衝撃度

今後、石油危機がもし発生する場合、供給中断の大きさを危機のマグネチュードとしてあらわせば、①二〇〇―四〇〇万バレル/日の供給中断Ⅱミニ・クライシス、②四〇〇万―八〇〇万バレル/日の大危機、③八〇〇万―一五〇〇万の巨大危機、④一五〇〇万以上の超巨大危機に分けることができる。

ここで①のミニクライシスは例えば、イ戦争のときが当てはまる。IEA(国際エネルギー機関)では、高値買い、大量買い等を防止する監視を強めつつ、備蓄の取崩しを行えばショックを緩和することが可能であるとしている。②の大危機はイラン革命のときが当てはまる。IEAは、備蓄の大量取崩しと消費規制によって対応できるとみている。③は中東戦争の再発や政変等によるサウジおよび周辺巨大産油国の輸出ストップ、④はアラビア湾通行不能や中東全域の大戦争等で引きこされ、対応としては②の対策の一層の強化や西側諸国の軍事介入等が議

替エネルギー・新エネルギー開発の遅れが重大問題となり、景気上昇期にはOPEC石油に対する需要が新たなピークを迎える。原油価格は代替・新エネルギーに必要な水準に向って、新しい上昇期に入る。このときが、石油危機発生条件の熟す時期となるだろう。

論されている。

いずれの場合も、価格上昇をもたらすことは必至だが、①の場合は最小限に抑えることは可能であり、②でも最近のOPEC政策の変化(現実路線へ近づく)を考えに入れると、対応さえ誤らなければ、過去二回のように三―四倍の高騰と

日本経済への影響度

わが国は、石油への依存が極度に高かつ、そのほぼ全量を輸入石油でまかなっているため、石油ショックの影響は特に強い。幸い、過去二回の石油ショックを日本経済は良好なパフォーマンスで乗り切ることができた。しかし、そのことをもって今後も大丈夫と安心してはならない。

なぜなら、過去二回の場合は、日本経済が高度成長時代を通じて培ってきた高い生産性と技術力、効率的な経済運営が存在し、それらの総結集として、国際水

いう事態は避けられよう。③や④になると、全く予想つかないほど莫大な衝撃を受けることになる。

また、ミニ・クライシスの場合でも、例えば八〇年代末―九〇年代初頭に発生すると「OPEC石油への需要が二八〇〇万バレル/日前後まで増加することが予想されるので、対応が困難になる恐れがある」(IEA事務局)という見方が十分に成り立つ。

ともかく、どのレベルであろうと石油危機は世界経済へ打撃を与え、成長力を低めてしまう。第一次危機の結果、それまで五%強の成長だった世界経済(日本経済は一〇%台)は三―四%へ低速化し(同五%台へ)、第二次危機は更に二―三%(同三―四%)へ低下させたのである。

準をはるかに抜く成長力と競争力を手にしていた。良好なパフォーマンスは、ある意味で、これらの資産の喰いつぶして達成したという部分が大きいのである。その結果、わが国の成長力は四%前後にまで落ちてきたし、貿易摩擦を中心とする国際経済摩擦という新しい負担さえ、おまけとして背負うことになったのである。

それはさておき、供給中断が発生したときの日本経済へのインパクトはどうか。私たちの研究所の試算を紹介しよう。い

ま、石油供給が三〇%と五〇%の規模でそれぞれ一年間続いたケースを設けて、国民経済への影響を計測してみると、まず三〇%の場合には、現在の備蓄水準を前提とすれば、そのうちの一八%程度は備蓄の放出により対応できる。残り一二%程度は消費規制を行わざるをえず、GNPを三―七%低下させ、失業者を二十万―四十万人増大させる。

次に五〇%ケースでは消費抑制の度合いが著しく増えるため、GNPを一九―三二%引き下げ、失業者を一〇〇万―一八〇万人増加させてしまう。この計算は

立ち遅れている危機管理対策

一般国民は、日本は外国に比べて石油ショックに強かった「備蓄水準が高いから危機が起こっても大丈夫」「石油ダブツキはずっと続く」等々のマスコミ報道にふれてきたせいもあって、もう七三年秋のトイレット・ペーパー騒動に象徴されるパニックをすっかり忘れてしまったようだ。

しかしながら、すでに述べたように、石油危機の到来する可能性は小さくないし、繰返し到来することも考えられるのである。また、次の危機がもし発生すれば、日本経済の対応力は前回より弱くなっているだろう。さらに、肝心の危機管理対策となると、現状システムは砂上の楼閣に等しいのである。

たとえば備蓄である。現在、国家備蓄

昭和五六年年度の日本経済が供給中断に直面した場合を想定したものである。また、この程度はかなり大規模な供給中断を日本がこうむるときは、国際的にも大きな危機が発生しているもので、当然、原油価格の上昇という事態になる。しかし、この計算では価格上昇が考慮されていないので、実際はもっと大きなインパクトを受けられることになる。さらに、現実には供給中断の進行につれて、心理的なパニック状況が出現し、拡大していく恐れがあり、それがインパクトを増幅してしまうだろう。

を含め一〇〇日をかかなり越える量が存在しているが、いざ供給中断が発生したときに、それをどう使うのか――すなわち供給中断の規模と時間経過につれて、どの国家備蓄、石油会社の備蓄を実際にどう取崩して使うのか、どの製油所で精製して製品をどう動かすのか、IEAの融通制とどう組合さるのか、消費規制との関係はどうか、価格はどうつけられるのか等々については細目がなにも決められてないし、石油業界はじめ、だれにも知らされていないのである。

また、消費規制についても同様である。すでに数年前、消費規制の実施に伴う配給制に使われる切符が印刷されたという確実な情報が伝えられた。しかし、ガソリン、灯油等の配給切符を、たとえば東

京の五人世帯の家庭がどう条件のもとでどれだけ手に入れられるのか、価格はどうなるのか、地方の場合はどうか、取扱う地方自治体、受け取るガソリンスタンドはどういう手続きが必要なのか等々について、どこまで決められているのか皆目わからないし、また、だれにも知らされていない。

おそらく、行政当局は、この種の情報を明らかにすれば、いたずらに危機感をあおり、混乱を招くだけだという配慮をしたのであろう。それはそれとして理解できる。しかし、きちんとした実施手続きがなく、かつ、部分的にあっても国民に知らせないならば、危機に直面したときの混乱は避けられない。

むしろ、石油がダブツいていて、価格も安定している時期にこそ、必要な手続、細目を整備し、それらの危機管理対策が実施されれば決してあわてふためくことがないのだという教育・広報活動を行うことが必要なのではないだろうか。石油は日本の命綱であり、石油ショックが発生しても十分に対応できるそなえを国民一人一人ががねにもっているべきであるということをお忘れのために――。

クオ ヴァデイス オペック

奥山晃希

日本エネルギー経済研究所研究企画室長

予想の例

クオヴァデイスドミーネならぬ「オペックよ いずこへ」という問いかけは現在世のエネルギー最大の疑問の一つであろう。未来については「神のみぞ知る」ということになるが、予想し歴史(事実)によって検証されるプロセスを果てしなく繰り返すのは人間の業(こ

う)かもしれない。

ここ半年の間にも、原油供給過剰の続く中で「オペックは生き残れるか」「原油の需給と価格はどうか」について世界のエネルギーメンが予想してきた。その内代表的な二つの予想をとりあげ「考えるヒント」をみつきたい。

(その一)「オペックは石油供給過剰を生き残れるか」ハドソン研究所ブラウン氏(フォーチュン八一年一月三〇日号)

氏は原油供給過剰が続くと予想し以下の七つの理由をあげている。①省エネ ②代替燃料転換 ③石油消費国の経済成長減速 ④原油備蓄とり崩し ⑤ノンオペックの生産増加 ⑥イラン、イラクの石油輸出回復 ⑦オペック諸国相互の輸

出量増加をめぐる価格競争
需給関係が均衡回復するのは①価格値

下か、①輸出割当か、③あるいは中東における大規模な紛争の結果しかないといっている。

そして、もとも起こりそうなシナリオとして八二年春サウジが価格維持のため五〇万ドル/日(以下BD)減産。五月オペック総会で価格引き下げまたは生産調整に失敗。八月までにサウジはアラビアンライイト(以下AL)を三二ドルまで下げる。その後サウジは政治的理由でまた五〇万BD減産する。サウジはこのプロセスを繰り返し八三年半ばまでにAL三〇ドル(八一年ドルで二五ドル)、オペ

ック生産は二一百万BD(内サウジ七百万BD)の需給均衡に達する。その後価格はインフレーション(プラスアルファ)相当で規則的に上昇する。氏は価格体系の崩壊は、オペックおよび輸入国双方にとって有害であり阻止しなければならぬと強調している。

(その二)「オペックは価格体系を維持できるか」オックスフォード大学マブロー氏(ミーズ八二年三月八日号)

七五年にオペックは前年対比一一パーセントの減産に成功したが、当時と現在とは石油市場が構造的に変化している。主な変化は、次の六点である。①オペック原油需要の低下。石油消費量の減少継

続(リセクション、エネ転、省エネによる) ②ノンオペックの生産増加 ③石油過剰在庫の市場への悪影響 ④米国石油価格の世界市場への影響 ⑤メジャーズの市場への影響力低下 ⑥オペック供給構造の変化(七九年までは二つの大供給国(サウジ、イラン)と四つの中供給国(イラク、クウェート、ベネズエラ、ナイジェリア)があったが現在はサウジのみ大供給国)

事実(事態)の進展

二月二十六日イランアラビアンライイト三〇・二〇ドルとなる。二月五日対比四ドル値下げ。

二月二十三日英国が北海原油を四ドル下げて三〇ドルとする。ナイジェリア原油のGSP三六・五〇ドルに比べ大幅な格差が生ずる。ナイジェリアは値下をす

以上の変化をふまえ短期市況安定には次の三つの対策を一括して実施すべきであると提案した。①ディファレンシャル調整とオペック価格体系統一 ②マーカ一原油価格と統一価格体系の維持決議 ③サウジ等三〜四ヶ国の一時的減産(ハリアブソーバー国への援助等財政的措置がとれば理想的)

長期政策としては緊急時生産調整計画を含む「弾力的な」生産および価格戦略が必要であり氏は弾力的なことを必須条件としている。

る気であったがヤマニ大臣に顧慮させられた。サウジはオペック価格を維持し必要なら六百万BDまで減産する。またナイジェリアにクウェート、アブダビと共に一〇億ドル援助すると約束)

三月六日ドーハ石油会議で急きよ三月一九日ウィーン石油相会議開催が可能と

なり決まる。同日サウジが百万BD減産発表(八五〇万BDから七五〇万BD)

三月十九日(二〇日ウィーン石油相会議は途中から臨時総会となり次の四点が決定された。①三四ドルマーク原油価格維持 ②ディファレンシャルを一・五〇ドルとする。ナイジェリア原油GSPは三六・五〇ドルから三五・五〇ドルとなる。③生産調整を行う。八二年四月六月のオベック全生産量を一八百万BDとする。(内サウジ七五〇万BD) ④閣僚市況監視委員会を設置。総会直後にサウジは更に五〇万BD減産決定。従ってオベック全生産量は一七五〇万BDとなる。

この直後メジャーズはナイジェリア原油の引取削減を行う。サウジ、クウェート等が引取削減したメジャーズにオベックとして制裁を加えると警告したがメジャーズは四月以降長期契約をフェーズアウトする動きをやめなかった。

三月三十一日ヤマニ大臣はナイジェリアに値下圧力をかけるメジャーズに制裁を加えるためオベック臨時総会を開催することを確認した。メジャーズは当面四月は行動をさしひかえた。四月二日フォーランド諸島英・アルゼンチン紛争勃発。四月一〇日シリア政府はイラクの地中海向パイプラインを閉鎖(四〇万BD)。このためサウジはナイジェリア対策として五〇万BDの減産を実施寸前で見送る。

四月二一日ウィーン閣僚委員会は市況が改善したことを確認。(四月二三日スポット価格AL三一・五〇ドル、北海原油

三四・五〇ドル、ナイジェリア原油三四・五〇ドル) またオタイバ委員長はオベック全生産量は一五八五万BDとなつていと発表。

四月二一日イスラエルがレバノン攻撃四月二五日シナイ半島イスラエルからエジプトへ返還される。

検証

(イ) ブラウン説の評価

イランの抜けがけ値下はあったがオベックは生産調整に成功した。サウジのマーク原油値下と減産という需給、価格の下降スパイラルは起きなかった。(現時点ではの前提付)

再び予想

一連の事件の流れをみるとオベックとメジャーズの価格決定権をめぐるすさまじい抗争が浮かび上がってくる。メジャーズは在庫放出による市況軟化を下地に北海原油の大幅値下によりもつとも弱いナイジェリアを狙いうちしてオベック価格の値下を図った。しかしサウジの必死の防衛によりオベックとメジャーズの間には妥協が成立すると思われる。メジャーズはオベックから何らかの形で価格決定への影響力を取り戻すと思われるが、問題はこのオベック対メジャーズの構図がもはや有効でないことにある。オベックはノンオベックを味方しなければならぬ。メジャーズも簡単に値上げを消費国に転嫁できない。これらオベック、ノ

五月一八日カラカスで監視委員長会開催予定

五月二〇日キトオベック総会開催予定

(ロ) マブロー説の評価

ウィーン総会の決議はマブロー提案通り決定された。しかしオベックの生産調整がナイジェリア問題をめぐりここまで行くとは予想していなかった。

ンオベック、メジャーズ、消費国という四つの利害当事者のコンセンサスは石油価格が暴騰暴落し不安定なのは好ましくないという点である。人類にとつてよりよき石油安定価格メカニズムはサウジ(オベック)と米(メジャーズ)母国、ノンオベック大石油生産国、石油輸入国)を中心に再構築しなければならぬ。果たして可能であろうか。クオヴァデイスオベックの解答は、石油安定価格メカニズムを実現しようとする各当事者の心意思と情熱)の中にあることとなる。

用語でみるうごき

●暗雲がバラ色か21世紀のわが国経済

長期経済展望——二十一世紀には日本人当たりの実質所得が現在の1・九倍になり、アメリカが実質三パーセント成長を続けるとしても、アメリカ人のそれと肩を並べる。二〇〇年までの長期経済展望づくりを進めてきた経済審議会の報告書はこう結論する。このためには年四パーセントの実質成長を前提としているが、これを支えるのがまず機械工業。電子産業を中心に国民総生産に占める比率が八〇年の一七・四から二〇〇〇年には二七・八パーセントに上る。金融・保険・不動産・サービス業なども上向き、第三次産業の従事者が五四・五から六二パーセントに高まる経済構造が予想されている。二十一世紀へ向けての基本戦略としてあげられているのは、円の国際化や資本取引の拡大、労働力の海外進出・海外からの流入、技術協力・資金協力・人的交流・分業など途上国との関係の改善、先進国への市場の開放など。一方、人口の高齢化が進むのを見越し、住みよい社会の整備や就業機会の確保が急務で、中高年齢層の知識や経験を生かす高齢化社会のデザインが必要とされる。一方、社会保障移転は、五十五年度の二・八から二〇〇〇年には三パーセント程度に進み、さらに上昇するのは明らかで、この面での手直しは避けられない。これと並行して女子の労働市場への参入も進む。二十一世紀の繁栄は、バラ色と暗雲のきわどいバランスの上にかかっているようにだ。

●21世紀エネルギーの石油依存度は三八%

脱石油時代——二〇〇〇年のエネルギー供給量は、石油換算で七億七千万キロリットル。昭和五十五年度実績の一・八倍に達するが、石油への依存率は三三パーセントに下がり、原子力が一八パーセントに達する。これは総合エネルギー調査会の長期見通しによるもの。三年前の暫定見通しでは、昭和七十年年度が八億七千万キロリットルだったから、かなりの下方修正となる。これは省エネルギー対策が進むと同時に景気の後退で推測に狂いがたため。石油の供給量は五十五年度から七十五年度にかけて二億九千万キロリットルとほぼ変わらないので、依存率も大きく下ついているわけ。その分、石炭が一九、地熱・太陽熱など新エネルギーが八パーセントを占めている。ただ、脱石油志向の前に立ちふさがるのが代替エネルギー開発の遅れや原子力発電所建設の問題であろう。石油価格が落ち着くのに替えて代替エネルギー開発熱に水がさされるのは避けられず、強力な対応策が望まれる。一方、二〇〇〇年に九千万キロワットの発電量をめざす原発も、新埋立地への見通しとなると困難視する向きも多い。一方、この長期見通しの各論にあたる電気事業審議会の電力需給見通しでは、原子力発電は、二〇〇〇年には総発電量の四三パーセントに引きあげられ、逆に石油依存度は二二パーセントに下げられている。二十一世紀の火は、原子力、続いて石炭、天然ガスが主役の座につくことになりそうだ。

●経済安全は予防政策実施と備蓄制度確立で

経済安全保障——安全保障は防衛力の問題にとどまらない。外交、経済協力、エネルギー、食糧などを含めて総合的に考える必要があるのは当然で、おそまきながら関係各省庁で検討がはじめられている。このほどその一番手として、経済安全保障の確立をめざす報告書が、経済審議会の特別小委員会から通産相に提出された。この報告書は、経済安保について「わが国の経済を国際的要因に起因する重大な脅威から主として経済的手段を活用することにより守る」と定義している。これによると第一に、日本経済への脅威は、資源やエネルギー源の供給が断たれるなど直接的なものに限らず、ガットなど国際政治経済のシステムが揺らぐといった潜在的なものもある。このため、他国との関係を無視した経済運営を改め、市場開放を図るなど、危機予防政策の必要性を指摘している。第二に、エネルギー源や希少金属、食糧の供給確保が重要で、備蓄制度の確立を望んでいる。最後に、技術立国の基本方針を打ち出しており、これも従来からいわれている国際競争力重視の要請からでなく、人類共同の財産の構築という立場を強調している。つまり、未開発分野を積極的に取りあげ、その成果を広く世界に移転することに意味がある。とする。ただ、このコストを誰が負担する方については触れられておらず、二十一世紀への設計図としては片手落との評もある。

●20億人が飢える日に食糧輸入大国日本は?

食糧需給予測——二十一世紀まで、世界の食糧事情はどのように推移するだろうか。四月に発表された農水省の予測では、生産増加によって八十年代前半は食糧価格は下がるが、八十年代後半にはひつ迫基調に転じて価格は上昇、その後は反動で一時的に緩和するものの、二〇〇〇年にかけて需給は再びひつ迫する、という。この予測は、人口が七六年の四十一億六千万人から二〇〇〇年には六十一億五千万人に増加し、工業部門の平均成長率は年間三・九パーセント、耕地面積は四・一パーセント増えることを前提にしている。さらに、平年作が続き、肥料価格が横ばい、アメリカが八五年まで作付制限をするという「基本ケース」の場合、二〇〇〇年の国際価格は、七八年に比べ、実質で穀物・大豆が四割高、牛肉が三割高、その他の畜産物が二割高になる。また、穀物全体で、先進国が一億五千六百万トン輸出し、それを計画経済国が七千七百万トン、開発途上国が七千九百万トン輸入することになり、七八年の各四百百万トン、三千四百百万トンをかなり上回る。途上国では外貨不足で輸入が不可能になる事態も予想され、世界で三人に一人は飢えているという状況が改善されるのはむずかしい。こうした見通しのもとで、食糧の輸入大国である日本は、安全保障のためにも、また世界の需給改善のためにも、自給率の向上が望まれるとし、農水省は自給・備蓄両面での食糧安保の重要性を強調している。

●道路は車だけのモノじゃないと「ロード」

「道路づくり」日本の道路事情は信じがたいほど悪い。道路予定地はあつても道路はない」とは、終戦直後にやってきたアメリカ人専門家の軽佻の声。そのころに比べると、いまの日本の道路は立派になったものだが、それでも欧米諸国に比べると、いぜん見劣りするのほまめがれない。そこでとうとうわけもあるまいが、道路審議会が「二十一世紀をめざした道路づくりへの提言」をまとめた。二十二年ほどの間に、道路整備は相当の成果をあげたものの、クルマ社会への対応に追われたにすぎず、近い将来避けられない高齢化社会の到来、エネルギー問題などを考えに入れると、長期的視野にたつた先行投資が必要だ、と訴えている。そこでその具体策だが、

●ゼロハン・カーが道路を占領する日は近い

超ミニカー——オートバイに箱をかぶせたような超ミニカーの人氣がうなぎ上り、目下のところ輸入に頼っているが、国内メーカーが見逃すわけはなく、製品化を急いでいる。この超ミニカー、三輪か四輪だが排気量は五〇ccだから原付き免許で乗れる。当然、車検はなく、保険や税金も安い。時速は三十キロで、一リットル当たり三十五キロは走る。いいところづくめだが、フランス、イタリア、西ドイツからの輸入で二台六十万—百三十万円と高いのが難。それでも全国で約二十万台走っているところ。さて、国産勢では鈴木自動車CVTを発表した。一人乗りの四輪で長さ一・九、幅一・二、高さ一・三メートル、重量百四十五キロ、車体は繊維強化プラスチックだ。

●好みの番組を磁気カードで買う新TV時代

衛星放送——放送局ごとにある電波塔、局と局を結ぶマイクロ回線。こんなわずらわしいテレビ放送のシステムを一個の人工衛星によつて代替しようとするのが衛星放送。昭和六十三年に打ち上げられる放送衛星BS-3は重さ五百五十キロ、赤道のカリマンタン上空約三万五千キロの手前に「静止」状態にされる。これへ向けてテレビ局から電波を发射、衛星がこれを中継増幅して日本へ向けて発信し、各家庭は、直径六十センチメートルのパラボラアンテナで受信する。山やビル影による電波障害はなく、キー局が衛星放送すれば、全国各地で直接受信できるため地方のテレビ局は不要になる。これに先だってNHKの難視聴地域解消用に、五十九年

●50万トン級を三時間で通過させる新パナマ運河

第二パナマ運河——カリブ海と太平洋を結ぶパナマ運河は、スエズと並んで海上交通の要衝であるが、いづれも、激増する船舶量・大型化に耐えかねて拡張の計画が進められている。パナマの場合は、永野重雄・日商会議が中心になって推進してきた第二運河の構想が、一歩一歩実現に向つて動いており、二十一世紀へ向けての壮大な事業として結実しそうだ。永野案によると、現運河の西方十五キロ、パナマ共和国の太平洋岸フェルト・カイミトと大西洋岸ラカルトを結ぶ九十八キロ（内陸部五十八キロ）幅二百四十メートル、深さ三十三メートル、水平式の新運河を掘る。これによつて、三十万重量トン、満潮時五十万重量トンの船舶が三時間で通過できる。一

九一四年に開通した現在の運河は三カ所の水門を持ち、五万トン級一日三十隻が限界で、通過に八時間かかる。しかし、すでに満杯の状態で、実際には二—三日もかけて通航しているという。パナマ運河は今世紀末にアメリカからパナマに返還されるが、これにともなつてアメリカは、戦略上の要請から新運河の建設を計画、パナマ側の感度もあつて、この間、永野案頭が取りまとめに奔走していた。このほど、米・パナマ両政府によつて企業化調査準備委員会が発足、日本政府も参加することになり、官民合同のプロジェクトとなる。工期十年の大事業だが、資金は二百億ドルとみられ、財政上の問題解決が、第一の関門になりそうだ。

●常識を持った機械って想像できますか？

自動翻訳——SFの世界では、地球以外の星からやってきた生物が、日本語や英語で話しかけてくる。自動翻訳装置で話すことが出来るのだ。この装置の開発が始まったのは一九六〇年代、コンピュータ一般化しだしたころだった。しかし、このときは「手間、コスト、誤訳率で実用にならない」とアメリカではそのままになってしまった。その後、カナダやヨーロッパのような複数の公用語を用いる国で研究が続けられ、六年くらい前から一部実用実験に入っている。日本も大量の英文情報が必要としているので関心は深かったが、言語体系の違いからむずかしいとされていた。しかし、半導体技術の発達によって、プロセッサを実用化し、次の段階として

●あなたは死期を知る心構えがありますか？

ホスピス——ガンなどで助かる見込みのない末期患者たちを受け入れ、安らかな最期を迎えさせる施設として、ホスピスの存在が注目されている。手の施しようがなくなった患者に対し一分一秒の延命治療をせず、苦痛をやわらげることを第一とする末期治療については、医師たちの八〇パーセントが意義を認め、生命維持最優先の単純なヒューマニズムだけでは通用しない時代がきているともいえる。ホスピスの制度は一九六〇年代イギリスではじまり、アメリカに伝えられて広まった。アメリカではすでに四、五百、イギリスには六十施設もある。医師、看護婦は当然のことながら、ソーシャルワーカー、聖職者チームを組み、末期患者の心身の痛みをコントロールすることに努める。また、家族らが二十四時間、いつでも訪問できる設備を整えている。日本では、大阪市の淀川キリスト教病院、浜松の聖隷三方原病院のほか、東京、松山などで先駆的な活動が行なわれている。問題になるのは病状の宣告。欧米では、不治の病の場合、本人に告げるのが当然とされており、それによって覚悟をきめ、身の回りの整理をする余裕を得る。日本では、本人に隠すのが通例で、これならホスピスは成り立たない。しかし、最近の調査では、医師の中にも宣告派がふえつつある。そうなる、近い将来、ホスピスはかなり普及することになるだろう。

●学歴社会に風穴か？ 米大学の日本校設置

日本分校——自由化・国際化の波は閉鎖的な大学の世界にも押し寄せてきた。アメリカ・ホルチモアにある名門私立ジョンス・ホプキンス大学が日本分校の開設を計画している。日本の社会にとけこんで、日本を中心にアジアの文化・歴史・経済などを学ぶ大学院修士・博士課程を置く。当初は、アメリカ人を主体に教授・学生合わせて二百人程度の研究施設だが、やがては日本人の講師や学生を受け入れるという。長年の歴史をもつジョンス・ホプキンス大学は、医学・工学・国際関係などの学部をもつ総合大学で、学生数は一万人。イタリアにも分校を置くなど、国際交流に力を入れてきた。日本分校は、神戸市が垂水に造成中の研究学園都市に誘致される可能

●翔ぶのを妨げる、田であるというしがらみ

離婚予備軍——昭和五十六年の離婚件数は十五万四千組で史上最高を記録し、厚生省統計情報部の「人口動態の概況」が報じている。この数字も、破壊された夫婦関係の実態を示すものとしては、氷山の一角にすぎない。ある調査では、離婚申立をした人で実際に離婚に踏み切るのは四〇パーセント程度とのこと。また、調停委員の「女はがまんしなさい」的発想に不承不承、調停を取り下げる婦人の根柢の声も高いことだから、離婚予備軍の数はかなりのものようだ。ある女性評論家が主宰する、「二〇二〇離婚講座」が盛況なもの、こういった現象の反映だろう。比較的学歴が高く、収入も安定した「中流家庭」の主婦が多い。彼女たちは、昔風の夫の不貞

といったことよりも、家庭観や人生観の違いを主な原因にあげ、離婚を志願する。しかし、やり直しがきく二十代、三十代と違って、四十代以上の人たちは「生活への不安」を覚え、結局思いとどまる。総理府がまとめた「青少年と家庭に関する国際比較調査」によると、日本の夫婦にとって最も大切なことは「子供がいること」。離婚を思いとどまる理由として「子供への悪影響」をあげる人が九〇パーセントもいる。その一方で、専業主婦であることに悩み、不安を持つ人が六十八パーセントも。子供にとっての母であるより長くつきあう夫婦の関係を見直さなければならぬときがきているようだ。

特集
道楽



◆冬から夏へ◆



道楽

●部会メンバー『道楽』アンケート回答●

今回の特集は“道楽”です。広辞苑では“道楽”とは、本職以外の趣味などにふけること。また、その趣味、等々とあります。そこで、メンバーの方々がどのような道楽をお持ちになり、どのように道楽をとらえていらっしゃるか、アンケートさせていただきました。

ご回答をいただきましたのは、つぎの二十三名の方々です。

《編集部》

①道楽お持ちですか？ ②具体的には？ ③いつ楽しめます？ ④道楽の意味？

近畿日本ツーリスト(株)日本観光文化研究所 員／加藤秀俊部会
① 以前は道楽これ人生といった実感を持っていましたが、次第に後退して、いまは趣味程度です。

宮本千晴さん



日本国有鉄道資料局計画課長／国際交流研究部会
① 持っています。
② 食道楽、絵とか音楽の鑑賞。
③ 多忙中にも暇を道楽のために生み出すことが大切。
④ 画一的な、とすれば管理社会の中に埋没して余裕が失いがちになるので、それをカバーし、人生にうるおいを持たせることが最大の意味を持つと思います。

三村忠良さん



近畿日本ツーリスト(株)日本観光文化研究所 務局長／加藤秀俊部会
① 特別に自分で意識するような道楽はありません。強いて言えば、民族学にかかわる日常生活そのものが、世間からみると道楽になるのではないかと思います。
② 民族的、あるいは民族学的な調査や資料収集であちこちに旅に出ます。はじめのころは真面目にノートとカメラを使って記録をとっていましたが、最近はノートもカメラも出さず、とりわけて質問もせず、許される範囲でお茶を飲んだり酒を飲んだりして、世間話や与太話に時間を費しています。道楽では

神崎宣武さん



② 極道というほどに楽しんだのは山登りとそれにつづく探検。夢中になったのは近年までの白黒写真の暗室仕事。現在ささやかに楽しんでいるのはダイビング。もともと組織というほどの組織もないまま、若い人をたくさん集めて、歩かせたり仕事をさせた日本観光文化研究所の運営という仕事も、最初の一年余は道楽と区別できませんでした。
③ まとまった仕事の切れ目。
④ 生きていることの喜びを教えてください。ふたたび道楽と区別したい仕事をしたかと思っています。

歌手・タレント／加藤芳郎部会
① 持っておりません。でも道楽ってお金と時間が必要でしょうか？ 最近のフーコさんは時間が無いので道楽を忘れちゃっているみたいですよ！！
② ヨーロッパの家具集めなんか道楽になるかしら。でも利用価値も少ないガラクタを高いお金を払って集めているのだから道楽の部類なのではないか。
③ まず、暇な時間をもて余すときです。でも多忙な時、気分転換に道楽を強いて求めることもあります。つまり、ウサバランにお酒を飲むこと。けど最近健康と美容のためにも、お酒の量は控えめにしております。
④ 道楽は人生の疲労、つまりコレステロールを落とすおクスリのようなものとして考えております。

天地総子さん



③ ないか、と思うんです。
④ もう一つの仕事があるから、これも祭りに出向いた時は、そこに集まった人々との間に世間話が展開します。そして、多くの場合が酒が介在します。ですから、仕事ともいえるし、道楽ともいえる状態で今後も旅の人に接触し続けるのではないかと思います。



伏見康治さん

名古屋大学・大阪大学名誉教授・日本学術会議会長／茅誠司部会

- ① はい。
- ② ①絵というよりグラフィック。②折紙の数学。
- ③ ある程度、長い時間の暇があるとき、それが適一回位の頻度であれば、電車の中とか、寸暇の中でも、それを考えることができる。
- ④ 頭のエクササイズ。



松原秀一さん

慶応義塾大学文学部教授／国際交流研究部会

- ① この質問で、趣味はあっても道楽は無いことを発見しました。
- ② ピアノの連弾が好きですが、何ヶ月かやらずと我慢していられるところを見ると、道楽とは言えないかもしれません。一般に合奏

が好きです。ハイドゥン、モーツァルト、ベートーベンからダンディ、ジョーソン、フォーレなどまでの弦楽四重奏のピアノ連弾譜を蒐めて持っています。

③ 相手がいなくては出来ないもので、相手の都合が良い時。

④ 専門と異なる楽しみを持つことは、人生を豊かにします。また、言葉以外の表現をすることで、言葉の極性を脱られることも気分を楽にします。



ロミ山田さん

歌手・俳優／加藤芳郎部会

- ① はい。
- ② 室内装飾（家具・じゅうたん・カーテン）に大変興味があり、お金がある時にイメージチェンジをするのが大好きです。
- ③ 麻雀（ストレス解消に一番です）。
- ④ インテリアはお金のある時しか出来ません。麻雀は、仕事が一息ついた時、休みの前とかです。
- ④ 仕事と遊びの切りかえは、人生に必要です。よく働き、よく遊べの精神で道楽とか趣味とかは、働く力の原動力ともなり、ストレスの発散するのにも役立つと思います。



木田 宏さん

国立教育研究所所長／大来佐武郎部会

- ① 人にお話できるような道楽を持っていないのが残念です。
- ②
- ③
- ④ 他を忘れて、気持ちを集中できる楽しみがあるかどうかにか気持ちはいいゆとりができて、またそこから新しい世界が広がって、人間の中が大きくなるだろうと考えます。



青空うれしさん

テレビタレント／加藤芳郎部会

- ① ハイ
- ② ①野球（自分のチームを二〇年前から持っていて地方にも遠征に。また、プロ選手のグローブ・バット・スパイクを沢山貰って集めている）

② 有名人のお墓の写真を撮り歩いている。現在二万枚近く……

③ 野球は仕事そっちのけで……。墓は近く本にまとめるべく……。仕事にかけたついで、或いは近頃は車で積極的に……

④ 野球の方は自分の健康の為、そして若い連中と一緒にプレーしていると若さを失わない。墓の写真は、どんな有名人も故人になると忘れられてしまう。墓を訪ねて、歴史のウソも発見出来る。



石井好子さん

歌手／国際交流研究部会

- ① 料理は家人に喜んでもらうためと同時に、友だちにも楽しんでほしいので料理します。料理の本によく目を通して、この次はこれを作ってみようと思うと、その料理作りになります。皆様おいしいと言って食べてくれるとき、幸せになります。釣りも誰でも出来るような釣りです。湖水でわかさぎ、鱒など釣ります。それも、わかさぎは空揚げ、鱒はムニエル、燻製と料理するので、二つの道楽はちよつとつながっています。
- ④ 息抜き・気分転換・楽しさと共に一生懸命の気持ち。



坪内ミキ子さん

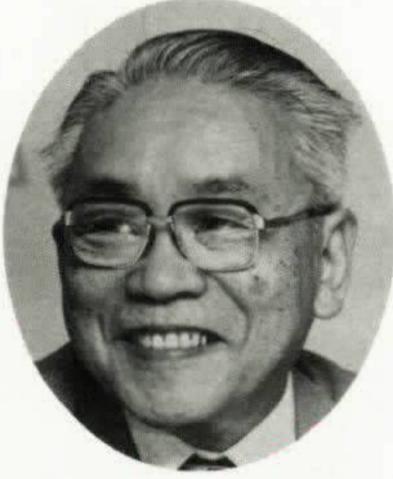
俳優／加藤芳郎部会

① 二週間考えつづけていたのですが、道楽といえる程のものはないようです。

②

③

④ 利害や義務を伴わない楽しみであるからして、人生の、心のゆとりのバロメーターであると思います。故に、私などは、生活にゆとりのない証拠なんだなアと情けなくなっています。



向坊 隆さん

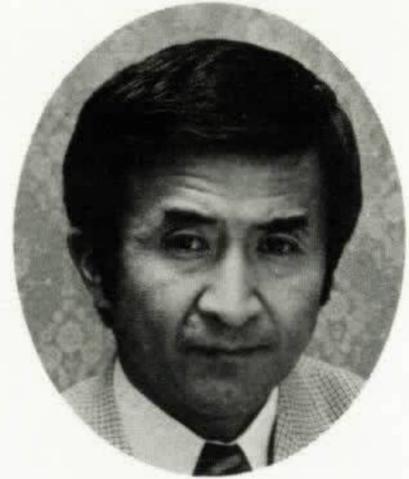
原子力委員会委員長代理・前東京大学総長／21世紀フォーラム発起人

① 持っています。

② 写真撮影。

③ 孫と遊ぶとき・旅行・庭の植木（若葉）

④ 花・紅葉のとき）
余裕。



佐々木信也さん

スポーツ・キャスター／国際交流研究部会

① イエス。

② 旅のプランニング。家族、親戚、友人を連れて行って楽しませる。

③ 時間的、精神的に余裕があるとき。

④ 精神的エネルギーを蓄積するために絶対に必要なもの。



木元教子さん

放送キャスター／茅誠司部会

① 道楽かどうかわかりませんが、持っています。

② 海にのり出すこと。クルージング。そしてトロリング（私は一級小型船舶操縦士で、仲間と二十四フィートの船を持っていますの

て）。

③ ふいに誘われた休日とか、無理してでも作る休日とか……。

④ 「生きる」ことが好きになる要素がありません。



渡辺文雄さん

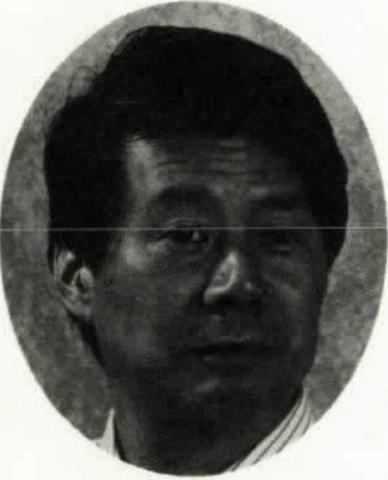
俳優／加藤芳郎部会

① 毎日の仕事そのものが道楽のようなものですが、あえて本職以外（本職がなんなのかわからないと判然としないところがあります）という事になると、俳句位でしょうか。

② 俳句。

③ 月一回の句会。

④ 月一回の句会ではいろいろな職域の人たちと会えるが、一番意味があると思っています。



吉川 光さん

NHK整理部担当部長／国際交流研究部会

① 残念ながら、今の私には、道楽といえる程のものはありません。しかし、道楽といえれば、モスクワにいた頃、日曜日など、よく郊外のアルハンゲルスコエなどにある帝政時代の貴族の別荘へドライブしたことがありましたが、そこには、貴族が農奴にオペラを演じさせて楽しんだ立派な農奴劇場があり、道楽とはこんなものかと思ったことがありました。文化に違いはありますが、日本には、いまだにオペラ劇場一つ無い今日、ロシア貴族の道楽のスケールの大きさに、愛着のようなものを感じます。



富田純孝さん

NHKディレクター／加藤芳郎部会

① 道楽と呼ぶほどのものを持つヒマ（時間もオカネ（懐の余裕）も有りません。徹底するものがないと道楽といえないんじゃないかと、私は思っています。趣味はありますが……。

② ささやかな趣味ですが、三〇年も前の古いカメラをいじるのが好きです。カメラ（マニアルなもの）やレンズのメカニズムが好きなのです。

③ 休みの日です。

④ 趣味に没頭する時は、最高です。



山城祥二さん

芸能山城組組頭・筑波大学講師／国際交流研究部会

- ① いいえ。但し、周りの者は、「はいッブくしだろう」と言っております。
- ② 身に覚えのないことながら、周りの者は、「全てが道楽だろう」と言っております。
- ③ 同じく身に覚えのないことながら、「二六時中だろう」と周りの者は言います。
- ④ 「道楽」です。



前田陽一さん

財団法人文化会館専務理事・東京大学名誉教授／松本重治部会

- ① 持っています。
- ② 音楽、特にバロック。若い時はフルート、ピアノ、声楽などを楽しみましたが、現在では聞くだけ。

- ③ 家にいる間は典型的ながら族で、来客や面倒な文章を書く時以外はたいいレコードかカセット・テープかFMをかけています。通勤時間にもFMで古典音楽をやっている、イヤホンで聞いています。
- ④ つまらないことにくよくよせず、また退屈のおそれもなく生きて行けることに感謝しています。



松平定知さん

NHKアナウンサー／加藤芳郎部会

- ① 「ハイ」。金がかかって、所謂趣味とくらべると、若干、かげりのある雰囲気。道楽」という言葉に持ちます。そういうことといえば、私の、その範囲にないのかわれませんが……。
- ② 「風呂にっかりながらの読書」。ぬるーい湯に入ったり出たり。風呂場に二時間。風呂桶にわたした板(蓋)の上には、本、ラジオ、ビール、タオル(禁煙前は煙草に灰皿)。
- ③ 「何にもない休日」。何にもない休日か余りないのが残念ですが、宿酔とその休日が多くなった時など、目に入る汗に顔をしかめたりしながら、腹一杯の幸福感・充実感に浸ります。
- ④ 「明日への活力の源泉」。



尾関通允さん

著述業・自由学園講師／茅誠司部会

- ① 持っています。
- ② ①乱読、仕事に関係のない本でも、おもしろそうだと思うたら片っ端から。
- ② メダカの増殖。
- ③ ①ひまなとき。
- ②体調が悪くて本来の仕事に打ち込むのがおっくうなとき。
- ④息抜き、気分転換。メダカの増殖については若干の野心も。



滝田実さん

アジア社会問題研究所理事長／大来佐武部会

- ① あります。ただし、子供の頃、町に一台の自動車が出現した。そのとき、町の人びとは、あれは「道楽バコ」だと呼んだ。それ以来

- 来「道楽」というイメージは私にとってかんなばしいものではない。
- ② 絵を描く。テニス。
- ③ ストレス解消のために。
- ④ 絵は心を和らげ、テニスは身心をきたえるために。

黒川和哉さん

NHKディレクター／加藤芳郎部会

- ① なし。趣味の域を脱しておりません。また、年令上からも。
- ②
- ③
- ④ 年令的、または収入の面など全てに余裕ができてからのことだと思います。

もう少し若いころは「趣味は何ですか？」

と聞かれれば「ゴルフ、ドライブ、旅行」なんて答えていたのですが、考えてみると自分が楽しめるものが趣味だったようです。

ところが、それが少しずつ変わってきて、自分ももちろん楽しんでいますが、それ以上に人を楽しませる楽しさを覚えたんです。

たとえば海外へ出かけるとき、遊びの場合一人では行きません。もともと人数の少ないのが二人で私と女房、それから子供たちを含めた家族四人、さらに、それプラス親しい友人夫婦、親戚、子供たちの友人など、多いときは十人近くになります。

そういう場合、私がいま考えるのは、どうやってみんなを楽しませようかということ。場所、ホテル、食事、観光、ゴルフ、ショッピング……、ガイドブックや経験をもとにプランを立てます。

そして、旅行社に頼んで私が指定するホテルの部屋をとり（ときには部屋番号を指定することもありますが）、飛行機を予約、現地の友人に電話して空港に迎えにきてもらいます。そんなときも、人数は8、バゲージは7、ゴルフバッグが6、できたらマイクロバスを、なんて頼み方で、ちょっとした旅行社という

感じですか。

そして、これは私のやり方なんですけど、転々と場所を移動するやり方は避けて、多くても二カ所、なるべく一カ所にゆっくり逗留する。トランクから着るものを全部出してクロークのハンガーに吊す。これは、一泊か二泊で転々とする日本人好み？のパッケージ旅行

人を楽しませる道楽

スポーツ・キャスター／国際交流研究部会

佐々木信也

では出来ない芸当です。

動きすぎる旅行は、トランクから着るものを出すときも、せいぜい一、二枚、荷物のつめ替えて気が安まりません。そして、観光で移動するときも、レンタカーなどで動き、ホテルに戻ってくるというやり方、この方法が好評です。しかも、こういった遊びのスケジュールの

決め方もルーズにしておいて、当日の天気とか、みんなの身体のコンディションを考えて、予定はしばしば変更します。

ここ数年、夏休は7、8人でハワイのマウイ島に行ってますが、団体客があまり来ない静かなホテルで、前はプライベートビーチとプール、建物の反対側はゴルフ場、クラブハ

日没を見ながら、海のそばのレストランで一回、街に出ていって中華を食べ、ジャパニーズレストランも三年前に見つけました。油っこい食事に飽きたころ、この和風レストランで冷や奴、ミソ汁、やき鳥、スシを食べさせたときのみんなの顔を想像してください。

いつからこうなったのか、よくわからないんですが、そんなプランをたて、みんなを連れてゆき、帰ってきてから「本当に楽しかった。ありがとう」なんて言われると、ゾクゾクするほど嬉しくて、また連れていってあげよう、なんて思うんです。

私に、そういった接客術が備わっているかどうか、まるでわからないんですが、やっていて楽しいことは事実です。

こういう旅のプランングと実践は、ひょっとしたら私の「道楽」かもしれない、と思いはじめているんですが、血液がA B型の人にはそういう要素があるんだ、と聞かされたことがあります。

でも、人を喜ばせるのが道楽だなんて、これはちょっと変わっているかもしれませんね。そう思いませんか。

そして食事ホテルのダイニングで一回、

今から何年前のことであったかは、はっきりとした記憶はありませんが、私がNHKの連想ゲームのキャプテンを勤めさせていた頃のことです。

私が壇フミちゃんに求めようとする答えは「道楽」だったので。

私は、とつさに頭に浮んだヒントの言葉「酒……」「女……」「マージャン」なのです。

道楽と言う言葉を、あらためて考えてみますと、趣味、のことなのか、あるいは道理をはずした遊びのことなのか等々と言葉の幅の広さに、迷わされてしまいます。

昔から、酒道楽とか女道楽とか言う言葉は耳なれていますだけに、道楽と言えば悪いおこないを連想しがちになります。

しかし、その言葉も決して間違っているわけではありません。

- 国語辞典を開いてみますと、道楽とは、
- ①本職以外のものごとくにふけて楽しむこと
 - ②おこないの悪いこと。
 - ③不身持ち、等と書かれています。

さて、私が本能的に求めている道楽といえ、ストレスが解消出来るおこない、であると思います。

そのストレスを解消出来るおこないとは、一体何であるか。

先ず一番先に出る答えが「オサケ……」です。一人ぼっちの時でも、深夜でも、あるいはベッドの中にもつきあってくれ、一日の疲れを癒やし、心をなぐさめてくれるんですけど。

道楽は人生のカンフル

天地総子

歌手・タレント／加藤芳郎部会

お酒は私の道楽//念のために申し添えますが、私ことフーコさんの飲むお酒の量はそんなに多くはありませんのよ。

仕事を道楽だと言って楽しんでいる人の話を聞くこともあります、そんな人はとても羨ましく思われます。私なんか道楽のつもりで好きな芸能生活を志ざしたわけですが、

この世界こそ限らない勉強を必要とされ、浮き沈みの激しいゴールなきマラソンのようなものなのです。ですから少しでも怠慢なんかしているものなら、すぐに過去の人となってしまい、とても道楽なぞと呑気なことを言っていられる世界ではないのです。

さて、私には手芸のような女性らしい趣味も昔から持たなかったし、道楽といわれても迷ってしまうのです。

我が国では、道楽ということは、殿方のおこないであり、女性に道楽なぞと言うことは適さないと言う先入観からかも知れません。

しかし、道楽はストレスの解消、人生のコレステロールの除去にもなりましょうから、「世の女性の皆様方よ、大いに道楽をお持ちなさい」と申し上げたいのです。

道楽と言って聞かえが悪ければ、趣味をお持ちなさい、と考えていただければ良いでしょう。

とかく女性は、よどんだ水の如く、マンネリ化した生活に惰性で毎日を送っている人が少なくありません。

よく意欲的に仕事をする男性は、よく遊ぶといいますが、女性も可愛い道楽を持つことにより、人生の活性ホルモン剤としてメリハリあるフレッシュな言動と美しさを保つことが何よりの美容法ではないかしら、なぞと、生意気に説法めいたことを書く前に、私自身に何か可愛い道楽はないかしら。

道楽、道楽、道楽、一体何なんだろう!!

理を脱線したおこないですが、男性と違って私達女性に対する世間の見る目は、厳しく奇妙の遊びや、本能的欲求を発散させるようなおこないは出来ませんものね。エッ!!私の考えが古いですって? でも、清く正しく美しくって良いものよ。

③の不身持ち等と言うことはもってのほか

道楽あれこれ

特集対談

向坊 隆

原子力委員会委員長代理 前東京大学総長 / 21世紀フォーラム発起人

中根 千枝

東京大学教授 国際人類学民族学会副会長 / 大来佐武郎部会

いてあるんですから、女の場合は、男にめり込んでどうのこうのということは、社会習慣としてもあまり無いしね。

向坊 しかし、最近では、まあ中根さんもその代表的な一人だけど、女の人でちゃんと自立して、生活力のある人っていうのが、だいぶ増えてきたわけでしょう。そうなれば、女の道楽もありうるわけよね。

中根 だけどねえ……(笑い)。男の人の方がのめり込みやすい……(笑い)。

向坊 外国はどうでしょうね。やはり道楽っていうのは、生活に余裕のある人でないとないんじゃないかなあ。

中根 だけど、イギリスの上流階級のことを考えると、生活に余裕があるからこそ道楽にならないですね。生活を破壊しませんから。

向坊 たとえば英国の貴族が狩猟をやりますが、何でしょうね。あれは。

中根 堂々と生活体系の中に組み込まれていますから、さっきおっしゃったように、本業に差し支えるとか、家族に迷惑をかけたりにすることは無いでしょうね。イギリスの上流階級は、本業が無くて墮落しないってことを誇りにしてたんですから。

向坊 しかし、日本でも、お金持ちが自分の財産を潰すほどではないけれども、壺や絵に凝ったというのがあるでしょう。あれもやはり道楽ですよ。

中根 そう、日本ではね。

向坊 外国でも、その程度のもは……。

中根 外国では、その程度では潰れないし、潰れるほどの人はあまり道楽しないんじゃないですか。日本人のほうが、道楽するみたい

道楽にまではなかなかに至りません

向坊 道楽を字引で見ると「趣味にのめり込むこと」と書いてある。和英には道楽という言葉はないようです。趣味はホビーで、ウエブスターでホビーを見ると「自分のオキユベレーション(職業)に関係ないものによりラックスするために従事すること……」。やっぱり趣味です。道楽じゃない(笑い)。

中根 中国の原典にも無いんですね。日本的な意味合いの強い言葉で、江戸時代からよく使われるようになったのではないのでしょうか。用語としては仏典にみられますけど、ドウギョウと読んで、本当に道を極めるという意味なのです。

向坊 楽しみながら極めるのかな。
中根 そうかもしれません。日本では日本人は真面目だから、楽しむというのはちょっと悪いことみたいになってしまうのではないかしら。

向坊 要するに遊びですよ。ま、一時的な遊び、それが趣味に深まり、のめり込んで道楽になる。程度の問題だと思っんです。それとも一つ、字引には「飲む打つ買うの激しい状態」とも書いてある。

中根 ハハハ……。

向坊 趣味が行き過ぎて、自分の本業にも差し支え、家族にも迷惑をかけ、破産するまでいってしまうようなものも道楽ですが、そこまでいなくても、非常に熱心に行っている趣味のことを道楽っていうことが多いですね。その軽い方で考えても、僕に道楽はないんですよ。せいぜい趣味どまりなんだ。

中根 そうですね。道楽には、それぞれの専門があつて、そこからはみ出たというような意味がありますね。だけど、その専門をひどく楽しんでいたら、その中に入ってしまうんじゃないの。専門というものをひどく真面目に考えちゃって、楽しみはその外でというのが普通なんですよ。人によつてはこの境界が無いような場合もありますよね。そうなる道楽があるかないのか判らないことになって、改めて訊かれると、道楽は無いってことになっちゃう。向坊さんの場合はそういうことはないですか。

向坊 英語でも日本語でも、字引には本業、本業と書いてあるけれど、たとえば定年後に、食べるには困らない。しかし趣味の非常に深

いものにのめり込んでいる人がいれば、やはり、それは道楽というんだと思うんですよ。それから子供には無い。子供は何やっても道楽とは言わない(笑い)。ま、道楽ってものをキチッと定義づけるのは非常に難しいように思うんですが、しかし、いろいろ考えても、僕には道楽は無いですよ。趣味は軽いんですよ。時間も金もそうかからんし、ほかにあまり影響を与えない。僕の場合、甚がそうですね。それにクラシック音楽を聴くこと、ゴルフもそうだ。それから写真、これは一時は非常に凝つて、現像、焼付けから引伸ばしまで全部自分でやったわけで、あれは道楽に入りかけたけど……。そういった趣味はいろいろなありまして、それが自分のストレス解消にはなっていると思うんですけどもね。中根さんはどうですか。

中根 道楽って、男の方の持つものじゃないんですか。
向坊 いやいや……(笑い)。
中根 女の人だと、そんな大きいことはしないし。やはり道楽息子とか道楽坊主とか、先生がおっしゃったように、家庭に迷惑かけたり、本業にも差し障るほどのめり込むことでしょう。字引にも「女」とか「酒」とか書

ですね。

向坊 中根さんの趣味はどうなんですか。

中根 私は真面目なのかなあ……。油絵なんて、やり出すと本業化されちゃうから、そうならないように忙しい時は全然やらないとかね。だから道楽にならないんです。

向坊 絵を書くのはお好きなんですか。

中根 ええ、子供の頃からずっと好きでしたね。ですけど油絵は時間がかかりますし、やり出すとほかの事が全部ストップしてしまう。だから最近は夏休みとかでなければ描けないんです。あれでのめり込んで、大学へも出なくなれば道楽になるのかも知れないけど、そうはなりませんものね。

向坊 気分転換には……。

中根 わりあい外国の友人がよく来るんです。それもタイミングよく……。ですから、外国の仲のいい友人と、夜一諸に食事したりするのがとても気分転換になりますね。お酒も嫌いじゃないんですが、男の人とはちょっと違うんでしょうけど、同僚と飲んでストレス解消にはならないですね。問題も気分も続いているわけなんです。だからお酒で気を晴らすことはあまりないんですよ。そのときに、ポツと外国から来た親しい友達と話をすると、日本の日常生活とは全く世界が違うから、話題も気分もすっかり違って、楽しいですね。

向坊 食道楽は？

中根 おいしいものは好きですけど、そんなに凝って、どこの何とかか……。

向坊 捜してまで食べるとか。

中根 そこまでではないですね。

向坊 僕のストレス解消は酒ですね。ただ、若い頃は大勢の友達と飲むのが一番よかったんですが、だんだん年を取って来ると、独りで飲むのが一番よくなって来る。

中根 アラ、本当ですか。

向坊 ええ。独りで飲むのが一番ストレス解消になる。ほかの人と飲んでいるときは、やはり、ある程度気を遣ったりして。

余裕を持ち得る恵まれた日本の現状

中根 パーなどはどうなんですか、男の方は……。

向坊 そうですね。ストレス解消に非常になる人と、必ずしもそうじゃない人というの、パーの遊びのうまい人というのは、パーの女の子を喜ばせるような人が……。

中根 そうね。サービシシなきゃね。

向坊 サービシしているわけですから、本当のストレス解消にはならないのよね。氣遣っているわけですよ（笑い）。

中根 日本人というのは、違う世界の人と会うことが少ないから、どうしてもストレスがたまりやすくなりますね。香港やシンガポールで日系企業に雇われている中国人などをみてみると、西洋人も勿論そうですけど、会社が終わりますと、パツと同僚と切れて、自分の友達と一諸になるとか、家族とか親類と一諸になるとか、違う世界に自分を置ける人ですよ。日本の場合は、まあ、わりに真面目な会社員ですと、勤務中はずっと会社の同僚といて、飲みに行くのも同僚、帰るのも家でしよう。一つの同じ世界の中に生きているから、そこで何かうまくいかないと、もうちょ

中根 先生でもそうとは知りませんでした（笑い）。

向坊 ハッハッハ……。やはり、氣遣ってますよ。だから、あまりストレス解消にならない。だから家で……。あまり量は必要ないんです。酒にすれば二合ぐらい、その程度を、独りでゆっくり飲むっていうのが、ストレス解消になりますね。

つと逃れるところが無い。外国人の場合だと、人につき合うにしても、会社とは関係ない、全然別の人のところへ行くでしょう。このあいだも、アメリカの社会学者と話していたら、アメリカでは、同僚というのは友人と違うというんですね。同僚の中で仲のいい人でも、必ずしも友人とは言わない。全然別のカテゴリーの人間の付き合いを持っているんです。

日本の場合には、たいてい会社の中とか、同じ職場の中に友人がいるんですね。だけど、まあ日本でもいいのは職場を異にする同僚の友人関係ですね。

向坊 そうね。

中根 大学出てくる人だったら、官庁とか企業とか、全然別のところに親しい同窓生がいますから、それらと会うのはストレス解消になりますよ。そうした友人関係の少ない人には、どうしてもストレスがたまる。

向坊 中根さんも私も、開発途上国のことを割合よく知っているほうだと思っただけでも、開発途上国には、本当にどうしても余裕の持ちようがないっていう人が相当いますよね。

中根 いますね。

向坊 本当に生きていくだけという状態にある。しかし、もう日本なんかでは、持つ気になれば余裕の持てない人っていうのは、非常に少ないと思うんです。

中根 そうですね。持つ気になればね。

向坊 そうなったら、計画的にでも、あるいは無理してでも、ストレスを解消したり、余裕を持つという努力をすべきじゃないかと……。

中根 そう。

向坊 いま中根さんのおっしゃった、仕事をして友達と付き合い帰るにしても、必ずしも毎日やる必要はないんです。付き合いは一日置きでも何日置きかでもいいんで、それでストレスを解消し、余裕を持つことは可能だろうと思うんです。

中根 そうですねえ。

向坊 そんなに金を使わなくて、持っている道がいろいろあるだろうと思う。そういったことが、非常に大切なんじゃないかという気がするんですが。

中根 最近の新聞でしたか雑誌でしたか、切手を集める人たちがいて、ひと月に一回、第三日曜なんかには、どこそこのホテルで集まるとか……。全国からすごい仲間が来るんだそうですね。切手といっても、一枚三百万円とか書いてありましたけれども（笑い）。そういうような切手にしろ、なんにしろ、いろんなことが出来るんですね。現在の日本人だったらね。

向坊 切手の場合は、おっしゃるとおり、世界的にそういうのがあって、切手の収集家

というのはフィラテリストとかいう特別の言葉があるくらい多いですね。しかし、切手の場合には、よく分らないが欲が絡んでいることがあると思うんです。

中根 二百万円とかいう、お金の高いのがね(笑い)。

向坊 だから、純粹の趣味といえるかどうかですよ。

中根 激しいほうの道楽になっちゃう恐れがある。

何にでもものめり込みやすい日本人

向坊 そうそう、あれなんか道楽といえるかもしれないね。——ま、今後の高齢化社会といったことを考えると、生活に余裕を持ったり、自分に非常に合った趣味なり道楽なりを持つという事は、道楽も必ずしも悪い場合ばかりじゃないんで、生活の余裕の中で

向坊 財産保全の一つの手段だと思って始めたなんていう人もあるらしい。

中根 ああ、なるほど。

向坊 まあ、他の道楽でも、場合によって

は、そういう欲と絡んだ場合もあるでしょうけど、しかし、そうじゃなくて、主として好きでのめり込む場合の方を言うのじゃないかね。

中根 ハムというのもありますね。世界中と無線で交信したりなんかして、ハムの仲間というのがまたあって……。

やれる範囲の道楽は、高齢化社会のためにもいいことかもしれませんね。

余裕を持って生活するという事は非常に大事なことだと、私は思っているんです。たとえば、大学で学生諸君と話をする場合にも、

相手が余裕を持っている人か、持っていない人

かというのが、議論をしていると判るんですね。余裕のない人は、やはり、議論がどうしても片寄って、公平な判断が出来ない。スポーツ選手を見ると、大概膝を曲げて、余裕のある姿勢を持っていますね。膝が伸びていたらほとんどすべてのスポーツは駄目ですよ。

余裕のある姿勢を必ずとっている。

中根 ああ、そうですね。

向坊 踊りだっただけでいい。膝を曲げてない踊りはほとんど無い。

中根 ええ。

向坊 それから、落語なんか上手か上手でないかという一つのファクターは、間の取り方です。咄しが続きっぱなしでは面白い話にならない。うまく間を取っているということ

が面白い。それと同様に、人生でも余裕を持つということが非常に大事だろうと思っ

てい

るんですけれども、その余裕が、のめり込めるのが道楽だと思ふ。だから道楽までいくのはどうかと……、場合によるんじゃないですか。

見習いたい余裕ある欧米人の遊び方

向坊 アメリカ人は、非常に博打を楽しみますが、自分の小遣いの範囲でやる。たとえば海岸に泳ぎに行くでしょう。日本人は真面目なのか、江ノ島あたりでは皆、イモを洗うように海の中に入る。アメリカの海水浴場では海に入っているのはポツリポツリ、一番多いのが陽なたぼっこしている人ですね。本当に水泳の好きな人は、海岸に出来ているプールで泳ぐ。汀で子供がポチャポチャやって、少しの大人がそれを見ている。残りの大多数

中根 日本人って、のめり込み易いんじゃないかしら。わりに一生懸命になるでしょう。チベット人がパチンコ習い出して、日本人は何でも真剣になるっていうんですよ。パチンコやっても、本当にどうしてあんなに真剣になつて、あんなに巧くなつちゃうんだらうって。遊びじゃないんだあ、って言うんだけど。どの道でも凄い人がいるでしょう。それが、その世界の理想みたいになるんですよ。

向坊 博打もそうですね。外国にも博打を

商売にしてインチキもやるという商売人は、どこの国へ行つたついているわけだが、普通の大衆が博打をやるときの態度は日本人と違

ますね。日本人はやはりのめり込んじゃう。

中根 真剣になっちゃう……。

向坊 商売で儲けようというんじゃないで

も、のめり込んでやって財産スツチャつたという人がたくさん居るわけだ。確かにそういう傾向が日本人にはありますよ。

中根 なにか一途になつてね。



● 中根千枝



中根 そうそう。
向坊 山で遭難する痛ましい事故が多すぎる。やはりむきになり過ぎてるのでしょうか。もう少し山登りも楽しくやって、絶対安全なときしか登らないとか……。

中根 あれも同じで、山登りの仲間に入ると、すごいプロに近いようなやかましいことを言うのがあるんですね。それで、皆、それを見習って努力しちゃう。ピアノでもそうです。この間、芸大の先生に聞いたんですが、日本ほど一般の子供にピアノ習わせる国なんて無いって言うんです。だから芸大の入試なんかすごいことになる。

向坊 日本では大体、小学校で音楽必修で

人生、楽しくなければ本物じゃない

すよね。何かやらされる。アメリカの小学校はそうじゃない。音楽は課外です。だから、やりたくない者はやらさないし、やりたい者は課外に来れば先生が教えてくれる。絵はありましたかね。僕もそう経験があるわけじゃない、子供の小学校を時々ぞいた程度ですが、絵の時間は、ある子供は手に絵具をつけて床に絵を描いているし、別の子供はちゃんと画用紙にクレヨンなんかで描いている。先生はそれを見て回っているだけ、勝手なことをやらしている。日本じゃ、絵はこう描くんだって先生が教えるんでしょう。

中根 そうですね。

中根 ダンスもそうですね。日本はステップがやかましくて、上手に踊らないと恥かしくて踊れないとかいうんですよ。外国だったら、下手でステップなんかいい加減でも堂々と楽しめるんだけど……。日本にくると何でも遊ぶのか真剣になってしまふ。どこの分野にいつても真剣なのがあるんですよ。

向坊 それが沢山あるんだよね（笑い）。

中根 ええ、そう。だから巧く出来ないとちよつと恥しいということになって、一生懸命努力しなきゃならなくなっちゃう。ダンスなんか、外国では全く社交の楽しみでものね。

向坊 巧くないのが、家族で楽しんでいる。

中根 巧くなくていいんですよ（笑い）。

向坊 楽しみ方をうまくする必要はあるんですね。

中根 そう。

向坊 日本人には、そのめり込むの逆の傾向もありますね。よく言われるんですが、欧米人は休みを十分楽しむために普段一生懸命に働くんだが、日本人はちゃんと働くために休むんだと。だから日本人は働き過ぎだと非難される。それとパチンコや博打にのめり込むのとは、ちよつと逆のような感じがしますけど、両方の傾向があるのは事実ですね。

中根 どちらも、考え方によってはとても努力しているという点では共通しているんじゃないですか（笑い）。

向坊 そうねえ、むきになるっていうのかな。

中根 楽しむっていうことは、努力しなくていいことなんです。だけど日本人だと、働かずに楽しむにしろ、ある目標に向かって努力しちゃうんじゃないかしら。

向坊 山なんかでもねえ。

向坊 ま、私は、先ほども申し上げましたように、人生にとって余裕を持つ努力をするというところは、非常に大事だと思うんです。

放っておいて自然に持てる人もいますし、けど、努力しても余裕を持つ価値がある。それは人生を豊かにするし、仕事もそれでうまくいくし、非常に大事なことだと思うんです。ただ、それが、遊びから趣味のあたりまではいいけれども、道楽になるときは、やはり限度というものを知らなきゃいけないんじゃないかという気がしますね。

中根 私は、立派なこととは何も言えないんですが、道楽の楽は、楽しいって字を書きますね。人生、何でも楽しくないと本物じゃないって気がするんです。楽しいってことは、自分のスタンダードで快適にいろいろなことが出来るってことだと思うんです。

ね。遊ぶことも本職も、まあ、楽しくないことも、個人が置かれた立場で義務としてやらなければならぬこともありますけれども、その義務は、楽しくなくても遂行しなければいけません。ほかに、本業にしろ、遊ぶことにしろ、楽しむことがとても大切だと思うんです。日本では、儒教の伝統か、あるいはそれ以前の文化のせいもあると思うんですけれども、遊ぶとか、楽しむというものはあまりいいこととはされてないですね。道楽でも悪いという……。まあ、本当に悪い道楽もあるでしょうけれども、あらゆる意味で楽しいということは、バランスが取れていることだと思うんです。だから、もう少し日本人は、楽しむことをすべきだと思いますね。なにか無理をしている人が多いみたいな感じがします。

村上兵衛

作家／松本重治部会・国際交流研究部会

体験的 道楽論

財団法人・日本文化研究所が発足してから

数ヶ月のことだから、今から逆算すると、九年ほど以前のことである。私は、その専務理事として研究所をお預りしたものの、カネはほとんどないにひとしい。ない袖をどう振って職員を食わせ、かつ研究をすすめて行くか眠れない日がつづいた。——といえれば少々美辞に過ぎ、深夜、もう眠るより手がないう時間があるとホッととして墮眠を貪り、夜明けとともにまたユーウツが襲ってくる、というような日がつづいた。

そこで私が考えたことは、一業を為すには、自分のいちばん好きなことを、自分に禁ずべきである、ということだった。酒か、女か、煙草か。しかし、どうやらそれは私の「いちばん好きなこと」ではない。私は、自分にモノを書くことを禁ずるのが、いちばん辛いことであると見詰め、そうすることに決めた。それまで、私はモノを書くことを仕事としてきたが、研究所をお預りしたいま、モノを書くのは、いわば私の道楽である。むろん、研究所の目的などについて宣伝吹聴する機会はないが、それ以外の寄稿の依頼は、なるべくお断りすることにした。

この三月末、財団法人・日本文化研究所理事会・評議員会の議を経て、解散した。そもそもこの研究所の目的は、世界的視野をも

つてする日本文化の研究、その成果の内外への普及——というにあったが、われわれはその分野におけるパイオニアとしての役割をすでに果たし、とみずから考えたのである。

いま、私には多少の整理すべき残務があつて、落ちつかない。もうしばらくすれば、浪人としての自分自身を、よりよく見つめることができるようになるだろう。

「辞苑」によると、道楽とは「本職でない他の道に耽り楽しむこと」「あしき遊興即ち酒色・博奕等に耽ること」とある。きわめて正確な定義である。

研究所の仕事をするまで、つまりモノカキとしての私にとって、酒や女や博奕は、いわば私の仕事のうちであった。いや、こういう言い方は正確さに欠ける。モノカキという存在がそもそも堅気の仕事ではないので、文章が売れるというのは、偶然の結果に過ぎない。したがって、モノカキとしての私には、道楽というものはなかった。

私は、酒が好きで、「どれくらいお飲みになりますか」という質問に対しては、しばしばつぎのように答える。

「去年は、三百六十五日のうち、三百六十三日飲みました。二日も飲まなかったのは、風邪で高熱を出したせいで、こんなことは十年

ぶりです」

酒のない人生は、私には考えられない。しかし、研究所の専務理事として飲む、いわゆる交際酒は、嫌いとはいえないまでも、これはまさに仕事のうちであり、サラリーマンのような堅気の酒と同様である。したがって交際酒のあとは、またひとりで飲み直す。

煙草は、いくらか嗜む程度で、ヘビイ・スモーカーではない。ただし、いかにそれが身体にわるいか、周囲に迷惑か、とお説教されたとしても、止める気は毛頭ない。

女——については、あまり語らないほうがいいだろう。

十数年前、私ははじめてヨーロッパを旅し、「ヨーロッパ人類学入門」なる本を書いた。私は、本を書くためにヨーロッパに行ったのではなく、たまたまヨーロッパにおける体験の思いがけなきが、私に一冊の本を書かせた。その内容の半分か三分の一は、女性との交渉に費されている。

私はなにも自分の浮気心や女好きを隠そうとも思わないし、むしろその欲求が他人より劣るのではないかと内心ずつと怖れてきた。また、モノカキであることを男女関係の大義名分にしようなどは、さらさら思っていない。

しかし、酒に限らず、女に限らず、絶えざ



る好奇心を失ったならば、モノを書くことは
終りである。旅のあいだ、たとえば一万メー
トルの上空から、私は新しい土地の上を通過
するときは、地球の表面を少しでも余計に見
てやろう、と窓から下を眺めるのがつねだが、
同様に一人でも多くの男女たちを知りたい、
もつと深く知りたい、と私は思う。ひとりの
人間が、生きていうちに知ることの出来る
男女の数や深さは、きわめて限られている。

道楽は、しばしば趣味と同義語に用いられ
たりする。たとえば骨董をいじっている人間
は、「ちかごろ、私はちよつとした道楽をはじ
めましてね」などと言う。

しかし、あくまでそれは卑下としての表現
であって、趣味というものは高尚なものであ
る。骨董収集に夢中になるあまり、他人から
借金して迷惑をかけ、女房子供を餓えさせた
りした場合、はじめてそれは道楽に墮したの
であって、市民としての生活に破綻が生じな
い限り、それは趣味である。

私の友人に、三十六歳の若さで死んだ能島
廉という男がいた。彼は小学館の児童編集部
の編集長をつとめていたが、たまたま私が訪
ねて行ったりすると、部下が、

「能島さん……編集長」と呼び、それから
はつと気づいて「ああ、今日は立川だ」と、

手を叩いた。

彼は競輪に凝っていて、関東一円に興行が
あるときには、なかなか椅子に尻が落ちつか
なかつたのである。しかし、それが彼の道楽
であつたかといえ、やはり趣味だつたと、
私は思う。

彼は、編集長としての切れ味はよく、全力
を振って仕事を遂行していたし、酒は浴びる
ほど飲み、交際はよく、美男子とはお世辞に
も言えなかつたが、女は喇叭を吹いてついで
来た。

彼は、いわば人生のすべてに——仕事に、
女に、酒に、そして男同士の交友にあまりに
真剣に取り組んだために、身体のほうがガタ
ガタになって天折するのだが、競輪にそれだ
け入れあげていても、そのために他人から借
金するということはなかつた。彼の競輪に関
する知識は博大で、選手の人脈、戦歴、技術、
癖にいたるまですべてアタマにはいつていた。
それでも、合計して自分がソンをしているこ
とはよく弁えており、「いつも儲けるのは国家
や」というのが、彼の口癖であつた。

ひとによつては、彼を道楽者というかも知
れない。しかし、その趣味によつて身を損う
のでないかぎり、道楽と呼ぶのは間違ってい
る。それに、彼の職業は編集者だつたし、編
集者は一日二十四時間が仕事であつて、通常

のサラリーマンとは違う。編集者が、一日八
時間働いて、あと寄稿家と酒を啖つたり、余
計な本を読んだり——ということなく自足し
ているならば、それは禄盗人である。能島は
高尚な趣味人であつた、と私は今でも考えて
いる。

モノ書きとしての私に、道楽のないことは
すでに述べた。それは原理上、存在しない。
道楽というものは、いわば本職でない趣味に
耽る——耽溺するところに生ずるもので、そ
の基準は、あくまで市民生活の枠を破るとこ
ろに到つて、道楽と呼び得る。

モノ書きというのは、いわゆる堅気ではな
く、それが一般にいうところの本職であるか
どうかも、すこぶる怪しい。したがつて市民
生活の枠を、どこまで当てはめてよいかも解
らない。むしろ、彼らは何かに取り憑かれ、
耽溺するところから、彼の「仕事」を発掘す
るのが本筋だろう。

もちろん、彼らも趣味を持つことは許され
る。しかし、趣味もしばしば「仕事」になり
かねないところがあつて、その辺りはむづか
しい。たとえば、競馬の趣味が嵩じて競馬評
論をはじめれば、これは趣味とは言えなくな
る。

また、モノ書きにとつて、読書はかならず

しも趣味とは言えない。私にとって、夜、家人が寝静まってから、ワインを肴を枕許において本を読むのは、いわば至福のときであるが、これを趣味と称してよいのかどうか、表現にくるしむ。

もちろん、手に取る本が週刊誌であったりマンガ本であったりするときは趣味といえるかも知れないが、総合雑誌であったり、歴史の資料であったりする場合には、それがただちに私の将来の「仕事」につながるかどうかは解らないにしても、やはり趣味とは言えないようである。

私は旅が好きである。風景や建築などには、それほど興味はないが、世界のあらゆる国の、あらゆる人間に会うのが好きだ。見知らぬ土地で、見知らぬ人の思いがけない仕草や反応にぶつかることには、尽させぬ興味が湧く。そして見知らぬ土地で、よく知っている友人に出会い、酒を汲みながら語りあうのも、旅の醍醐味のひとつである。

しかし、これも私にとって趣味とは言えないし、まして道楽とも言えない。はじめてヨーロッパに旅立ったとき、私はようやく貯めた百万円ばかりのカネを、百日で費い果たし、そして日本に辿りついたとき、明日に何の収入のメドも立っていないかった。

これは道楽にちかい。しかし、とにかくそ

れから半年ほど悪戦苦闘して千枚ほどの原稿を書きあげ、それが本になって私の収入が確保されたことを考えると、それは立派な仕事だったと言えないわけでもない。

そんな私だが、ひとつだけ、これは私の趣味か道楽かも知れない、と考えることがないではない。

私は、相当の食いしん坊である。広島陸軍幼年学校に学んだ少年のころ、日曜日といえは私は酒保に居つづけて、朝から夕方までゲップが出るほど食いつづけて、夜になると激しい下痢で這って便所に通ったことが一切ならずある。それでも次の日曜日には、懲りもせずと同じことを繰り返かえした。

戦中戦後のながい窮乏期を隔てて、いくらかうまいものが世の中に出廻り、若干の金銭的な余裕ができるようになると、また私の食いしん坊がはじまった。上野まで車を飛ばしてカレーライスを食べにいったり、ある晩は、どうも味がよくない、と銀座の和漢洋の店を一口ずつ食べながら梯子する、というような馬鹿なことまでやった。(こういうことは、明らかに愚かな行為で、道楽の部類にはいるだろう)。

さいきんは、この「道楽」はかなり収めて——十年間、堅気の生活を送った影響もある

——趣味に転化しつつある気配がある。というのも、これまではもっぱら少しづつ出された料理の批評をこととしていたのが、自分でも料理するようになってきたからである。

もともとスキヤキやステーキの類は、家でも家人に手をつけさせなかったが、ちかごろ土、日曜日の午後は「今日は何にするの。見えてきて頂戴」と、仕入れまで頼まれるようになった。

まだ、私のレパートリーはきわめて少く、心許ない。しかし、家人が一週間ほど旅行で家を明けたりすると、最初の二、三日はなかなか楽しい。

世の中の移り変りで、女も外に仕事を持つようになり、料理は女の仕事という考えは、しだいに崩れつつある。そうになると、料理が趣味とか道楽とか、太平楽は言っていられないので、いずれにせよ趣味を持つたり道楽することは、だんだんむづかしい時代にさしかかりつつある。

現役の取材記者だった当時、金融記者クラブ（日銀）では主としてマージャンに、財政研究会（大蔵省）では主としてオイチョカブに、いずれも相当程度に熱中した。いまから思えば汗顔の至りだが、特にオイチョカブは、楽しくて仕方がなかった。

オイチョカブというのも、もちろんバクチである。トランプ（花札でもいいが）を使い、それぞれが引いた二枚ないし三枚のカードの数字の合計額で勝負を決める。最も強いのは九、次いで八の順。九のことをカブ、八のことをオイチョと呼び、そこで、この名がある。一〇はドン、これはゼロとみなす。したがって、三枚の合計数字が例えば七と三と一〇で二〇の場合、ゼロである。七と三と二の場合は、二と数える。

ほかに、役（ヤク）がある。親が一と九、または一と四を引き当てたときは親の役で、これは子の八や九よりも強い。子が八と八と八、三と三と三、五と五と五など同じ数のカードを三枚引き当てると、アラシといって、親は子が賭けたお金の二倍相当を払う約束である。ルールはまだまだあるが、あまりほめた遊びではないので、詳しくは省く。

近ごろはどうなっているか、全く知らないが、私が財政研究会に所属していたころは、不思議なことに、翌年度予算の策定作業が大

詰め段階に向かう秋口から年末にかけて、すなわち大蔵省詰めの記者にとっても取材競争が一年中で一番厳しくなる時期に、このオイチョカブが活発になったものである。

予算シーズンになると、財政記者の仕事はきつい。ほとんど毎日のように夜回りをし、重要経費の扱いがどう決まったか、どう決まろうとしているかなどを取材して原稿にする。

のおもなところを一通り回って、不穩（？）な動きがあるかないかを観察し、ないと確かめてから、せつせとオイチョカブに打ち込むことになる。

「勤務時間中にクラブでマージャンやオイチョカブをやる奴なんか、クビだ」——部長あたりからそういうカミナリが落ちることもときにはあった。しかし、当時は二十歳代の

「オイチョカブ」と「メダカ」

尾関通允

著述業・自由学園講師／茅誠司部会

デスクに手を入れてもらって出稿し、大刷りが出来るまで待つて目を通してから、やっと下宿に帰る。電車もバスもとづくになくなってるので、社旗を立てた車で送ってくれる。だが、下宿に帰り着くころには、東の空が明るくなり始めている。そんな日が、珍しくない。

それでも、朝は十時ないし十時半、遅くも十一時には、記者クラブに現れる。大蔵省内

終わりのころ、生意気盛りである。「仕事さえきちんとやっておれば、文句はなからう」と、かえって反発し、だから、遊びにも本業にも熱が入った。

多忙な最中のオイチョカブ、無念無想でカードを引く。期待する数字をうまく引き当てたときの楽しさ、これは、他の遊びでも全く同じだろうが、経験した者でないと理解できない。

カケゴトだから、負けることも当然ある。私はマージャンはからきしダメだったが、オイチョカブは強く、いつも小遣いを頂戴することが多かったが、それでも、半日で九千円を失ったことが、一回だけある。月給が残業手当を含めて二万円そこそこの時代で、だから、さすがにガックリきたが、それでもこりない。翌日と翌々日の二日ばかりで九千円は取り戻した。

「忙中閑あり」——うまい表現だ、とつくづく思う。多忙なときこそ遊びの方にも手抜きをせず、遊びの間は仕事のことは一切放棄して徹底的に遊ぶ。節度さえきちんとするなら、その方が仕事の能率もはるかに上がる。そこに、道楽の醍醐味がある。オイチョカブは決して上等な道楽ではないが、私にとって

は確かに道楽だった。

それもしかし、昔の話。いまは、かつてのような無鉄砲なことは、さすがにできない。静かにメダカの増殖を手がけている。十年余り前にはほんの数匹だったのが、一時は三百匹に増えたが、よそへ差し上げたりしていまは百数十匹。いずれ千匹にも二千匹にもして、近くの小川に放流したい、と考えている。無鉄砲時代とは違った道楽だが、数千匹のメダカは想像するだけでも楽しい。

特集対談

聖域

としての道楽

生産性尺度の対極として

小松 道楽は英語で何ていうのかな？

加藤 強いて言えばホビーでしょうね。しかし道楽というのは耽溺的な意味を含んでいるので外国語に非常になりにくい。

小松 デイレッタリズムという意味があるのかなあ……。あれは好事家と訳されているけど、元来イタリア語のデイレッタの意味は「喜び」なんです。それがキリスト教的禁欲主義が高まった時代に楽しむことがネガティブな意味をもち、なにかを一生懸命やっているが、それが世のため、人のためじゃなく自分の喜びのためだけにやっている人を指してデイレッタントという言葉が出来た。

加藤 道楽という日本語は、いつ頃使い始めたんだろう。

小松 江戸時代じゃないかな。

加藤 室町に道楽なんてあったという話はないな。

小松 しかし、室町文化というのは、言わば大道楽文化……。

加藤 「数寄者」といった表現ならばそうなんだが、しかし道楽というのは、ポジティブな意味とネガティブな意味の両方を持っている。道楽息子、道楽者といった悪いほうにも使われるし……。

小松 「極道」という言葉もある。今じゃやくざ者のことになっちゃったけど、道を極めて何故悪いんだ、って感じもするんだけどね（笑）。

加藤 そう思うよね。

小松 トフラーのひそみに習うわけじゃないが、近世から近代初頭にかけて、特に後の先進国になる地域では、労働、経済行為の神

聖化、つまり有用性に関する神聖視が、ずいぶん普及したんだ。その一方で、江戸時代というのは、一種ゆるやかな停滞社会だから、大阪では元禄、江戸じゃ文化文政の頃から、町人はもちろん武士のあいだでもすぐには役立たない趣味教養が始まった。ところが、江戸政権は表向き非常に禁欲的な質実剛健政権だから、これを隠れてやる。表社会を大手を振って歩くものじゃないというのが最初からしみついている。道楽というのは。

加藤 道楽が生まれるには二つの要素があると思うんです。一つはいま言われた禁欲主義的な剛直な社会、さらに言えば、生産性という尺度だけでもを計る社会、これに対するアンチテーゼとしての道楽ですね。と同時に、その社会が道楽を許すだけのひび割れを持っていったということが、非常に大事だと思う。やはり豊かな社会でなければ道楽は生まれない。イギリスの歴史でも十九世紀になってからです。変てこりんな趣味がいっぱい流行り始めるのは。しかし、日本の方が、その点では大変豊かですね。とにかく小唄三味線から根付けの収集まで、道楽のレパートリーは広い国ですよ。

居直りの厳しさも必要だ

小松 道楽の始まるときに富裕町民のあいだで最初に出てくるのは、非常にスノービッシュな形でのお茶ですね。茶道具集め。そのお茶がある時期にどんどん枯れていくでしょう。あれがよく判らない。佗茶というやつね。

加藤 利休は茶の湯ですね。道とは言っていない。お茶が道になったのはいつですか。剣術が剣道になったのは寛永御前試合の頃なん

だが……。柔が柔道になったのは明治だけど、いろいろなもの道になっちゃう（笑）。

小松 そうなんだ。山田宗睦さんが「道の思想史」を書いたときに、そっちのほうまでやってくれると思ったんだけどね。道というのがいつから精神性と結びついたかというのは……。

加藤 道楽という漢字にあまりこだわってはいけないうらうけども。

小松 でも面白いよ、これ。芭蕉が奥の細道やるでしょう。千住、草加のあたりから歩いていくと「みちのく」まで行ける。まさに道の奥なんだよね。道を歩いて行くと、同時に人生が深まっていくという一つのテーゼがあるんだ。この道は奥が深いんですけど、というやつね。

加藤 そう。文学の道も、芸術の道も、学問の道もある。

小松 僕は、玉の井みたいに「抜けられませう」っていう道が好きなんだ（笑）。

加藤 ハハハ……。要するに、道を楽しむんであって、その道をだれでも任意に設定できるというのが道楽でしょうな。

小松 ただね、道楽も趣味もそうなんだけど、千利休の例に見るように、最終的には居直らざるを得ない部分があるね。やってみたら大変響きも深いし奥も深い、精神性も要求できると熱中していると、非常にきびしい時代がきて、「お前たち、何を無駄なことをやっているんだ」といわれる場合がある。そこで「恐れ入りました」と止めちゃう手もあるし、船酔いしていく手もあるが、「いや、これは政治を動かしたり、生産性を上げたりはできないが、そういった事から離れたすごく大切なことがある」と、一種の厳しさみたいなものを

加藤秀俊

学習院大学法学部教授
加藤秀俊部会

小松左京

作家／小松左京部会

証明してみせなければならぬ。

加藤 道となると、実用性から離れて一種の形而上学に仕立てていくんですよ。それが禅なんかと結びついて、なおさら訳の判らないことになってくる。剣術が剣道になったとたんに実戦のチャンバラの役には立たない。

小松 まさにそうなんだ。徳川治安体制ががっちり出来て、一人ひとりの剣を使った闘争術なんかどうでもよくなった時に道にしなければならぬんだな。

加藤 形而上学にしちゃうのがサーバイバルの知恵なんだよ。形而上学というよりは一種の神秘主義ね(笑)。あばら家に白馬つなぎたるがよしなんていう、不思議な思想になってくる。忙茶なんていうのは、そこから出てくるんじゃないの。

小松 人間どうも行き過ぎる嫌いがあるって、忙も過激になると薄汚ないことになり興奮めする。だから道になるといのは、ホビーからちょっと形而上学化したあたりだよ。

加藤 ホビーは純粹な楽しみだけど、道というのは精神修養なのね。

小松 だから、そこで居直らなければならぬ。(笑)。ヨーロッパではホビーまであるんだな。芸術というのは神との関係に持っているわけだ。……ところで、道はそうなんだが、道楽となると、逆にもう一つ醒めちゃうってんじゃないかな。たとえば俳句なら俳句が、芭蕉が道をつけると周りに一種のスパリがわんさと出て、熱狂的なファンが出来て社会的なセクトになっていくときに、それは興奮めだつてちょっと身をひく。俺たちは道を楽しんでるんで道を苦しんでるんじゃないと……。道苦という言葉ないのかな(笑)。

加藤 そうだね。そう考えると、道楽とい

うのはアンチテーゼのアンチテーゼみたいなところがある。つまり表向きの社会に対する居直りとしての形而上学、道を極めることを目的としたやつがある。宮本武蔵、利休、芭蕉とかね。それに対する痛烈な皮肉として道楽というのがあつていいよ。

小松 そのセクトが歴史的な重みを持ち、中心核に非常にファナティックなものが出来上がっている場合、それから身をちょっとひくのはかなり度胸が要る。……はつきり言つて、SFを書き始めたとき、所詮小説というのは作り話なんだといつたら、怒る人たちもいるわけです。だから、そういうところでは逆に道楽のほうが勇気が要るかもしれない。

最近のカラオケは義務？

加藤 そうだね。ただ、こうは言えるんじゃないかな。道楽というものは、金銭的、世俗的なリターンを一切期待しないという条件があると。道楽で儲けたという人はいないわけよ。道楽で身を崩したり、家屋敷抵当に入れて一家離散したとか……。道楽というのは人間の行為の中で放成型のものですよ。

小松 道楽で金儲けた人はいないの？

加藤 いないと思うね。

小松 儲けようと思つたら儲かるだろう。最初自分の楽しみでコツコツ、変てこなもの集めて、それが時代が変わると、大変な値がつくとか……。切手なんか、遂に一枚「億」のものが出てるものねえ。つまり道楽の相場が出来るんだな。

加藤 そうだね。でも、その場合でも目的じゃない。結果として……。ま、切手集めて何億という富を築きながら、「ヘ、これは道楽で」ってニコニコしているのが最高の境

地。売つたら道楽じゃなくなる。

小松 集めてニタニタ見ているわけね。で死ぬときは火をつけて燃やしちゃう(笑)。

加藤 要するに、道楽というのはプライベートの領域なんだね。あんまり人に触れてほしくない部分であつて、切手集めているのを誇示したら、またこれも道楽でなくなるでしょう。

小松 ところが世の中、同好の士というのは集まっちゃうんですな。それが一勢力になり、やがて自分たちだけが判る会誌を発行する。新規参入を求める連中には「お前たちは駆け出せなんだ」といって、入るためのスキルが出来たりする。

加藤 で、家元になって……。

小松 そうなんだ。ほんとうにどうなってるんだろうね。落語なんかには「あくび指南」まで出てくるんだから(笑)。

加藤 道楽のスクールが出来るといのが面白い。

小松 最近じゃカラオケつてのがあつて、あれは道楽じゃないよ。ひたすら自己顕示欲発散のための……。

加藤 いや、あれは義務だ。この頃(笑)。たしかにカラオケ道楽ってあまり聞いたことないよ。やはり道楽つていうのは、もう一つ身を持ち崩すところまで繋がらないと……。小松 粋が身を食うつてやつだ。だけど、芸が身を助ける不仕合わせというやつもあるぞ。

加藤 両方あるから矛盾しているんだけど、やはり、「あいつは道楽者だ」というのは、とにかく家屋敷人手に渡して……となるんだな。そこで道楽というものの価値がキラリと光ってくる。カラオケじゃ身の持ち崩しようがない

いと思うね。

小松 また、現代では、マーケットに反映されない道楽というのは探すのむずかしいんじゃないかな。

加藤 一般にレジャー産業といわれているもので、道楽産業と見ている部分がいぶかるね。それに深入している人間が、これまで道楽スクールへ行つたりして、かなり健全に動いているから、これは疑似道楽者だ。その疑似道楽者を相手にして儲けている人たちがいるわけだ。

道楽のつもりが仕事に……

小松 やはり道楽というのは、片方で非常に実存的なもので、自分がやらなきゃ、なんにもならないんだな。……話は違つけど、加藤さんの道楽つて何だい。実は、僕はないんだよ。

加藤 僕も無いの。

小松 浅ましい話なんだよ。道楽みたいになりかけたことが、つい口をすべらして、編集者が「面白い、それ書きなさい」というので全部仕事になつちゃう。

加藤 そうなんだねえ。僕はカメラが好きでいろいろ使つてるけど、結局社会調査の道具になつちやうてる。一度フルトやりかけて、相当高級なものを買ったけど、いまじゃ埃かぶりっぱなしだし、何もやってないな。……あ、新製品集め、これ道楽です。

小松 だけど、集めておいて、あとで商品進化論って本を書いちゃう。粋は身を助けるんだ(笑)。

加藤 うん。コンピューターだって、最初は道楽のつもりだった。

小松 僕らの青春時代は一面の焼野原で何

もなかったからね。僕も唯一誇れるのは終戦後出版された仙花紙本の蔵書ぐらい。食いものは少し熱心にやっただから、身につくというか、食ったという感覚は残っていたんだけど、これがたちまち食いもの地図が出来たり、食いものエッセイ書けだの、遂には料理大全の監修やれということになってしまった。

加藤 いま思いついたんだ。さっきの言葉撤回します。生産性に結びつく道楽もあつたよ。たとえば普請道楽。こいつは要するに美学が入ってくるんだ。単に住居スペースがあるんじゃないか。悪いんで、床柱は何、天井の板は何、畳のへりは……。となってくるわけ。

小松 それは東山時代からあるよね。いまはみんな重要文化財になっている。普請道楽なんてやってみたいけど、こいつはカネがうまく回らない。

加藤 衣裳道楽っていうのはどうだい。
小松 和服ならともかく、いまナウい趣味をあれしよと思つたら、例の「なんとなくクリスタル」みたいになってしまう。

加藤 衣裳道楽も、ファッションデザイナーになつたり、服飾評論家になつて職業になるし、食道楽も、いまじゃ料理評論家はあれ

だけいるし……。レジャー産業としての道楽というふうには割り切つて考えれば、道楽産業というのは成長産業でしょう。

小松 だけど聖域としての道楽というのは、個々の人間の実存に係わるものだから聖域なんであって、成長産業となると、ちつとも聖域じゃないんだよ。

江戸は道楽でもつていた

加藤 僕はね、江戸の町が何で持っていたかというところ、やはり道楽で持っていたと思うんだ。実際にあの時代の版画なんか見ると、長屋には大抵お師匠さんが一人か二人いるんだね。「銭形平次」の世界は多少誇張されているかも知れないが、道楽を教えることで生計を立てている人間がずいぶんいるでしょう。

小松 おまけにもつてきて、ある程度サチュレートしたら、別流派をいっばい立てればいいんだ。宮園節や一中節みたいにね。いくら聞いたって違いが判らないけど(笑)。

加藤 いまじゃ、伝統的な道楽に関しては組織化が完全に浸透しているから、分派立てるのはむずかしいだろうけどね。さらに言うなら、お花とかお茶の世界で新しく家元立てようとしたら大変だ。ただし、道楽指南人口

つて、べらぼうにいるはずなんです。女性が結婚前とにかく師範の看板くらい取つておこういふのでやっている。亭主が死んだらとかなんとか考えているわけよ。だから日本は師範国家だ。

小松 そうだねえ。そういえばお師匠の花見酒っていうんで、しばらくは食えるかもしれない。

加藤 相互に教え合つてね。

小松 そういえば、昔、手習いといえ、女には女の人が教えていたんだ。大体「我輩は猫である」を読んだ時、不思議な感じがしたんだけど、「一弦琴の師匠」が出てくる。あんな単純なもの教えて食べるものか。

加藤 そうでしょう。不思議なものが流行るんだなあ。いまだって、お師匠がつとめられる未開拓の領域は随分あると思うよ。

小松 やはり、のめり込む民族なんだな。

大学教授がパッカマン!

加藤 僕はこの正月からパッカマンに一生懸命になっている。

小松 何、パッカマン?

加藤 テレビゲームの一種ですよ。パッカマンと食っていくんだ。その携帯用があつて単2乾電池四個使うんだが、それを四日ぐらいで電池使い切るほど、至るところでポコポコやっていた。

小松 社会学会に言つてやろ(笑)。学習院大の教授がこんなこと夢中でやつてますって。
加藤 (笑い)。小松さん、パッカマン知らないって不思議だね。

小松 いやテレビゲームに関しては、ブロック崩して痛めつけられて、インベーダーにおいては全然絶望だったからね。

加藤 いや、インベーダーは反射神経が要るけど、パッカマンはもうちょっと楽なの。

小松 われわれみたいな年寄りに合わせた形のプログラムを作つてくれたら、またやるんだけどね。

加藤 老眼鏡かけて携帯用パッカマンやつてるんだから。わびしくなるよね。見えないうんだよ。

小松 そこまでのめり込むっていうのは、人間というのは何なんだろうね。

加藤 ある社会学者がフロアの理論というのを出している。一方の軸に能力、他方の軸にチャレンジを取る。チャレンジの量が大きくなると能力のレベルが非常に少なければ、絶望的不安に陥るわけです。

小松 なるほど。

加藤 突如としてエベレストへ登れつたて出来つけないわけだ。こんどは逆に、アビリティが高くて、チャレンジが小さくても不安になる。

小松 退屈するんだな。

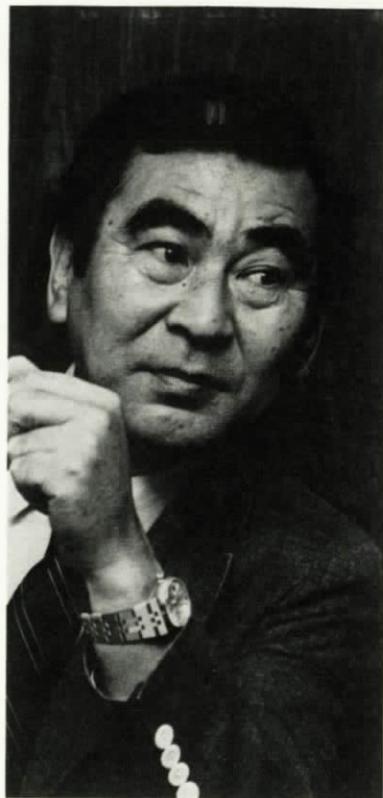
加藤 不安と退屈の領域があつて、そのバランスがちやうど取れているところ。x軸y軸から四十五度の線を引いたあたりの領域に入ったときに没入できる。おのれのすでに出来ることより一段上のところに入ったときに無我夢中になる。

小松 なるほど。

加藤 この研究は非常に面白いんです。アルビニストとか、芸能人とか、いろんな人間にインタビューして、四十五度線の周辺を確定した面白い理論があるんですが、そこに入った状態をフローと呼んでいる。だから、たとえば昭和一ヶタ落ちこぼれ族といわれる僕らにとつても、このごろの電算機はフロー経



小松左京



加藤秀俊

験なんです。これがIBMで最初からプログラムを作っていたら、チャレンジが大きすぎてアビリティが無いから駄目だ。

小松 うん面白い。ベータシックスも組めるしね。しかし、人間はのめり込んだ状態に関して癖がついてくるだろう。習慣性のね。どうも麻薬系統の中毒、めいてい現象とかよく似ているみたいなんだな。

加藤 煙草や酒は道楽にならないだろう。アビリティの問題と係わったときに、はじめて道楽になる。煙草を喫うのは、あまりアビリティと関係ないやね。のめり込むのは、おのれの能力がどこまであるかという、それに対するチャレンジがあつて初めて道楽という……。

力と富の世界を相対化：

小松 ところで、道楽にはあまりにもブラグマティックな人間の社会関係を相対化する働きがあるよね。自己のパッションが社会的経済的なアチーブメントに注がれて、出来たものが社会的に評価され、自分のステータスが上がるとあるが、パッション込めてやってもその成果物は社会にとって何の役に立たない場合もある。つまり人間の情熱とい

うのは、社会的メリットに全面的に組み込まれる形によって意義づけられるのではなく、パッションはパッションで一種のオートジュニックなものだということの証明になる。

加藤 そうですね。

小松 だから、文化、教養、それに芸術もそうなんだが、道楽とまったく同じ水準から出ているわけだ。たしかに人は感動するが感動しても腹ふくれるわけじゃない。ある絵を一枚持っていることによって戦争に勝てるわけじゃないが、しかしそれはそれでなにかある。文化、教養には、あらゆる力と富の世界を相対化する……。

加藤 そう。だから学問とか芸術は、ことごとく道楽と見なさないでしよう。

小松 学問の中で、まず科学が役に立ち始めたんだね。たとえば歴なんかが為政者のマジックになっていた。現代でも国家が政治経済その他情報処理などを専門家にイノベーターブなことをやらせるのは、それだけの見返りがあるからだ。だけど本当に役立つのかがどうか判らないものもある。先頃も、米国の国防省の研究費でカモメの同性愛の研究が行なわれていると文句いった奴がいたね。

加藤 この頃、ふと考えるんだが、米国の

りも日本のほうが、道楽を実用化する系譜があると思うんです。つまりマイコンは去年ぐらいでしよう。その四、五年前からテレビゲームが流行っている。日本のエレクトロニクスは道楽から始まってマーケットが確立され、その上で実用が生まれた。集積回路なんて道楽であれだけ使わなかったら、これだけ実用にはならなかったと思う。

小松 日本人のエレクトロニクス好きというのは大正期もそうだね。大勢の人が先ずオモチャでもいいから持ちたがる。それが大きなマーケットになるものだから、テストマーケットになって生産性も上がり、イノベーションが起こって、そこからオモチャの値段で実用品が出てくる。

加藤 そう。さっきのあくび指南じゃ、ちよつと例えが悪いが、小松さんなんかエレクトロ道楽の元元だね。

小松 僕の場合は、あれは最初から実用品で……。むしろSFのほうが道楽かもしれないよ。

加藤 なるほど。

小松 ところで現代社会というのは、個人が、その機構の中に非常にタイトに組み込まれている。そこからはじき出されて溺れちゃ大変、バスに乗り遅れちゃ大変だというプレッシャーが心の中に絶えずあるわけですね。それが子供に反映しているのがいまの受験地獄でしょう。親が尻ひっぱたく、それで行ける奴はいいんだが、そうでないのは落ちこぼれになって、むしろ社会に対して非常に大きなトラウマを持つようになる。そうじゃないんだ、自分自身の精神の豊かさが大切である

というこの回復には、道楽のモメントっていうのは大きいね。

加藤 さっき小松さんのいわれたことの中で重要なのは、やはり道楽というのは没入できるといことなんだね。我を忘れた境地に没入できるのが道楽であるなら、そういう瞬間はとても大事だと思うんです。同時に、現代の道楽を考えると、一過性であつていい。諸道楽でいいと思うんだ。僕は十年ほど前にプラモデルに熱中して、誰が何をいつても聞かえないような無我の境地に没入したことが一、二年ある。老眼がひどくなって止めたんだけど、いや、それで老眼になったのかもしれない。(笑い)。いまはバックマン、これもまた消えていく。この一筋に……なんて芭蕉みたいのは嫌だな。

小松 攻撃一筋で、道楽でも自分のアイデンティティをはっきりさせなければというのは十九世紀的だと思うんだ。二十世紀はとにかく移り変わっていく。マルチチャンネルなんですよ。

加藤 聖なる領域が、人生の時間軸にそって幾つもあるんだ。ただ一つの道を通じて最高の価値に辿り着こうなんてあまり考えないほうがいいんじゃないですか。

小松 いまでも生産性は大事ですし、政治もある時には決然たるデシジョンが大事でしょうけど、それだけにすべての人間が全部のみの序列の中に全部組み込まれる以外に、別のチャンネル、人間としてちよつと距離をおいて評価できるチャンネルが幾つもあるというものが成熟社会でしょうね。

日米関係とサミット

日米関係の現状をどう見るかについては、非観論と楽観論の間に大きなへだたりが存在する。

楽観論者は、日米間の経済摩擦をめぐりアメリカの対日要求は確かに厳しいけれども、それは主として議会の一部から出ていることであって、今年の秋の中間選挙を横目でらんで相互主義法案を出したりしているのであるから、結局は今回も一過性のもので終るだろうと言う。あるいは、アメリカの新聞などで、日米関係が大問題として取上げられていないことから、日本側が心配し過ぎているのだという人もある。

悲観論者は、日米間の経済摩擦は、経済問題としても深刻であるばかりでなく、政治の問題ないし文化の問題として考えねばならず、そうなるとますます解決が困難になると論ずる。日本の文化を変えねば経済摩擦は根本的に解決しないという議論がされるようでは、事態はほとんど絶望的だというのである。日米間のパーセプション・ギャップがいかに大きく、それを解消することがいかに困難であるかを説く人もある。さらに、アメリカ経済の再活性化が進まぬこと、日本の財政再建の見通しが明確でないことを考え合わせて、日米経済摩擦解消のための好条件はさしあたって見出せないと歎く人もある。

日米両国民の意識調査の結果は、単純に楽観論とか悲観論とかいうようにきめつけられない。外務省がギャラップ社に

委託して毎年行っている対日世論調査によると、日本に対する信頼度が過去最高の水準に戻る一方で、経済大国としての日本を米国にとつての脅威と見なすアメリカの有識者が増えている。日本の自衛力増強を求める声も強まっている。また、

読売新聞社とギャラップ社が提携して行った社会的な倫理感についての考え方の調査の結果によると、政治家や公務員で自己の地位や権限を不当に利用している者が増えていると答えた人は、日本で約六割、アメリカで約七割で、大きな違いは見られない。しかし、贈賄事件に関係した公職者が判決確定以前に辞職すべきか否かについては、辞職すべきだという考えが強い日本と、その必要なしという意見が強いアメリカとは対照的である。平凡な結論であるが、日米両国民の社会倫理感や社会通念には、共通性もあれば異質性もあるということになるようである。

アメリカのジャーナリズムで日本がそれほど大きく取上げられていないということは、ある意味では確かに、日米関係についての危機意識がそれほど強くないことのあらわれと見ることができよう。アメリカのリベラルな雑誌「ニュー・リパブリック」は、三月三十一日号で「レガン後の課題」という特集を組んでいるが、その中の対外政策についての提言では、アメリカの同盟国は経済力に依じた防衛力でヨーロッパの防衛のために寄与すべきであることが論じられており、

同盟国というのも実質的には西欧諸国を指している。

けれども、この事実は逆にアメリカ人——特に有識者——の間の対日意識が全体として稀薄であることのあらわれであると見ることもできる。アメリカにおける日本研究は戦後急速に発達し、日本研究の分野での博士論文も数多く書かれてきたが、アメリカの知的コミュニティの中で日本が話題になる度合は、残念ながらあまり高まっていないようである。

この点について興味深いのは、日本政治の専門家であり、現在日米友好基金の委員長であるロバート・ウオード教授が、今年一月に東京で行った講演である。ウオード教授は、アメリカの日本研究における専門化が進んだため、ライシャワー教授のように総合的な日本像をアメリカ人に与えることができる人が、若い世代から出現し難くなったことを指摘している。さらにウオード教授は、アメリカにおける実務家養成機関であるビジネス・スクールや、法律の大学院や、ジャーナリズムの大学院などの、いわゆるプロフェッショナル・スクールにおいて、日本に関する授業がほとんどとられていないことに触れ、実務において日米関係に深く携わるべき人びとの養成が、日本理解のための訓練を与えていないことを批判している。

しかし、問題はアメリカにだけあるのではない。ウオード教授は、日本ではアメリカについての報道や著作はおびただ

本間長世

東京大学教養学部教授／松本重治部会



しいけれども、アメリカについて、パランスのとれた客観的な理解を示して、共感をもってアメリカを論じているものは乏しいと論じ、日本のアメリカ研究家の中には、アメリカのライシャワーにあらる人物が見当たらないと語っている。ワード教授が正しいとすれば、日米相互理解の将来はかなり不安に満ちたものだということにならざるを得ない。

相互理解を深めるということは、日米両国に限らず、世界各国にとっての課題なのであって、相互依存関係がこれほど密接となった今日の世界においては、どの国もこれを避けて通ることはできない。息の長い努力を傾けねばならぬ事業なのであって、異なった文化の間での相互理解はそもそも不可能なことだと諦めてしまふことは許されない。

しかし、日本にとって現在さし迫って

いる問題は、日本が自由貿易体制を守るための確固たる姿勢をとり、それと関連して日本がみずから外国に対して閉ざす国でないことを、アメリカおよび他の諸外国に理解してもらうことである。

ベルサイユのサミットは、日本について抱かれている自己閉鎖イメージを打ち破るための機会となり得る。日本市場開放の理念を明確化し、その象徴として農産物の開放について何等かの前進を示せば、アメリカ人の対日理解を促進する上で大きなプラスとなるであろう。

他方、日米経済摩擦の問題が、日本文化の性格論には発展しながら、アメリカ文化論としてはあまり深く論じられないというアンバランスも是正されねばならない。昨年夏までは鳴物入りで宣伝されていたレーガン大統領の経済政策が、今日では批判の対象となり、アメリカ経済の再活性化の見通しはあまり明るいとは言えない。そうすると、一体レーガン大統領の経済政策の理論的根拠とされた「供給の経済学」なるものは、理論としての有効性が否定されることになるのかどうか、昨年はローズベルト大統領以来だといわれたレーガンの指導力なるものはどうなったのかなど、アメリカの政治や経済の状況について論ずべきことが次々と現われてくる。そして、それらを論じたせば、事は政治や経済にとどまらず、アメリカの社会や文化の特質にまで及ぶことになるであろう。経済発展の過程における官と民の関係を例にとっても、アメリ

リカがなぜ「日本株式会社論」を強調し、通産省の指導力を重視するかという答えは、アメリカ経済史の中に見出せるかもしれないのである。

サミットは、先進民主主義産業社会の国々が協調を強めるための会議であるはずである。アメリカのレーガン政府の今日の姿が象徴しているように、先進民主主義諸国は、政治においてはリーダーシップの問題に関して、経済においては自由貿易体制を維持しながら活力をいかに発揮するかに関して、共通の問題を抱えている。ソ連の脅威と言われるものについても、アメリカの中で、ソ連はアメリカとの戦争を欲せず、またアメリカとの対決へとエスカレートするような深刻な危機をつくり出すことは、望んでいないのだという意見を述べる専門家があり、西欧諸国の対ソ態度とにらみ合わせて、この問題に関しても諸国間で意見の調整が必要となっている。

今日の日米関係に取り組むためには、悲観論にも楽観論にも耳を傾けながら、そのどちらにも陥らず、さし迫った問題への対応と同時に「ポスト・レーガン」のアメリカを見通す心構えが求められるのではないだろうか。

ける官と民の関係を例にとっても、アメリ

行政改革雑談

● 三稜石という石がある。アフリカや中近東の砂漠にある石で、そうたくさんあるものではないらしい。石の面が三つあり、この両端は一つにまとまっている。面が三つしかないから三稜石という。この石がどういふ石なのかは、地質学者でないとよく説明できない。しかし話によると、石が風化した究極の形がこれだということである。厚みがある以上二面ということはある得ないのだから、確かに三面が最少の面の数だろう。恐らく気の遠くなるような永い間、風と砂と水とによってすりへらされた最後の形なのだろう。

この石を友人からいただいたのは、丁度行革で会議に追い廻されていた時だった。そこで何となく因縁めいたものを感じたのである。我国の行政機構が、この石のように余分なところはすべて摩滅して本当に大切なところだけになっていたら、行政改革などと騒ぐ必要はないのかなと思っただけである。

三稜石程でなくとも、国の行政機構はなるべく余計なものがない方が良く決まっている。しかしまた一方、余計なものがないだけでなく、無くてはならないものが欠けていても困る。それから、国の行政機構の一つ一つがばらばらに機能しても困るので、それらが全体として統一的、総合的に機能してくれねばならない。この三つの要件を、私は行政機構の適合性、効率性、総合性と呼んでいる。

この三つの原則が今度の臨調の基本原則で、このことについては五月二十九日に公表された第一部会の報告の総論に事細かに論じられているので、今は述べない。ここでは、今度の臨調の仕事に携って感じたことの二、三について雑談的に触れてみることにする。

● 第一に、国民は国に何をどこまで期待して良いかということである。ゆすり、たかりという言葉を使う気は毛頭ないが、国民の国への依存感が非常に強いことは間違いない。特に福祉面ではこの感が強い。高度成長期に、誰が、何を、どこまで負担すべきかの詰めが充分行われないうままに、国の財政によりかかる面が増えてきている。いわゆる受益者負担の原則と自立自助の精神から見直しを行わねばならない時期に来ているといえよう。

● 第二に、上と関連して年金問題について一寸触れてみたい。八つの公的年金制度の制度的統一の必要性はいままでもないが、更に重要なのはその財政収支である。今の制度のまままで進んでゆくことは、今後の四十年乃至五十年の間に厚生、国民、共済の三年金の合計で保険料収入をオーバーし、約四百五十兆円の年金給付の約束をしていることになるという。いわば、長期に亘って国が借金の約束をしているのと同じである。現に国鉄年金は数年を経ずして破産状態に陥り、他の公的年金制度も、その事態を迎えるのは時

間の問題であるという。この事態を避けるためには、保険料の引上げか、給付水準の引下げか、又は両者の併用しかない。もし保険料を上げることのみで対処することを考えれば、将来養うものと養われるものの収入が逆転するであろう。それでは常識に反するし、第一勤労所得者の勤労意欲にかかわる問題である。また給付水準の引下げも簡単なことではない。既得権をどうするかという問題もある。また、世の中には、老後のための貯蓄をする余裕のない人々と、それに足るだけの所得を得ている人々とがいる。前者の最低限の老後の所得保障のためには、国の補助を含んだ公的年金制度が絶対に必要である。一方後者に対しては、その最低限への上積みも可能とするような民間部門の年金制度か、又は任意加入を前提とする公的制度を考えるのが望ましいのではないか。この問題は、対処の仕方を誤ると3K赤字よりもはるかに大きな問題になる恐れがある。西欧諸国はこの対策が遅れたため、国と拠出者の大変な負担に苦しんでいる。その轍を日本が踏んではならない。

● 第三は、縦割り行政とセクションナリズムの問題である。古くは紡績の対米輸出問題、また最近では自動車・テレビ等の貿易摩擦問題、あるいは農産物輸入の自由化問題等に見られる外務省と通産省、農水省等とのぶつかり合いの問題である。新聞紙上で面白おかしく扱われ、ひいて



は総理官邸と外務省の間の不協和音までで聞えてくる。縦割り行政は我国の行政組織の基本原則であり、これが崩れれば行政組織は崩壊する。各省大臣は夫々の省の事務を分担管理しており、総理大臣といえども、閣議で決めた方針に基づかない限り各省大臣を指揮監督できない。それ程日本では各省大臣の責任が重く、力が強いのである。これが縦割りの基幹であり、その大臣の下で各省の役人が自分の責任を果たすために努力している。その努力の熱心さの度がすぎると、大局を見ないで自分の省・局のことに目がゆく。よく冗談に言われる「省あって国なし」「局あって省なし」というような言葉の出でくる所以である。

縦割りの原理を崩さずにその弊害を矯めるのは大変難しい。しかしそれをやらなければ、日本の行政組織は半身不随になってしまう。そのために、政府全体に

対する総合調整の機能が大切なのであり、これによって縦割りのセクシヨナリズムの壁に風穴をあけてゆかねばならない。政府全体に対する総合調整の機能は、大きく分けて、政策企画機能による調整と一般管理機能による調整がある。前者は現在経済企画庁、国土庁、科学技術庁等の、総理府の外局によって行われている。後者は法制管理は内閣法制局、予算管理は大蔵省主計局、行政組織・定員管理と行政監察は行政管理庁、人事管理の総合調整は総理府人事局によって行われている。これらの諸機能が強力に発揮できるような体制づくりを図り、それによって各省の行政の総合性が保たれるようにせねばならない。

● 第四は、経済大国思想についてである。昔間屢々、日本は自由世界第二の経済大国であるといわれる。臨調の考え方の中にも時々それと似た考え方が出てくる。しかし、私は簡単にはそうは思えない。確かに日本の経済は大変な発展をした。そして、GNPが自由世界第二位になったことも統計的に正しい。しかし言うまでもなくGNPはフローの概念であり、経済大国であるかどうかはフローとファンダ（蓄積）の両面について見なければならぬ。私の友人が英国の企業家に、一五%や二〇%の高い金利でよく経営ができますねと聞いたなら、私のところは自己資本が多いからさして心配はありません、という返事だったという。これは片々たる一事例であるが、また極めて意味するところの深い話である。日本の法人企業の自己資本率は、欧米のそれと比べて桁違いに低い。法人資本の内容だけでなく、蓄積の度の低さを云々するのは早計かもしれないが、他にもそれを思わせる事例はあるのではないか。我国は戦争によってその蓄積の多くを失い、その後は明治以前からの長い間に積み上げた国民の知的資産と勤勉の精神を出発点としてここまで発展してきた。しかし僅々数十年の繁栄のみたらしめた蓄積が、西欧諸国の何百年もの間の蓄積と比べられるものではないことは言うまでもない。自由世界第二位の経済大国という考え方には大変な思い上がりがあると思うが、どうだろうか。

● 最後に、始めの三稜石の話に戻る。この石を私に持って来てくれたのは向後元彦さんという人で、彼夫妻と少数の彼の若い仲間が、今クウェートの海岸砂漠をマングローブで緑化しようという夢を追って頑張っている。彼らには大きな資本的援助もなく、関係機関からの僅かな研究費とあとは私費と情熱とでこの夢を追い続けている。こういう仕事は、日本と発展途上国との間を結ぶ本当の意味の技術協力である。行革は今の日本にとって是非やらねばならない大切なことである。しかし、こういう人達の努力もまた、日本にとって本当に大切なことである。増税なき財政再建の中でも、こういう大切な芽は是非育ててゆきたい。

オホーツク・アカデミア構想

政策科学研究所

本文は、北海道開発局から委託された「北見・網走中核都市圏開発整備事業推進調査―自然レクリエーション空間整備構想調査―」に関する調査結果を報告するものである。

北見市、網走市を中心としたオホーツク地域は、周辺の優良な畑作地帯とオホーツク沿岸漁場を背景に、相応の都市集積がみられるものの、なお網走港の冬期における結氷や北見の内陸性等から特異な条件におかれている。

これに対し、昭和60年には女満別空港はジェット化される予定であり、海岸性湖沼群を有する特異な自然資源を生かした能動的観光レクリエーションニーズへの対応、農林水産を核とする加工型産業の飛躍的發展、わが国の最多日照地域としての特性を生かした省エネルギーシステムの導入等による特色ある地域発展が強く期待されている。

かかる観点から、55年度において、地域の発展方向に即した総合的戦略事業の一つとしての新しいタイプの自然レクリエーション空間整備をはかることとして、基礎調査を実施し、自然レクリエーション空間整備の方向性を検討した。また、56年度調査では、前年度の検討結果を踏まえて、空間整備の具体像を構想案として示すとともに事業化の方式等についても概略検討している。

具体的には、網走湖東岸の天都山・大観山一帯を空間整備の適地として選定し、スポーツトレーニング、アウトドアレク

リエーションや北方文化研究のための施設を中核とした「オホーツク・アカデミア構想」としてとりまとめている。

オホーツク・アカ

デミアとは

北海道の四季は、非常に魅力がある。春の新緑の北海道も、秋の紅葉の北海道も、そして冬の雪におおわれた北海道も自然そのものが美しく、そのまま観光資源となりうる。

そこで、これからの北海道開発の方向の一つは、そのような北海道の自然資源の魅力を真に生かした、新しい観光と教育のメッカとすることとされている。自然の魅力を生かし、その自然の中で心をとませ、21世紀を担うにふさわしい人材をつくるということが、これからの北海道開発の方向である。

中でもオホーツク地域、とりわけ網走地域は山、海、湖と美しく、雄大な自然に恵まれている。そしてその自然は、夏には海水浴ができ、冬には流水でおおわれる、というふうにきわめて変化に富んでいる。また、この地域は、全国で最も日照時間が長い地域であり、海岸が近いために空気中のオゾン豊富で、しかも梅雨がないという気候の特徴を有している。

それゆえ、この地域は、一年を通じて、じっくりと人々が自然の中で心を休ませ、身体を鍛えるのに最もふさわしい地域と

いえる。また、この地域は、それらを実現するのに十分に広大な土地がある。

さらに、昭和60年には、この地域にある女満別空港がジェット化されると、東京都と2時間足らずで結ばれることとなり、従来地域発展の制約条件となっていた遠距離性も解消される。

オホーツク・アカ

デミアの施設構成

オホーツク・アカデミアは、オホーツクの自然をそのまま生かして、

- ① スポーツトレーニングゾーン
- ② 自然レクリエーション・保養ゾーン
- ③ 研究学園ゾーン
- ④ 文化ゾーン

を複合的に配置し、日本の将来を担う若者を教育し、身体を鍛え、総合的に人材を育成する空間である。

具体的な導入施設は別表に示すとおりであるが、若者の体力向上、それも本格的な競技力向上を主目的とした、日本でのオリンピックピクトレーニングセンター、初のオリンピックピクトレーニングセンター、国際的な人材を養成し、北方諸国との交流を積極的に行う大学セミナーハウス、北方圏文化についての研究を行う北方民族文化博物館を中核とする。

別表に示した諸施設を整備するためには莫大な投資が必要とされるため、本構想では、開発を(ⅰ)初期段階(目標年次5年後)、(ⅱ)発展段階(目標年次10年後)、(ⅲ)成熟段階(目標年次21世紀)の3段階に

別表 導入施設

	新規構想施設	既往計画施設	既往施設
○スポーツトレーニングゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・オリムピックトレーニングセンター ・スポーツ医科学研究所 ・スポーツ科学館 		
○自然レク・保養ゾーン			
(1) センター地区	<ul style="list-style-type: none"> ・リゾートホテル ・アウトドアセンター ・コミュニティ施設 		<ul style="list-style-type: none"> ・ホテル、旅館、保養所
(2) ランドレクリエーション施設地区	<ul style="list-style-type: none"> ・各種インドア施設 ・各種アウトドア施設 ・ペンションヴィレッジ 		
(3) アクアレクリエーション施設地区	<ul style="list-style-type: none"> ・マリナー ・氷上レク施設 ・レイクサイドプロムナード ・オートキャンプ場 		<ul style="list-style-type: none"> ・郵政省簡易保養センター ・レストハウス ・ホテル
(4) 自然休養林地区		<ul style="list-style-type: none"> ・自然生態園 ・青少年キャンプ場 ・少年自然の家 	
(5) スキー場地区	<ul style="list-style-type: none"> ・気球広場 ・オートキャンプ場 ・ロッジ 		<ul style="list-style-type: none"> ・スキー場 ・クレール射撃場 ・ホテル、旅館
(6) 自然空間	<ul style="list-style-type: none"> ・各種レクリエーションコース 		
○研究学園ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・体育大学 	<ul style="list-style-type: none"> ・網走大学セミナーハウス 	
○文化ゾーン		<ul style="list-style-type: none"> ・北方民族文化博物館 ・刑務所資料館 ・カルチャーパーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・天都山展望台

今後の課題として

は

以上のように、56年度調査では、オホーツク地域の戦略的事業であり、かつ北海道の今後の発展方向を示す「オホーツク・アカデミア構想」としてとりまとめてきたが、今後は、その実現化方策についての検討が課題となる。

57年度においては、構想の中で初期段階に整備することを提案した諸施設、中でも、以下に示すオリンピックトレーニング

ングセンターと大学セミナーハウスを中心として、それらの施設内容や運営内容をより詳細に検討するとともに、事業の採算性や民間企業、公益法人等の参画可能性についても検討する意向である。

オリンピックセンター

梅雨がない、夏の気温が低い、日照時間が長い、また、海岸に近いために空気中にオゾンが豊富に含まれているといった気候条件を活用し、年間を通じて多様なスポーツ活動を可能とするトレーニングのための拠点整備を図る。

スポーツトレーニングセンターとしては、網走市の遠距離性の克服と、地域のイメージアップを考えると、やはり、先述のように、一流選手の競技力向上の拠点として機能しうるようなレベルのものの整備をめざすことが必要とされるが、そのためには、施設の建設段階から運営段階に至るまで文部省や日本体育協会の積極的支援がなくてはならない。プランの立案に当たっても、とくに体協における選手強化の長期的構想との整合性を図り、それをオホーツク・アカデミア構想の中に積極的に位置づけていくことが重要である。

これに対し、体協では昭和54年に「選手強化長期総合計画(案)」をとりまとめ、その中で、選抜された上級競技者の競技力強化の拠点となる「ナショナルトレー

ニングセンター」の整備の必要性を指摘している。そこで、この「ナショナルトレーニングセンター」を本プロジェクトの中に組み込み、一九八八年のソウルオリンピックまでに当地域へ誘致することとした。

また、スポーツトレーニング施設と一体的にウインタースポーツを中心にスポーツに関連する各種学問領域の総合的研究及び科学的なトレーニング方法の開発を目的とした研究機関の設置を図る。

大学セミナーハウス

全国の大学生や大学院生を主な対象とした共同研究・研修施設として、網走市が整備を構想中である。

北海道では、「北海道高等教育地域社会圏」を全道的に設定し、高等教育の総合的整備推進している。この大学セミナーハウスもその一環として整備されるもので、網走地域の特色を生かした機能と環境を持ち、学際的教育研究領域と幅広い社会的教育ニーズにこたえる働きと場を提供することを目的としている。これによって、北海道高等教育機能の相互連絡が可能となる期待は大きい。

当プロジェクトでは、この大学セミナーハウスも「オホーツク・アカデミア構想」の一環として、整備を促進する意向である。

大正文化研究

小松左京部会報告

今回の部会では、これまで行なってきた「大正文化研究」をコンピュータISOR D23に入力した、その結果を報告します。

在学生と消費電力の相関関係

コンピュータに、高校・専門学校・大学など種類別に、在学生の数と消費電力のデータを組み込んで、相関関係があるか無いかをみるわけです。つまり、こうした試みをする前に、学生数と電燈の消費量とは対応しているのではないかという仮説を立ててみたのです。そしてコンピュータが打ち出したリストを見ますと、ほんの一例なんですが、この仮説を実証しているのです。

まず、どれでもかまわないから、家庭電燈を基準に、いろいろなカーブを出してみる。そのなかで非常に相関度の高いものを探してみます。相関係数の高いものが見つかれば、電燈・家庭生活器具が増え、われわれの社会生活のなかで、どのような変化が起こってくるかというようなことがわかる。そのために、まず基礎データを全部入力しておきます。

図1は、家庭電燈の消費電力と小学校の在学生数との相関関係を示したものです。単位は、人数が千人、電力が一〇キロワットです。この図によると、小学生の数はサチュレート・カーブに近くなってきました。

図2は家庭電燈の消費電力と中学生の在学数との相関関係を示したものです。

単位は前図と同じ、これによると、昭和七～八年は学生数が減っています。この頃は中学校に入学する学生が少なかったわけです。

表1は、学校別在学者数を出したのですが、これを見ても、生徒数が減っていることが判ります。昭和五年の中学生数が三四七、昭和三年が三三六、昭和七年が三二九、昭和八年が三二七と減っている。しかし、昭和九年には三三一、昭和十年は三四一と増えだしています。同じようなことが、高等女学校についても見られますし、高等師範学校・高等学校では、昭和七～八年を境に学生数がぐっと減っています。それとは逆に、専門学校の新入生数は増えている。また、尋常小学校の新入生数は、大正十三年～十四年に減っていますが、六年後にはほぼ横ばいになっています。

このようにデータを打ち込んでカーブに出しますと、さきほどの昭和七～八年

の中学生の減少のように、ある時点でカーブに変化が起きています。このカーブの変化を見つけて、その時点で何があったのかというのを、別の裏側から調べてみるのです。

たとえば、昭和八～九年と電力消費が減っている。これは、この時点で不況があったためであり、その不況のために中学校へ進学出来ない子供たちがいたのでないか……、そういう結論が出てくるかもしれない。就学の数をとータルで調べていきますと、少なくとも大学・高校をはずしてみても就学年限自体は増えているんです。ですから、その中の中学校へ行くべき人口が、実業学校へ行ってしまうたということがあるかもしれません。また、その年の出生率が低かったのかもしれない。あるいは、その時点で、出生率はともかく、子供の病気が流行って乳幼児の死亡率が上がったとか、ひよつとすると「ひのえうま」かもしれない……、など、そうしたチェックがいろいろ出来るわけです。

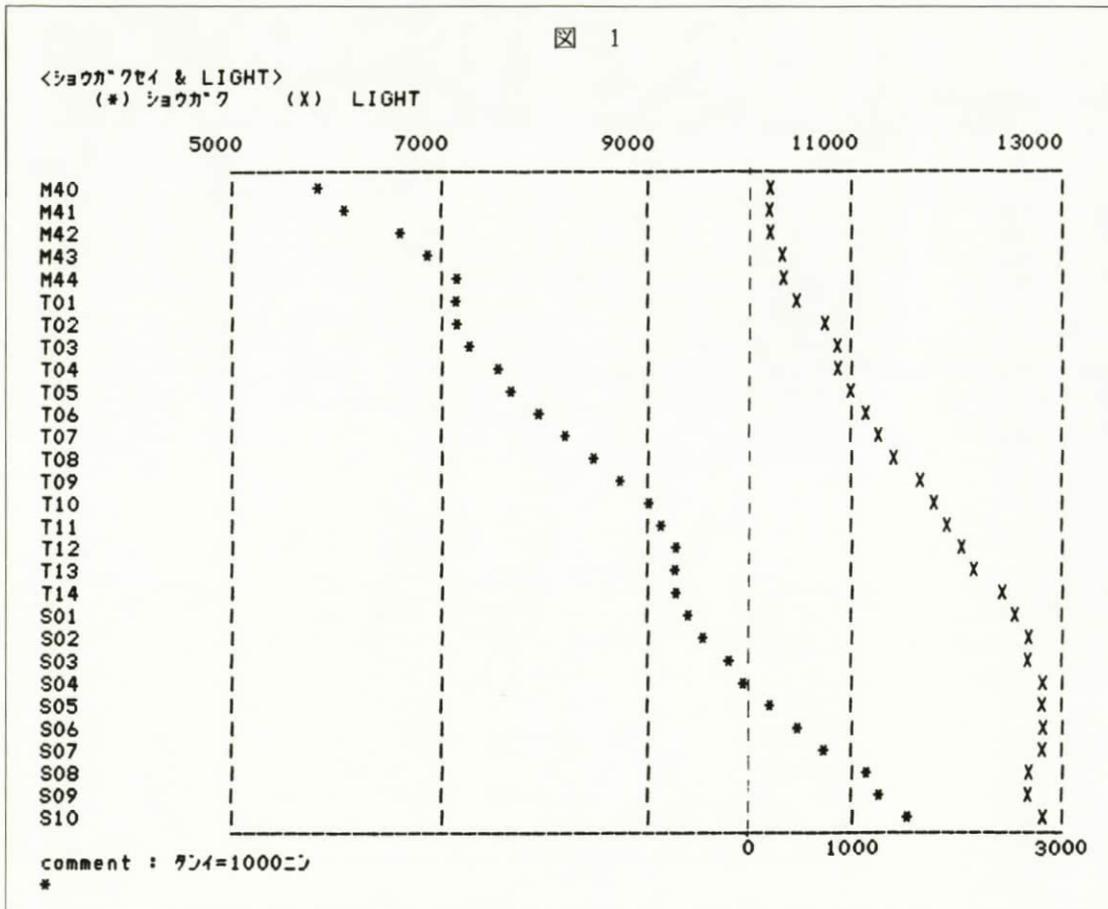
まだまだ、これは数値データですけれども、いま述べたように、問題発見のための基礎になるわけです。

インタビュアーによるデータ処理

もう一つ行なっているのは、明治の終わりから大正にかけて生まれた人たちに「どういふことを覚えていますか？」と

いうことを聞いています。これをもとに作成したのが図3です。これは明治四十五年から昭和五年までを取り上げてみま

図 1



した。ある人が明治三十年生まれとしますと、大正元年には十五歳です。その人は大正に①のように入ってくるわけですが、そこでその人の年齢を②のように引いていくわけです。複数でやりますと、生まれが違いますから、③の線も入ってきますが、その時に相関をとるわけです。

この人が中学のときに、誰それは何歳だったとか、後輩にはどんな人がある、先輩にはどういう人がいるとかです。それから、たとえば五、六歳のときには、どんな事件があったかとか、その人の生まれた所はどんな地域だろうか、都会か田舎か、府県別ではどこであろうか……。

また、明治の人ですから、父親は士族か平民か農民か商工業者かというのも問題になるわけです。

このように行なっていくと、たとえば別の人が、同じ大正十五年なら十五年をとって見て、六歳であったならば、同じ時期を六歳として、どのように受け止めていたのだろうかという事です。たとえば小学校へ上がって、年上の人たちや先生から、ある事についてどのように聞いていたか、自分が十五歳の時には年下の人を、どう扱っていたか、当時はどんなものを読んでいたか、少年雑誌は読んでいたか、どんな本があったか、学校の先生はどうであったか、その先生は明治何年生まれだったか……。

このようなかたちで、ずっとインタビューを重ねているわけです。また、男性だけでは片手落ちになるので、女性についても同じようなインタビューをしています。同じ質問内容であっても、性別によって答がだいぶ違いますから面白いし、女性特有の問題も、どんな先輩女性にあこがれていたか、カッコいい男性とはどうであったか、生理用品は、下着は、衣服は、おしゃれ・ファッションは、ボーイフレンドは、翔んでる友だちは……とか聞くわけです。

日本社会のグロス・トータル

日本社会のグロス・トータルとなると、これはちよつと大変な仕事です。ゆくゆくは、各都道府県別に同じようなことを全部データに入れていきますが、そうす

そうしたインタビューを積み重ねていくと、ローカル・パリエーションがものすごくあります。都会地では東京と大阪は違いますし、地方でも九州と秋田の女性ではだいぶ違う。

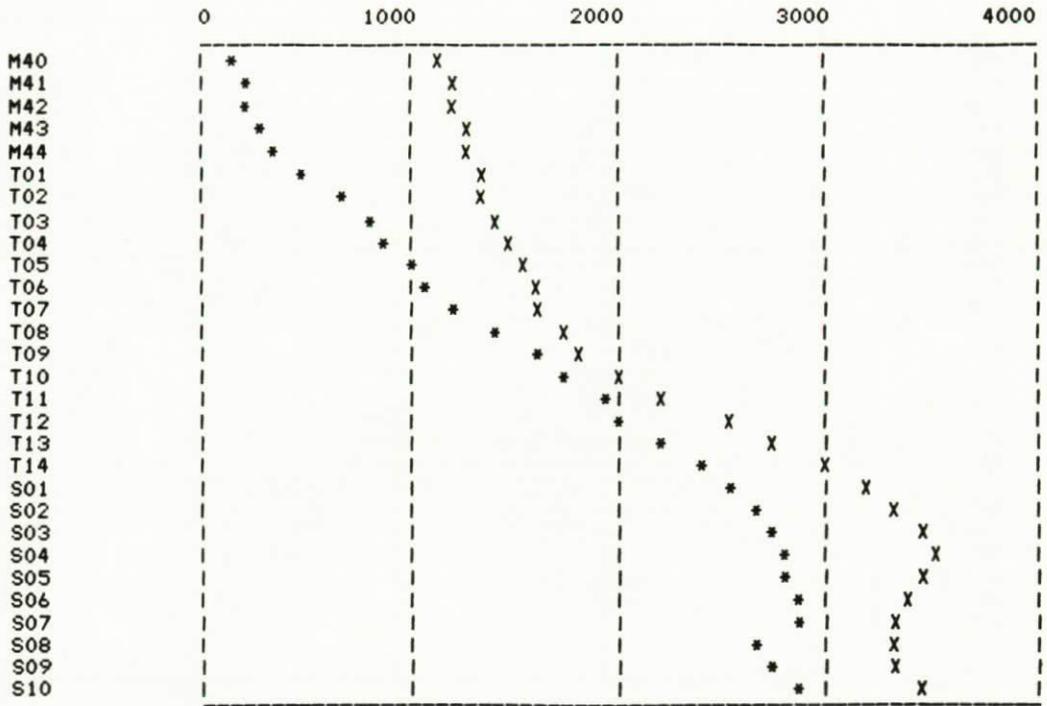
また、生活のイノベーション、たとえば、電話はどうだったか、自動車にはどれくらい乗ったか、電燈はどうだったか、ラジオ・レコードはどうか……、とかも聞かれます。そうしてみると、大正時代に少し見えることは、大阪、東京、京都あたりには、もう都市型大衆社会が出来上がり、かなりハイカラなものが出てきている。ところが、地方では、まだ明治がかなり強いんです。しかし、これからもう少し調べていきますが、今のところの調査を、ざっとコンピューターにかけてみれば、おそらく地方差というものはかなり無くなってきているのではなからうかと思えます。

それから、現在と比べて明治・大正生まれの人たちのほうが、政治に関して、偉い政治家だとか政党に関して敏感であったようです。この点だけではなく、本当に、現在の日本全体が、ある意味で非常に子供っぽくなってきているように思えます。

るとローカル・ギャップか、ずっと平準化してくるわけです。たとえば中学校、高等小学校の就学というのは、どのくらいのタイムラグで普及してくるだろうか

図 2

中学生と電灯
 (*) デンノウ (X) チョウ



comment :
 *

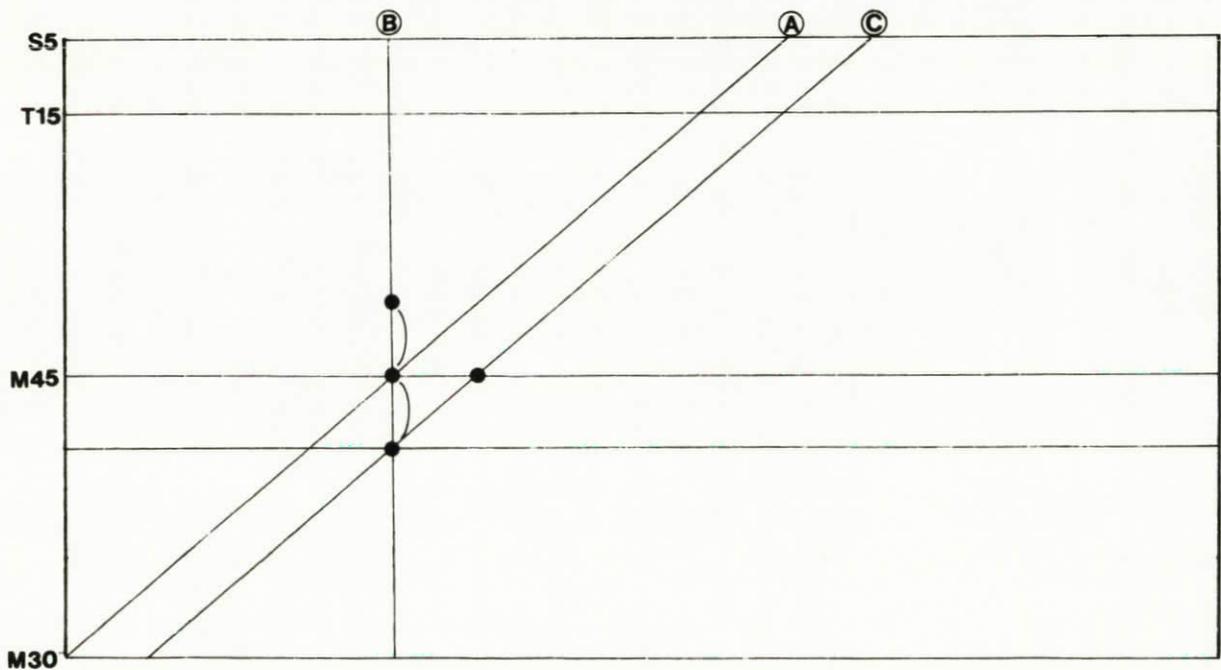
とか、ポカッと一部分だけ空いてしまう
 こともあるんですけど。たとえば信州など
 は進学率が非常に高い。中学校について
 も実業学校についてもそうできて、ずば
 抜けている。
 日本の総人口のグラフをみると、ほと
 んど四十五度で推移している。一応平均

に増えているというわけなんですけど、終
 戦後に見事に突出しているし、「ひのえう
 ま」の年にはどかっと減っています。世
 相をそのまま反映しているんですね。
 また、数値データだけではなく、年表
 も入れてあります。年表というのは、事
 柄が文字で入っているんですけど、これを

どう使うかというところ、なかに分類項目が
 入っています。外交・経済・流行・死
 亡・首相就任とかの項目があり、いろいろ

ろな条件検索も出来るようになっていま
 す。外交なんかでも、第一次世界大戦が
 起こったとか、シベリア出兵があったと

図 3



か、軍縮があつたとか、そうしたことが男女出生率に影響があるだろうかとか、調べられるわけです。昭和二十一年に戦争が終わつて、なんとか落ちて生活が出来るようになった、そして結婚をし、子供が出来る。これが戦後のベビーブームですが、そのときの一人当たりの住居スペースの数なども割り出すことが出来ます。

今後

今後はデータエントリーをもう少し広げていくつもりです。大衆生活の問題であつたら、映画館数の増え方、映画人口の増え方。歌舞伎・芝居小屋・寄席なども入れていく。もちろん娯楽的な要素だけでなく、基本的なもの、国民平均所得や家族数なども入れ、いろいろ相関をとっていきます。

データを入れるということは、問題を発見し、その原因はなにかを考えることです。そうしたかたちで、大正時代のまず一般市民、一般庶民の生活の基礎的なデータと、いろいろな社会の外部要因の影響を、これからも調べていくつもりです。

表 1

＜カ`マコウ`ラ`サ`イカ`ワシスラ＞

(0. 0. 0) F37

	ネン	ヨウチ	ジ`ン	コウトウ	チュウコウシ`シ`マカシ`ワキ`ヨウ	シ`ワホ	シ`ハン	コウジ	コウ	セン	ダイヨウコ	TOTAL				
M40	35	4344	1369	111	40	0	36	17	192	19	1	5	32	7	2	6210
M41	36	5364	632	115	47	0	39	18	192	22	1	5	34	8	2	6515
M42	37	5970	504	118	52	0	40	20	224	23	2	6	33	8	2	7039
M43	38	6335	526	122	56	0	41	24	263	25	2	6	33	7	2	7480
M44	45	6452	571	125	65	0	42	28	302	27	2	7	34	7	3	7710
T01	45	6432	605	129	65	10	45	30	347	28	2	7	34	9	3	7791
T02	47	6466	629	132	68	15	46	34	385	28	2	6	37	10	3	7908
T03	49	6594	670	137	72	18	48	39	445	28	2	6	38	10	3	8159
T04	51	6741	714	142	76	20	51	43	498	27	2	6	39	10	3	8423
T05	54	6924	730	147	81	21	54	46	578	26	2	6	42	10	3	8724
T06	56	7150	735	154	86	23	59	48	677	26	2	7	46	9	4	9082
T07	52	7412	726	159	95	24	65	49	813	25	2	7	49	9	4	9491
T08	59	7577	786	167	103	28	73	51	912	26	2	8	53	10	4	9859
T09	62	7724	909	177	126	26	84	52	996	27	2	9	49	22	4	10269
T10	63	7863	1009	194	154	22	97	53	996	29	2	10	52	26	4	10574
T11	65	7956	1064	219	185	22	111	54	1008	31	2	12	51	35	5	10820
T12	67	8012	1125	247	217	23	126	54	1025	34	2	14	54	39	5	11044
T13	71	8006	1186	273	247	24	151	45	1026	36	3	15	60	43	5	11191
T14	83	7980	1208	297	276	26	171	41	1051	46	3	17	67	47	6	11319
S01	94	8035	1253	317	299	27	194	40	1131	49	3	18	74	52	6	11592
S02	99	8193	1305	332	316	28	211	38	1182	49	3	19	77	57	7	11916
S03	107	8353	1327	344	332	28	228	39	1182	49	3	20	85	62	7	12166
S04	115	8537	1324	349	340	28	244	37	1227	47	3	20	87	68	8	12434
S05	122	8784	1329	346	342	27	253	36	1277	44	3	21	90	70	8	12752
S06	127	9069	1313	336	336	26	256	36	1272	39	3	21	90	70	9	13003
S07	129	9314	1400	329	337	25	262	38	1271	37	3	21	90	70	9	13335
S08	134	9480	1555	327	347	25	277	40	1272	33	3	20	90	71	10	13684
S09	143	9613	1620	331	364	25	299	44	1282	30	3	19	94	71	10	13948
S10	144	9792	1633	341	384	28	334	64	1902	30	3	18	97	71	10	14851

comment : タンイ=1000ニン 1907-1935
f3,4,6,5,4,4,4,4,5,4,4,4,4,4,6,

* ネン=年, ヨウチ=幼稚園, ジン=尋常小学校, コウトウ=高等小学校, チュウ=中学校, コウジ=高等女学校, ジッカ=実科高等女学校, ジツギョウ=実業高校甲と乙, ジツホ=実業補修学校, シハン=高等師範学校, コウ=高等学校, セン=専門学校, ダイ=大学, ヨウゴ=盲学校, ろう学校および養護学校。

FORUMS FORUM

いことの基本的原因は、日本人の意識の中の「社会」に対する戸惑いにある、とする、未来工学研究所副理事長、そしてトヨタ財団専務理事、林雄二郎氏の「国際社会の中における民間財団の役割」と題した講演をもとに、

多角的な論議が展開されていた。
なお、今回の出席者は、大来佐武郎、木田宏、中根千枝、中村貢、松山幸雄、ローベル・J・パロン、(敬称略)以上六名の方でした。



第9回 大来佐武郎部会

昭和57年5月13日

「社会とは何か」ということは、子供でも知っていることのように思われますけれども、私達現代人でも意識の底にはまだ戸惑いがあるのではないかと。イメージとして反射的に浮かんでこないところがありますね。そこで民間財団が、国際社会の中でどういう活動をすべきかということが、問題になってくるのです(林氏談)。

現代の日本に純正の第三セクター(民間の非営利活動をするもの)としての活動が少な

第12回 加藤芳郎部会

昭和57年4月15日

東海道新幹線の営業開始以前からすでに、安全、快適、低公害の超高速輸送機関の研究・開発が始まっていた。今回は、「リニアモーターカー」と題し、海外からも注目を浴びている日本の自主開発の成果、超電導磁気浮上鉄道について、日本国有鉄道副技術長である京谷好泰氏を迎えて、会を進めた。

昭和五十四年十二月十二日、最高速度時速

五百七十七キロを記録し、今秋には有人実験も計画されているリニアモーターカー。その推進、浮上の原理、外部からエネルギーを供給しないでよい永久電流モードの超電導磁石の構造、ニューヨーク・ロサンゼルスを五十四分、時速九千六百キロでつなぐというスーパー・サブウェイの構想などについて、映画やスライドを使って明快に話が進められていった。

なお、今回の出席者は、加藤芳郎、大山のぶ代、砂川啓介、坪内ミキ子、三橋達也、渡辺文雄(敬称略)、以上の方々でした。

第9回 松本重治部会

昭和57年4月20日

オートボルタ―サハラ砂漠と黄金海岸、象牙海岸の間にある西アフリカ内陸の小さな国。サバンナと呼ばれる大草原地帯を流れるボルダ川上流の貧しい国―そこで通算七年間生活した、東京外国語大学助教授、川田順

造氏を迎え、「文化人類学から見たアフリカ」と題して、部会が行なわれた。

文化人類学者である氏特有の、文化の三角測量という観点から、開発における問題点、未開社会を通しての我々の失われた人間性の再発見、文字を必要としなかった社会におけるコミュニケーションなどについて話が進められていった。会場には、現地の伝統技術が生かされた精巧で丈夫、かつ美しい編みかごが置かれ、氏による三種類のトーキングドラ



第8回 大来佐武郎部会

昭和57年2月26日

日本は国際化しなければいけないとよくいわれるが、国際化には難しい構造的要因があり、それを乗り越えない限り本格的な国際化とはならない。そこで今回は、「日本の国際社会を阻む構造的要因」ということで、東京大学教授の中根千枝先生にお話を伺った。

国際化というのは「ソトへの対応」ととらえることができ、社会的にみた日本人の付添のあり方として、①主流はソトに出ない、②

ムの演奏や、夜の昔話の情景の録音が流れて、アフリカの雰囲気をも少し出していた。

なお、今回の出席者は、松本重治、前田陽

第7回 加藤秀俊部会

昭和57年3月5日

吉備高原上の村には、中世社会のしくみを踏襲した生活例が少なくない。

現在も、近世以降の行政区分による自治組織よりも中世の開墾集団を中心にした血縁・地縁組織が村（むら）の方向を決定する場合がしばしばある。その基本的血縁、地縁組織

中枢はソトの仕事に直接たずさわらない、③ソトとの接点にはマージナル・マンが当たる、④ソトに出ている者の立場は強い。また、社会的構造の観点からみると、①ソトと連結しうる顕著の部分が形成されにくい、②個人を結び目としたネットワークよりも集団の求心性が強い。ということがある。

なお、今回の出席者は、大来佐武郎、河合三良、北原秀雄、木田宏、小林陽太郎、滝田実、中村貢、林雄二郎、松山幸雄、(敬称略)でした。

一、村上兵衛、そして国際文化会館理事長特別補佐の加固寛子、(敬称略)の方々でした。

が荒神講(荒神組)である。

今回は岡山県小田郡美星町の実例を示しながら、村(むら)の実状と将来方向を考えることにした。

報告内容としては、村の成立と生産基盤、産土荒神の式年祭、共有林の利用、都市社会との接触、などである。

なお、今回の報告者は、近畿日本ツーリスト(株)日本観光文化研究所事務局長の神崎宣武氏、出席者は、加藤秀俊、舛田忠雄、宮田登、宮本千晴、(敬称略)でした。



『ノーメンクラトゥーラ』

—ソヴィエトの赤い貴族—

M.S. ヴォスレンスキー著

佐久間穆・船戸満之共訳

中央公論社



ソ連は、常に、不可解な国である。
「君は、永い間、モスクワ特派員をしていたのだから、ソ連のことなら、なんでも知っているだろう」と聞かれて、私は、いつも、恥ずかしい思いばかりしているのである。
モスクワにいた頃。そんな悩みを、在ソ生活35年という、UPI通信のS記者に、打ち明けたことがあった。S記者は戦前からの特派員で、夫人はロシア人である。その時、S

記者は、こういつて私を慰めてくれた。
「私だって、わからないことばかりだよ。しかし、そのわからないことが、君たちより、少し、少ないだけかな。」
ソ連を理解する秘けつは、一日でも永く現地に滞在することを、ロシア人と外国人との間にある、目に見えない壁を、突き破ることであるが、後者はとくに難かしい。

その点、S記者は、長期間在勤し、ロシア人と結婚していることよって、「壁」の向う側の情報を、われわれよりは、はるかに容易に入手できたし、確認もできたようだ。

ミハイル・ヴォスレンスキーの「ノーメンクラトゥーラ」(ソビエトの赤い貴族)を読んだ、私は、そんな古い話を思い出した。

この本の中には、これまでソ連を動かしてきたエリートの「正体」が、詳しく暴露され

2001年文庫

●加藤芳郎部会 黒川和哉さん

NHKディレクター



私、「連想ゲーム」の仕掛人(出題担当のディレクターの異称)を足掛け6年なり、わいにしてまいりました。

従って加藤さんのおつきあいは、数多いこれまでの仕掛人の中で、一番長いことになります。

ところで私、生まれも育ちも宇都宮市、なまりはともかくとして、アクセントにはお手あげ(もつとも、本人あまり直す気もない)「アクセント音痴」を自認しています。

ところがです。なな、なんと!?あの「連想ゲーム」の加藤さんが、「アクセント音痴」

新メンバー紹介

何んという親近感……。

そして驚くなかれ、加藤さんは真正銘の東京は下町の生まれ。ほんとの東京の人は、アクセントは駄目なんですって。

私、勇気百倍、矢でも鉄砲でも持ってこいってなものです。

「連想ゲーム」の面白さの秘密、実は負け惜しみを含めて、アクセント音痴のなせるわざが多分にあるのです。

さて、「連想ゲーム」のキャプテンの役割を私流に例えれば、キャプテンは板前さん。解答者はその料理を食べるお客さん。そして

ている。ソ連で、エリートはどのようにして生れるか。そのエリートたちは、どのような生活をしているか。私も、ある程度は知っていたし、また、実際に、自分の眼で、見てきたことも沢山ある。しかし、この本を読んで、さらに多くのことを知ることができたし、また、「やっぱりそうだったのか」と、永い間の疑問を解くことができて、興味深かった。

私にとって、つねに悩みのタネであった、目に見えない壁の向う側を、のぞき見ることができたような気持ちである。
「新しいソ連を知るためには、古いソ連を学ぶことだ」と教えられた。ポスト・ブレジネフを探るためにも、この手は参考になると思う。

吉川 光——NHK整理担当部長/国際交流研究部会

私ども仕掛人は、材料を仕入れる人。

板前さんの包丁さばきで、料理はどうにもなるというわけです。ネタが少々悪くても、そこはイタさんの腕で——。

しかし、何んてつたってネタが勝負です。
仕掛人ここにあり

● 加藤芳郎部会

松平定知さん

NHKアナウンサー



昭和19年11月7日生まれ。早稲田大学卒。昭和44年。NHK入局。NHK高知放送局に5年間勤務。49年より、東京アナウンス室。教育TVの〈大学講座・ケインズ経済学〉を半年。ラジオ第一放送の〈みんなの茶の間〉を3年。総合TVの〈昼のプレゼント〉を2年。更に、〈朝のニュースワイド・スポーツコーナー〉と〈歌のビッグ・ステージ〉を経て、去年4月から〈連想ゲーム〉と〈いっと6けんII関東ローカル〉を担当。至現在。12年間やってきて、今、思うのは、内容によって細い情報の処理法に違いこそあれ、番組の根っこは、みな、同じだと云うこと。どんな番組でも、そこに存在するのは、結局は

「自分でしかない」と云うことです。だから、俺がオレがと、「自分を出すこと」に腐心するのではなく、どんな場合でも、いかにして、自分であり続けるか」に、今後も、心を尽していること、思っています。それから、「事実」などと云うと大袈裟ですが、「花が綺麗ですわ」と、世間一般の人の等しく認める程度の、常人としての感覚。内容の理解とか、取材のあるなしとは殆んど関係のない、生活人としての、通常の物の見方、感じ方に、欠落がない様にと念じています。また、文法上、正確ではあっても、事実と余りにもかけ離れた認識の上で、殊更、無感動に、或いは逆に、過度に感情を移入して、言葉を弄ぶことがな

い様にと、戒めています。事実の認識が稀薄では、事実を伝えることは出来ない筈ですし、個性も、人間性も、滲み出す余地すら、ない筈ですから。

——などと云うことを絶えず考えながら、修業僧の様な毎日を送っております。酒、グビグビ。カラオケ、バンバン。ギター、まああ。テニス、週一。草野球、月一。詩吟、時偶。禁煙、八ヶ月継続中。バクオ、無し。賞罰、無し。妻は有ります。以上。

● 加藤秀俊部会

神崎宣武さん

近畿日本ツーリスト ㈱日本観光文化研究所 事務局長



一九四四年六月、岡山県生まれ。中学、高校を通じて野球部に在籍、ただひたすらに「巨人の星」を目指していた。しかし夢及ばず、武蔵野美術大学へ。今度はデザイナーを目指し、宮本常一先生に出会い、また方向転換して民俗学・民族学に深くかわかることになった。

一九六七―六八年、「西部ネパール民族文化調査隊」に参加して西ネパール奥地のチベット人集落で越冬。この時、六名の隊員中最年少で、田村善次郎（現在武蔵野美術大学教授）、山田晋（筑波大学教授）、黒田信一郎（北海道大学助教授）ら先輩隊員らの影響を強く受ける。また、ラマ教仏画師に弟子入をしし

て、蓼茶羅製作の修業をした。一応、免許皆伝となったが、以後の修業を怠り、この時の調査記録もまだまとめていない。

その後、一九六九年から日本観光文化研究所に所属、宮本先生の指導のもとに民具の調査・収集を行なう。宮本先生の提唱は、ただ民具を集めて用途を知るだけでなく、製作技術や流通機構の体系づけができるように調査収集をするべきだというものであった。あらかじめ筋だてをしったり好みをするのではなく、悉皆的な調査や多目的収集を義務づけられたのである。その結果、収蔵スペースの制限で頭うちの状態であるが、現在、陶磁器や竹細工などの収蔵資料が約一八〇〇点とな

った。宮本先生が亡くなったいま、この民具類に何を語らせるべきか、それを真面目に考えなくてはならないと思っている。

現在、近畿日本ツーリスト日本観光文化研究所事務局長。郷里では神主でもある。神主業は家代々のもので秋から春までが多忙、湯立て神事や託宣神楽などまだ修練すべき技術が多い。

著書に『やきもの風土記』（マツノ書店）、『町の暮しとなりたち』（共著・ぎょうせい）、『暮しの中のやきもの』（ぎょうせい）など。

FORUMS

FORUM

21世紀フォーラム／部会メンバー

発起人

内田 忠夫 東京大学教養学部教授
加藤 秀俊 学習院大学法学部教授
加藤 芳郎 漫画家 漫画家協合理事長
茅 誠司 東京大学名誉教授 日本学士院会員
小松 左京 作家
東畑 精一 東京大学名誉教授 (財)政策科学研究所顧問
中山伊知郎 (故人)
松本 重治 (財)国際文化会館理事長
向坊 隆 原子力委員会委員長代理 前東京大学総長

加藤秀俊部会 テーマ＝日本の村の将来

川喜田二郎 筑波大学教授
神崎 宣武 近畿日本ツーリスト(株) 日本観光文化研究所事務局長
佐々木高明 国立民族学博物館教授
舛田 忠雄 山形大学助教授
宮田 登 筑波大学助教授
宮本 千晴 近畿日本ツーリスト(株) 日本観光文化研究所所員
米山 俊直 京都大学教養学部教授

加藤芳郎部会 テーマ＝日本のサーバイバル

加藤 芳郎 漫画家 漫画家協合理事長
青空うれし テレビタレント
青空はるお テレビタレント
天地 総子 歌手 タレント
大山のぶ代 俳優
大和田 獏 俳優

岡江久美子 俳優
加治 章 NHKアナウンサー
川野 一宇 NHKアナウンサー
久米 昭二 NHKディレクター
黒川 和哉 NHKディレクター
小島 功 漫画家
砂川 啓介 俳優
鈴木 義司 漫画家 漫画家集団所属
植 ふみ 俳優
坪内ミキ子 俳優
富田 純孝 NHKディレクター
中田 喜子 俳優
墓目 良 俳優
松平 定知 NHKアナウンサー
水沢 アキ 俳優
三橋 達也 俳優
ロミ 山田 歌手 俳優
渡辺 文雄 俳優

茅 誠司部会 テーマ＝明日のエネルギー

茅 誠司 東京大学名誉教授 日本学士院会員
有澤 廣巳 東京大学名誉教授 (社)日本原子力産業会議会長 日本学士院院長
生田 豊朗 (財)日本エネルギー経済研究所所長
稲葉 秀三 (財)産業研究所理事長
内田 忠夫 東京大学教養学部教授
大島 恵一 (財)工業開発研究所所長
岡村 和夫 NHK解説委員
尾関 通允 著述業 自由学園講師
金森 久雄 (社)日本経済研究センター理事長
木元 教子 放送キャスター

五代利矢子 評論家
斎藤 志郎 日本経済新聞社アジア総局長
三枝佐枝子 評論家 商品科学研究所所長
高原須美子 評論家
富舘 孝夫 (財)日本エネルギー経済研究所研究部長
中村 貢 朝日イブニングニュース社代表取締役社長
永井陽之助 東京工業大学教授
橋口 收 公正取引委員会委員長
深海 博明 慶応義塾大学経済学部教授
伏見 康治 名古屋大学・大阪大学名誉教授 日本学術会議会長
松根 宗一 大同特殊鋼相談役 (社)経済団体連合会常任理事
村田 浩 日本原子力研究所顧問

小松左京部会 テーマ＝大正文化研究

小松 左京 作家
河合 秀和 学習院大学法学部教授
中村 隆英 東京大学教養学部教授
大来佐武郎 内外政策研究会会長 (社)日本経済研究センター理事・顧問
江藤 淳 評論家 東京工業大学工学部教授
河合 三良 (財)国際開発センター理事長
北原 秀雄 前駐仏大使 (株)西武百貨店顧問
木田 宏 国立教育研究所所長

小林陽太郎 富士ゼロックス(株)社長
篠原三代平 成蹊大学経済学部教授
滝田 実 アジア社会問題研究所理事長
堤 清二 (株)西武百貨店会長 (株)西友ストアー社長
中根 千枝 東京大学教授 国際人類学民族学会副会長
中村 貢 朝日イブニングニュース社代表取締役社長
林 雄二郎 (財)未来工学研究所副理事長
松山 幸雄 朝日新聞社論説委員
ロベールJ・パロン 上智大学比較文化学科学科教授

松本重治部会 テーマ＝二十一世紀における日本人の生き方

松本 重治 (財)国際文化会館理事長
川喜田二郎 筑波大学教授
永井 道雄 朝日新聞社客員論説委員
中村 元 東方学院院长 東京大学名誉教授
本間 長世 東京大学教養学部教授
前田 陽一 (財)国際文化会館専務理事 東京大学名誉教授
横 文彦 東京大学工学部教授
武者小路公秀 国連大学プログラム担当副学長
村上 兵衛 作家
柳瀬 睦男 上智大学学長

国際交流研究部会

遺山 一 ダーク・ダックス 歌手
喜早 哲 ダーク・ダックス 歌手

佐々木 行 ダーク・ダックス 歌手
高見沢 宏 ダーク・ダックス 歌手
石井 好子 歌手
小林 道夫 チェンバロ奏者
佐賀 和光 建築家
佐々木信也 スポーツ・キャスター
千 宗室 裏千家家元
堤 清二 (株)西武百貨店会長 (株)西友ストアー社長
富田 勲 シンセサイザー作曲・演奏家
服部 克久 作・編曲家
松原 秀一 慶応義塾大学文学部教授
三村 忠良 日本国有鉄道資料局計画課長
ミルトン・L・ラドミルビッチ アメリカ公立アメリカネージャー

事務局

吉川 光 NHK整理部担当部長
山城 祥二 芸能山城組組頭 筑波大学講師
村上 兵衛 作家
笠井 章弘 (財)政策科学研究所理事長
生田 豊朗 (財)日本エネルギー経済研究所所長
依田 直 東京電力(株)取締役企画部長
山田 嗣 (財)政策科学研究所主任研究員
斎藤 みな (株)二十一世紀企画
松葉千恵美 (株)二十一世紀企画
村野 京一 (株)二十一世紀企画

(各部会とも五十音順)



◆夏へ◆

21世紀フォーラム 第十三号

発行 一九八二年六月三十日

発行人 笠井章弘

発行所

21世紀フォーラム事務局

東京都千代田区永田町二丁目四十一番

フレンドビル6階

(株)二十一世紀企画内

電話〇三五〇八一六二五

編集

21世紀フォーラム事務局

印刷

(株)東京印書館

